令和4年度

# 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

# 目　　次

はじめに　（大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長　山倉　健嗣）　……　1

Ⅰ　大学ＦＤ活動状況

1　全学 FD 活動

（1）授業担当者懇談会実施報告　……　2

（2）授業改善のためのアンケート実施概要　……　3

（3）授業改善のためのアンケート集計結果　……　6

2　各学部の令和４年度 FD 活動の概要報告

（1）家政学部　……　36

（2）文学部　……　38

（3）社会情報学部　……　40

（4）人間関係学部　……　42

（5）比較文化学部　……　44

（6）短期大学部　……　46

3　人間文化研究科の令和４年度 FD 活動　……　48

Ⅱ　全学 FD 講演会・研修会

1　講演会・研修会の内容及びアンケート結果

（1）障害学生に対する合理的配慮の実際　……　72

－改正障害者差別解消法の施行に向けて大学が取り組むこと－

（2）学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業　……　86

－大学におけるＰＢＬ－

①　被服学科における創造性あるＰＢＬと波及効果－学生自らが動くゼミナール－

②　企業人とともに学ぶ社会連携事例－リーダーシップ教育－

参考資料

1　大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程　……　98

2　令和４年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿　……　100

はじめに

令和4年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和４年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和４年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和４年度の授業は対面８割、オンライン２割で授業が行われました。令和２年度、３年度とは異なり、緊急事態宣言の発令に影響されることなく、授業は進行しました。対面授業とオンデマンド授業が併存する状態が定着してきました。教職員、学生が協力し、特段の問題もなかった１年でした。今までの経験の蓄積によりスムーズに授業は行われました。

学生の授業評価は昨年同様、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。今年度も昨年同様、Webで授業評価を実施しました。回収率を向上するという目標でした。教員・教育支援センターの度重なる督促などの努力を行ったのですが、今年度は４０％を切る結果となりました。回収率向上は今後の重要課題の一つと考えます。令和４年度の授業評価も昨年度のアンケート項目を継続し、経年変化がわかるようにしています。学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部ごとの違いを知ることもできますし、授業時間以外の学修時間は少ないという課題は今も続いています。

令和４年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会を前期後期の２回無事に昨年同様オンラインで開催することができました。前期は７月２２日に京都大学学生総合支援機構准教授村田淳先生を講師としてお迎えし、「障害学生に対する合理的配慮の実際―改正障碍者差別解消法の施行に向けて大学が取り組むこと」というテーマでご講演をいただきました。具体的例をもとに合理的配慮の必要性・意味が理解できる講義でした。後期は１２月１６日に「学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業―大学におけるPBL」というテーマで行いました。前半は本学家政学部被服学科教授吉井健先生による講演「被服学科における創造性あるPBLと波及効果」、後半は株式会社イノベスト代表取締役松岡洋祐氏による講演「企業人とともに学ぶ社会連携事例」でした。PBLを展開するうえで、学生の参加を通じた学びにつなげること、企業との連携の進め方について実践的な示唆をいただきました。ご講演いただきました３人の先生に感謝申し上げます。各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆が与えられたとの報告をいただいています。

令和５年度もアフターコロナの状況で、FD活動の必要性は高まっていくでしょう。令和４年度の経験・実績を踏まえ、本学の教育内容・方法の改善を引き続き図っていきます。

# Ⅰ　大学ＦＤ活動状況

## １　全学 FD 活動

### （１）授業担当者懇談会実施報告

①概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて、授業担当の教員(専任及び非常勤)による学生指導に関する各位の所見・抱負など活発な意見交換が行われた。

②実施内容（学科・専攻別懇談会）

千代田キャンパス

| | |
|---|---|
| 家政学部 被服学科 | 対面:5月7日(土) |
| 家政学部 食物学科 | 対面:5月7日(土) |
| 家政学部 児童学科 | 対面:5月7日(土) |
| 家政学部 ライフデザイン学科 | 対面:5月7日(土) |
| 文学部 日本文学科 | オンライン:5月7日(土) |
| 文学部 英語英文学科 | オンライン:5月14日(土) |
| 文学部 コミュニケーション文化学科 | オンライン:5月7日(土) |
| 社会情報学部 社会情報学科社会生活情報学専攻 | オンライン:5月7日(土) |
| 社会情報学部 社会情報学科環境情報学専攻 | オンライン:5月7日(土) |
| 社会情報学部 社会情報学科情報デザイン専攻 | オンライン:5月7日(土) |
| 比較文化学部 比較文化学科 | オンライン:5月7日(土) |
| 短期大学部 家政科家政専攻 | 対面:5月7日(土) |
| 短期大学部 家政科生活総合ビジネス専攻 | オンライン:5月20日(金) |
| 短期大学部 家政科食物栄養専攻 | 対面:5月7日(土) |
| 短期大学部 国文科 | オンライン:5月14日(土) |
| 短期大学部 英文科 | オンライン:5月20日(金) |
| 全学共通科目(基礎科目・教養科目) | 対面:5月7日(土) |
| 教職課程 | オンライン:5月12日(木) |
| 図書館学課程 | オンライン:5月28日(土) |
| 博物館学芸員課程 | オンライン:5月7日(土) |

多摩キャンパス

| | |
|---|---|
| 人間関係学部 人間関係学科社会学専攻 | オンライン:5月21日(土) |
| 人間関係学部 人間関係学科社会・臨床心理学専攻 | オンライン:5月21日(土) |
| 人間関係学部 人間福祉学科 | オンライン:5月21日(土) |

## （２）授業改善のためのアンケート実施概要

①概要

前・後期において、それぞれ授業改善のためのアンケートを実施した。
実施科目数及び回答学生数は次のとおりである。

実施科目数　前期（学期末）: 1,468 科目
　　後期（学期末）: 1,389 科目
回答学生数　前期（学期末）: 21,136 名（受講者数 62,033 名　回答率 34.07%）
　　後期（学期末）: 19,061 名（受講者数 56,512 名　回答率 33.73%）

②実施時期

前期（学期末）令和 4 年 7 月 11 日（月）～7 月 23 日（土）
後期（学期末）令和 4 年 12 月 12 日（月）～12 月 24 日（土）

③実施方法

大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」（UNIPA）で実施した。

④調査項目　（４～５ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。
**分類:** 全体、学部別、学生所属別、学年別、授業別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別
また、集計結果は、UNIPA 上で授業担当者に公開している。

123456789　科目A（教員B）

## 令和4年度（前期）大妻女子大学　「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。 率直に回答してください。

1．授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2．授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞
※PPT：PowerPointの略　（必須）

- ☐ 対面
- ☐ オンデマンド型：テキスト（教材）提示
- ☐ オンデマンド型：スライド（PPT）
- ☐ オンデマンド型：音声データとテキスト（PPT／PDF等）
- ☐ オンデマンド型：動画視聴（YouTube等）
- ☐ その他

3．授業はシラバスに基づいて行われていましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい／確認していない

4．教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい

5．授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞　（必須）

- ☐ 予習復習（アンケートなど）
- ☐ 小テスト
- ☐ レポート提出
- ☐ 中間／期末テスト
- ☐ コースコンテンツ
- ☐ プロジェクト
- ☐ コースニュース
- ☐ 掲示板
- ☐ 個別指導コレクション
- ☐ レスポン
- ☐ その他
- ☐ manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- ☐ 活用していない

6．質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。
※オンライン上での質問や意見等も含みます。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい／発言の機会がなかった

7．この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。
※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。　（必須）

○ ⑤3時間以上　○ ④2時間以上3時間未満　○ ③1時間以上2時間未満
○ ②30分以上1時間未満　○ ①30分未満　○ ⓪していない

8．この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい

9．あなたは授業に満足しましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

回答

123456789　科目A（教員B）

## 令和4年度（後期）大妻女子大学　「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。 率直に回答してください。

1．授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2．授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞
※PPT：PowerPointの略　（必須）

- ☐ 対面
- ☐ オンデマンド型：テキスト（教材）提示
- ☐ オンデマンド型：スライド（PPT）
- ☐ オンデマンド型：音声データとテキスト（PPT／PDF等）
- ☐ オンデマンド型：動画視聴（YouTube等）
- ☐ その他

3．授業はシラバスに基づいて行われていましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい／確認していない

4．教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい

5．授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞　（必須）

- ☐ 予習復習（アンケートなど）
- ☐ 小テスト
- ☐ レポート提出
- ☐ 中間／期末テスト
- ☐ コースコンテンツ
- ☐ プロジェクト
- ☐ コースニュース
- ☐ 掲示板
- ☐ 個別指導コレクション
- ☐ レスポン
- ☐ その他
- ☐ manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- ☐ 活用していない

6．質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。
※オンライン上での質問や意見等も含みます。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい／発言の機会がなかった

7．この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。
※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。　（必須）

○ ⑤3時間以上　○ ④2時間以上3時間未満　○ ③1時間以上2時間未満
○ ②30分以上1時間未満　○ ①30分未満　○ ⓪していない

8．この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい

9．あなたは授業に満足しましたか。　（必須）

○ ⑤そう思う　○ ④ややそう思う　○ ③どちらともいえない
○ ②あまりそう思わない　○ ①そう思わない　○ ⓪わからない／判断しづらい

ご協力、ありがとうございました。

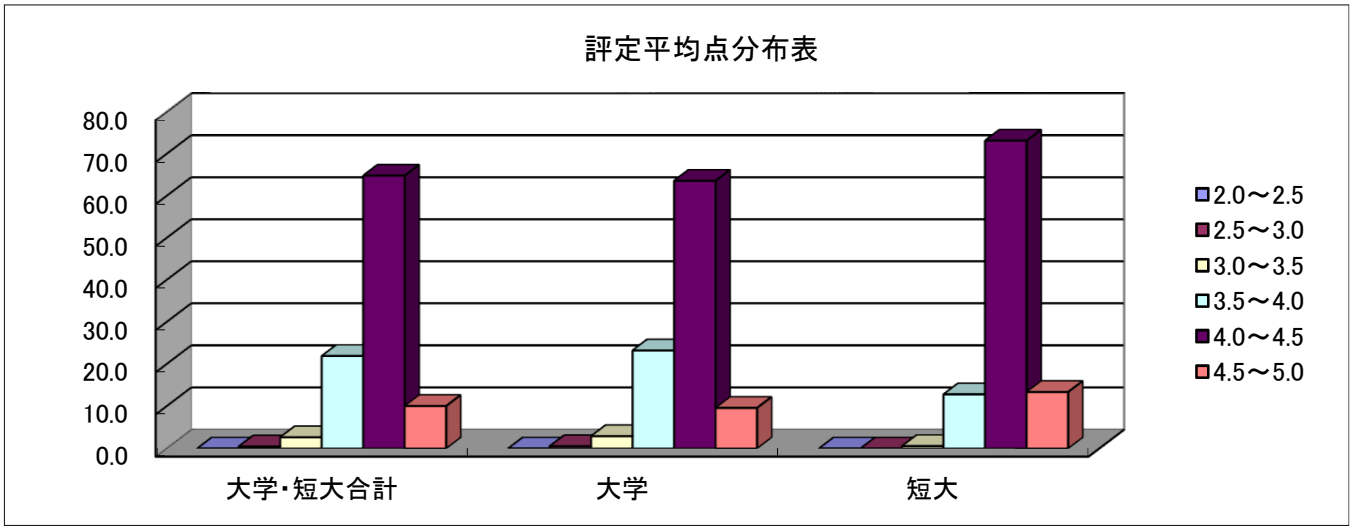
全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

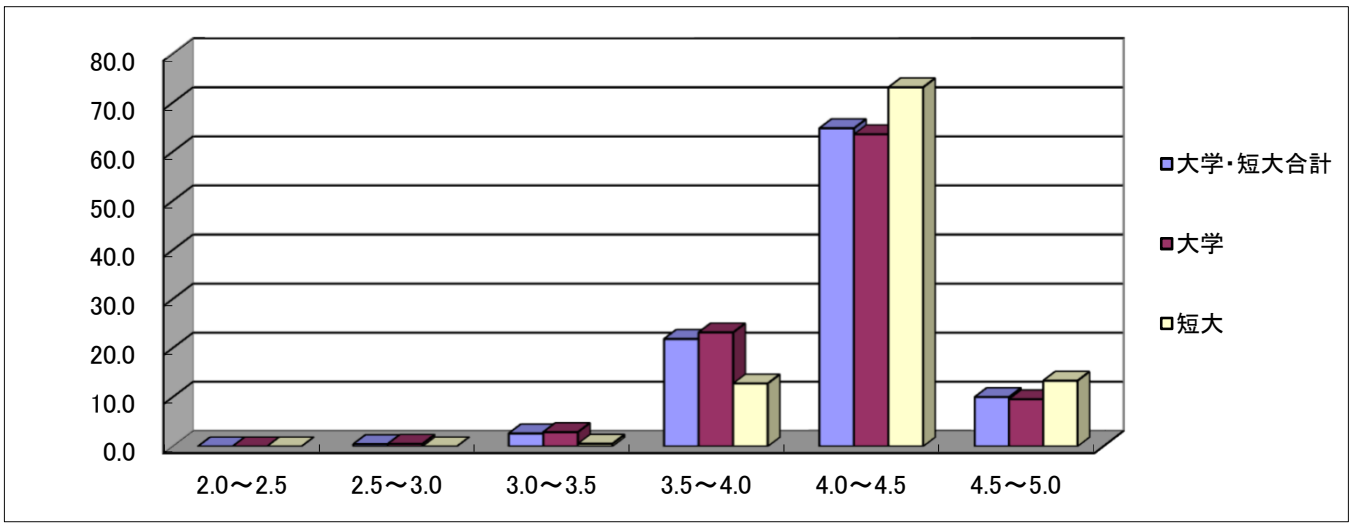
回答

（3） 授業改善のためのアンケート集計結果

## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（全体）

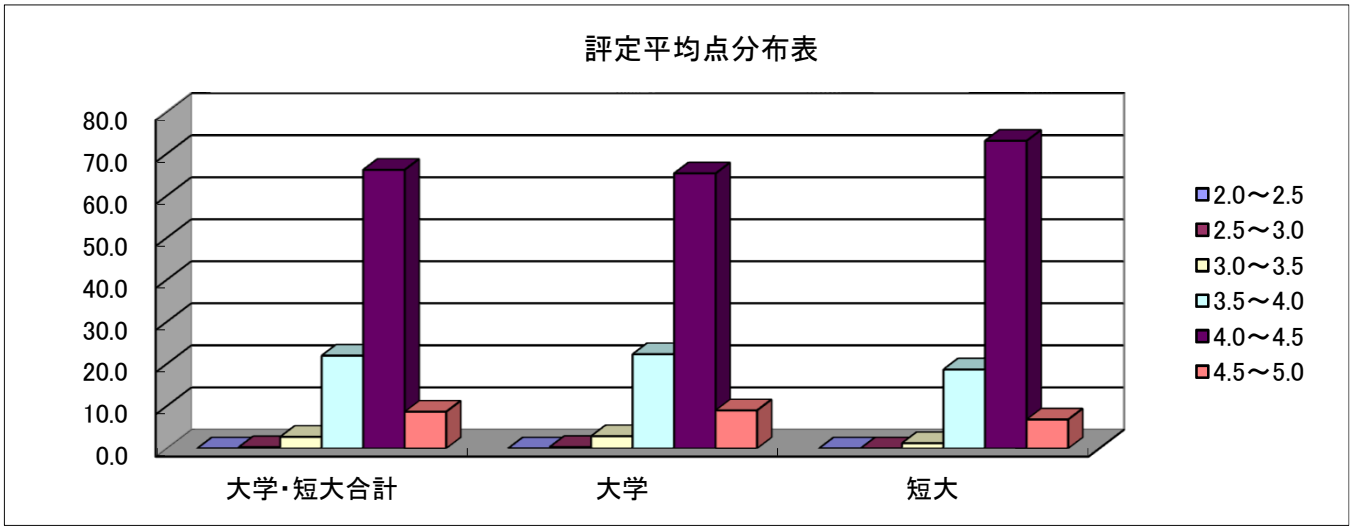
| 平均点 | 大学・短大合計 | | 大学 | | 短大 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目数 | 割合（%） | 科目数 | 割合（%） | 科目数 | 割合（%） |
| 2.0～2.5 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 2.5～3.0 | 7 | 0.5 | 7 | 0.5 | 0 | 0.0 |
| 3.0～3.5 | 39 | 2.7 | 38 | 2.9 | 1 | 0.6 |
| 3.5～4.0 | 322 | 21.9 | 302 | 23.3 | 23 | 12.8 |
| 4.0～4.5 | 952 | 64.9 | 826 | 63.6 | 131 | 73.2 |
| 4.5～5.0 | 148 | 10.1 | 125 | 9.6 | 24 | 13.4 |

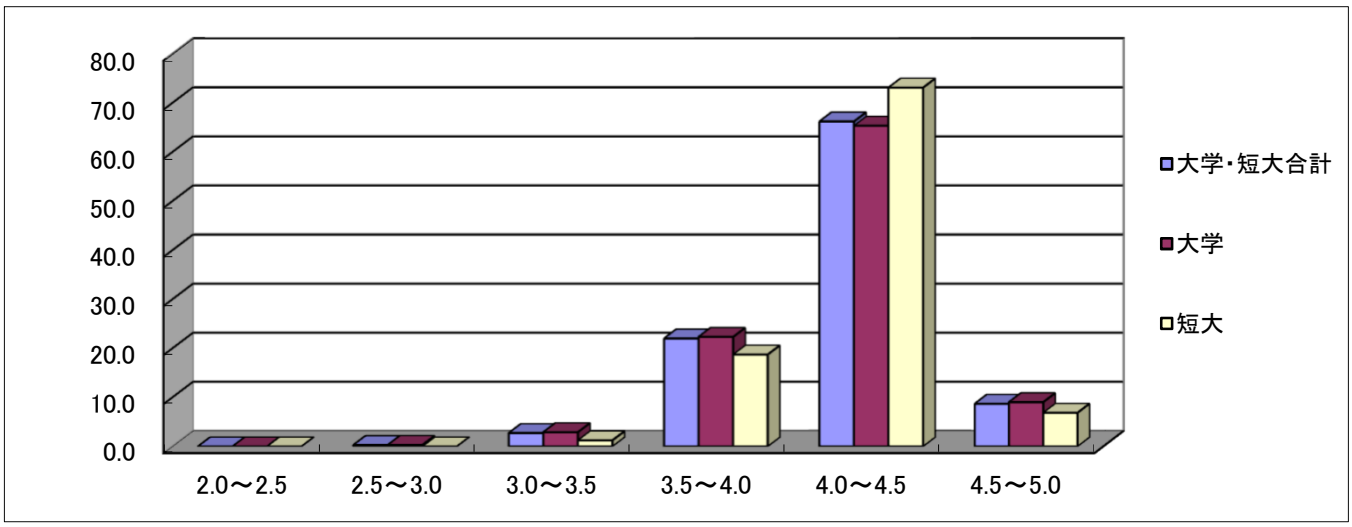


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（全体）

| 平均点 | 大学・短大合計 | | 大学 | | 短大 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目数 | 割合（%） | 科目数 | 割合（%） | 科目数 | 割合（%） |
| 2.0～2.5 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 2.5～3.0 | 4 | 0.3 | 4 | 0.3 | 0 | 0.0 |
| 3.0～3.5 | 38 | 2.7 | 36 | 2.9 | 2 | 1.3 |
| 3.5～4.0 | 306 | 22.0 | 277 | 22.4 | 30 | 18.8 |
| 4.0～4.5 | 920 | 66.2 | 810 | 65.4 | 117 | 73.1 |
| 4.5～5.0 | 121 | 8.7 | 112 | 9.0 | 11 | 6.9 |



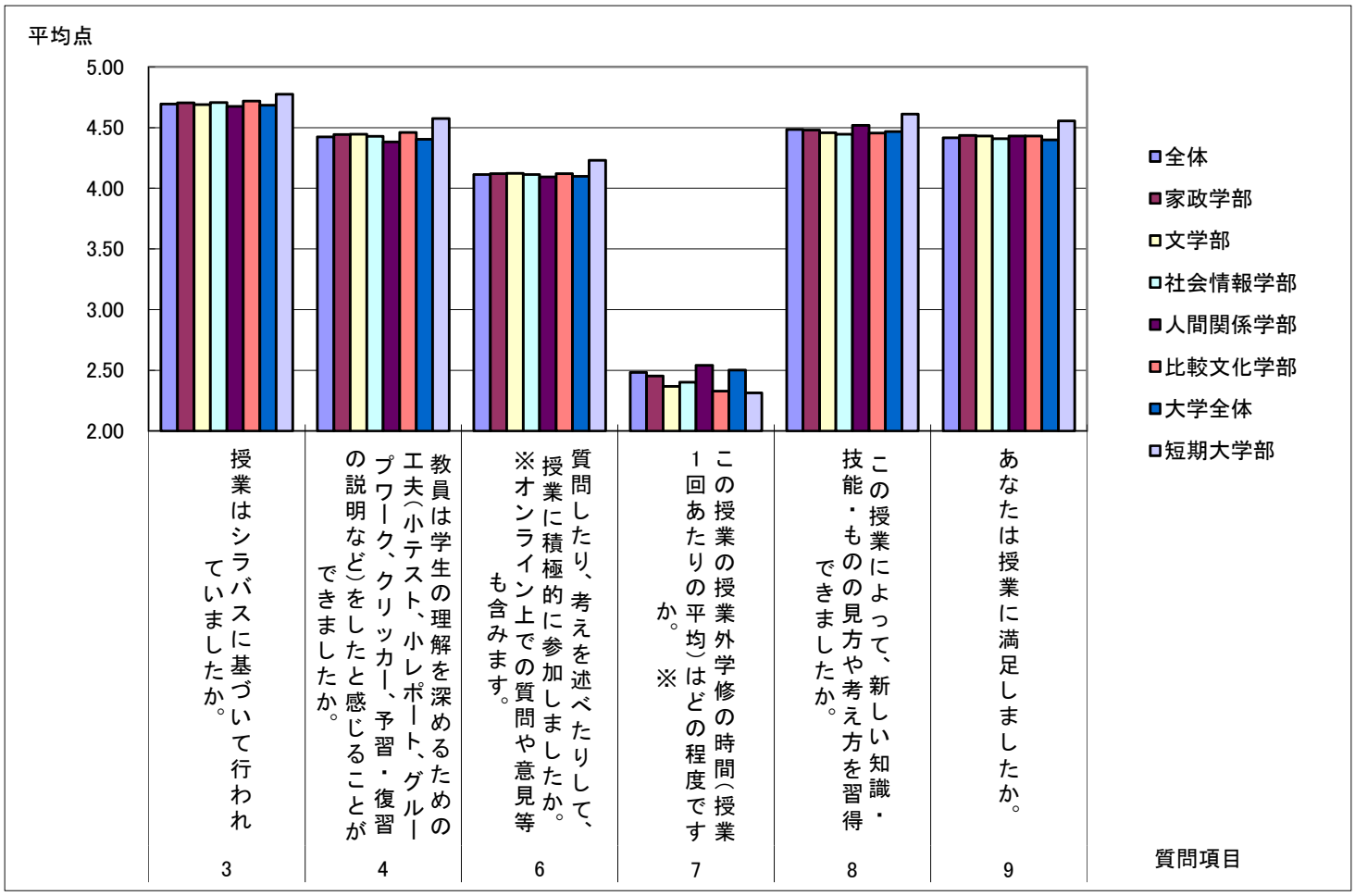
## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（全体及び学部別）

| 対象科目数 | 実施科目数 | 未実施科目数 |
|---|---|---|
| 1,482 | 1,468 | 14 |

| | 全体 | 家政学部 | 文学部 | 社会情報学部 | 人間関係学部 | 比較文化学部 | 大学全体 | 短期大学部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 62,033 | 29,711 | 24,352 | 23,176 | 9,374 | 20,750 | 57,755 | 4,521 |
| 回答者数 | 21,136 | 9,775 | 8,891 | 8,230 | 3,593 | 7,505 | 18,830 | 2,389 |
| 回答率（%） | 34.07 | 32.90 | 36.51 | 35.51 | 38.33 | 36.17 | 32.60 | 52.84 |

| | | 全体 | 家政学部 | 文学部 | 社会情報学部 | 人間関係学部 | 比較文化学部 | 大学全体 | 短期大学部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.69 | 4.70 | 4.69 | 4.71 | 4.68 | 4.72 | 4.68 | 4.78 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.42 | 4.44 | 4.45 | 4.43 | 4.38 | 4.46 | 4.40 | 4.58 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.11 | 4.12 | 4.12 | 4.11 | 4.09 | 4.12 | 4.10 | 4.23 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.48 | 2.45 | 2.37 | 2.40 | 2.54 | 2.33 | 2.50 | 2.31 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.48 | 4.48 | 4.46 | 4.45 | 4.52 | 4.46 | 4.47 | 4.61 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.42 | 4.44 | 4.43 | 4.41 | 4.43 | 4.43 | 4.40 | 4.55 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



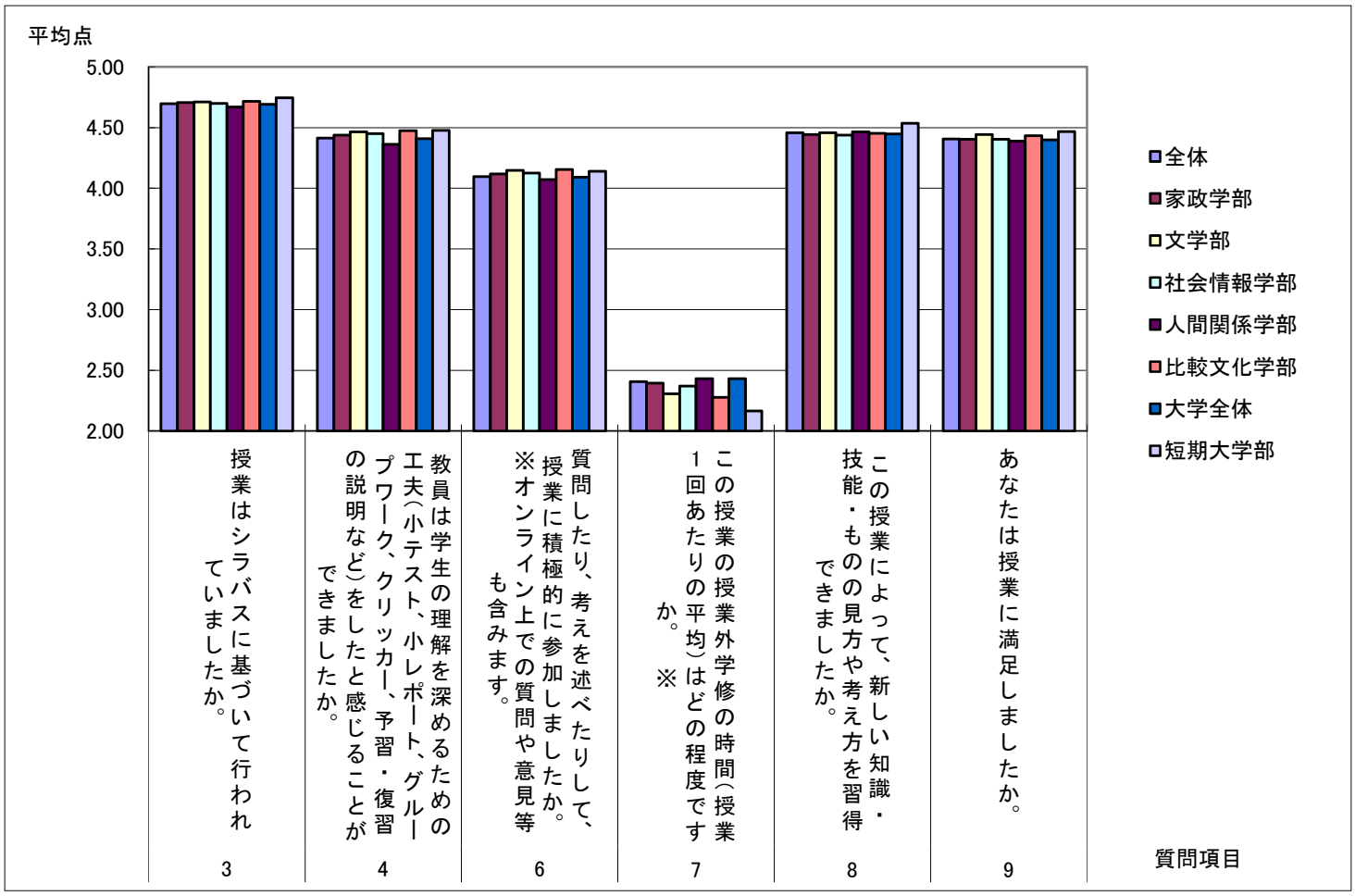
## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（全体及び学部別）

| 対象科目数 | 実施科目数 | 未実施科目数 |
|---|---|---|
| 1,403 | 1,389 | 14 |

| | 全体 | 家政学部 | 文学部 | 社会情報学部 | 人間関係学部 | 比較文化学部 | 大学全体 | 短期大学部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 56,512 | 28,392 | 22,945 | 22,125 | 8,730 | 20,135 | 53,160 | 3,697 |
| 回答者数 | 19,061 | 9,547 | 8,598 | 7,804 | 2,613 | 7,209 | 17,087 | 2,053 |
| 回答率（%） | 33.73 | 33.63 | 37.47 | 35.27 | 29.93 | 35.80 | 32.14 | 55.53 |

| | | 全体 | 家政学部 | 文学部 | 社会情報学部 | 人間関係学部 | 比較文化学部 | 大学全体 | 短期大学部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.70 | 4.71 | 4.71 | 4.70 | 4.67 | 4.72 | 4.69 | 4.75 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.41 | 4.44 | 4.47 | 4.45 | 4.36 | 4.48 | 4.41 | 4.48 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.10 | 4.12 | 4.15 | 4.13 | 4.07 | 4.15 | 4.09 | 4.14 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.41 | 2.40 | 2.31 | 2.37 | 2.43 | 2.28 | 2.43 | 2.16 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.46 | 4.44 | 4.46 | 4.44 | 4.46 | 4.45 | 4.45 | 4.54 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.41 | 4.40 | 4.44 | 4.40 | 4.39 | 4.43 | 4.40 | 4.47 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（学生の所属別）

| 回答者数 | 大被 | 大食 | 大管 | 大児 | 大教 | 大ﾗｲ | 大日 | 大英 | 大ｺﾐ | 大生 | 大環 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 981 | 671 | 509 | 1,136 | 492 | 1,311 | 1,763 | 1,342 | 1,330 | 1,171 | 1,081 |
| | 大情 | 大社 | 大心 | 大福 | 大比 | 短家 | 短ビ | 短食 | 短国 | 短英 | |
| | 1,370 | 1,255 | 1,134 | 1,205 | 2,043 | 540 | 630 | 873 | 212 | 84 | |

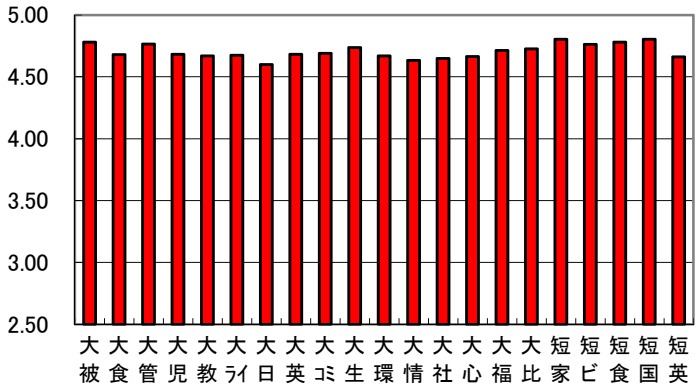
| | | 大被 | 大食 | 大管 | 大児 | 大教 | 大ﾗｲ | 大日 | 大英 | 大ｺﾐ | 大生 | 大環 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.78 | 4.68 | 4.76 | 4.68 | 4.67 | 4.67 | 4.60 | 4.68 | 4.69 | 4.74 | 4.67 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.47 | 4.34 | 4.52 | 4.49 | 4.33 | 4.35 | 4.37 | 4.38 | 4.49 | 4.43 | 4.42 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.23 | 4.07 | 3.97 | 4.25 | 4.01 | 3.87 | 3.99 | 4.13 | 4.19 | 4.13 | 4.17 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.73 | 2.51 | 2.82 | 2.43 | 2.50 | 2.65 | 2.56 | 2.44 | 2.37 | 2.41 | 2.40 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.59 | 4.43 | 4.56 | 4.58 | 4.42 | 4.46 | 4.48 | 4.39 | 4.50 | 4.37 | 4.44 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.52 | 4.38 | 4.51 | 4.50 | 4.39 | 4.39 | 4.41 | 4.32 | 4.44 | 4.34 | 4.40 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

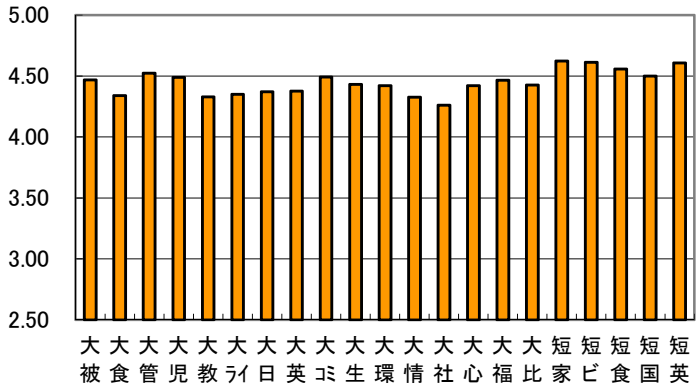
| | | 大情 | 大社 | 大心 | 大福 | 大比 | 短家 | 短ビ | 短食 | 短国 | 短英 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.63 | 4.65 | 4.66 | 4.71 | 4.73 | 4.80 | 4.76 | 4.78 | 4.80 | 4.66 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.33 | 4.26 | 4.42 | 4.46 | 4.43 | 4.62 | 4.61 | 4.56 | 4.50 | 4.61 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.15 | 4.04 | 4.14 | 4.10 | 4.07 | 4.38 | 4.30 | 4.12 | 4.06 | 4.46 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.47 | 2.40 | 2.74 | 2.47 | 2.37 | 2.41 | 2.03 | 2.46 | 2.29 | 2.30 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.34 | 4.50 | 4.52 | 4.54 | 4.44 | 4.70 | 4.66 | 4.53 | 4.55 | 4.70 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.31 | 4.36 | 4.41 | 4.52 | 4.33 | 4.63 | 4.62 | 4.47 | 4.50 | 4.67 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

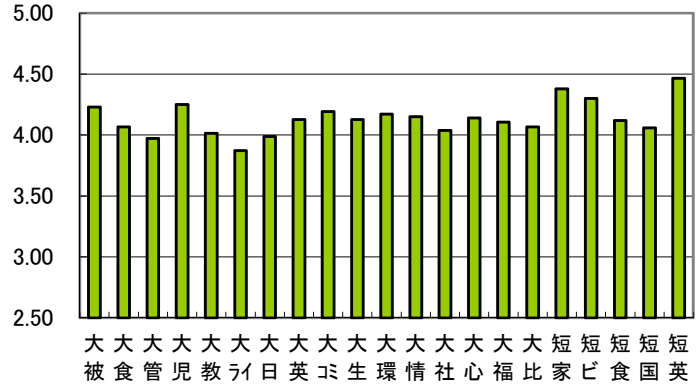
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



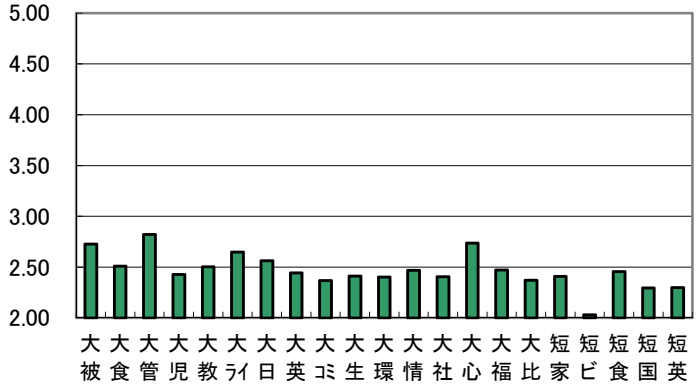

4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



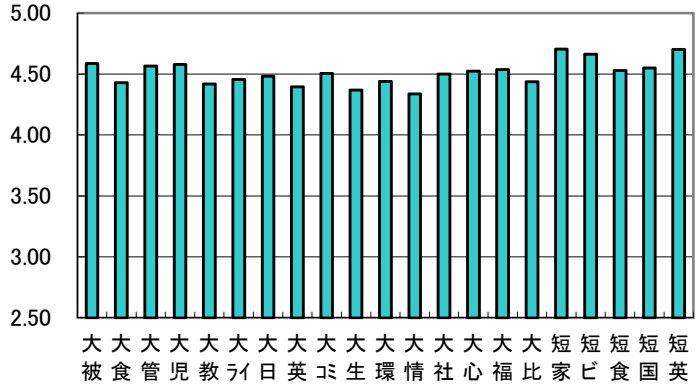

6 授業に積極的に参加したか



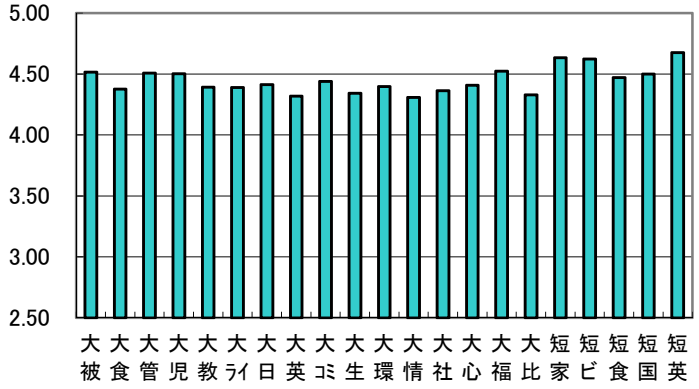

7 授業外学修時間（授業1回あたりの平均）




8 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか




9 授業に満足したか



## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（学生の所属別）

| 回答者数 | 大被 | 大食 | 大管 | 大児 | 大教 | 大ﾗｲ | 大日 | 大英 | 大ｺﾐ | 大生 | 大環 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1,248 | 960 | 448 | 710 | 564 | 1,146 | 1,737 | 1,200 | 1,131 | 1,129 | 836 |
| | 大情 | 大社 | 大心 | 大福 | 大比 | 短家 | 短ビ | 短食 | 短国 | 短英 | |
| | 1,379 | 908 | 803 | 902 | 1,966 | 499 | 389 | 942 | 92 | 71 | |

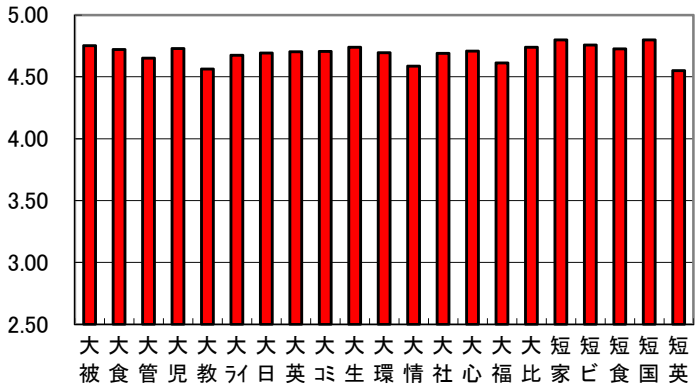
| | | 大被 | 大食 | 大管 | 大児 | 大教 | 大ﾗｲ | 大日 | 大英 | 大ｺﾐ | 大生 | 大環 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.75 | 4.72 | 4.65 | 4.73 | 4.56 | 4.68 | 4.69 | 4.70 | 4.71 | 4.74 | 4.70 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.46 | 4.29 | 4.42 | 4.63 | 4.34 | 4.29 | 4.39 | 4.41 | 4.49 | 4.43 | 4.52 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.00 | 4.03 | 4.01 | 4.33 | 4.14 | 3.94 | 4.05 | 4.16 | 4.12 | 4.14 | 4.29 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.59 | 2.60 | 2.60 | 2.37 | 2.41 | 2.48 | 2.50 | 2.38 | 2.27 | 2.27 | 2.29 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.49 | 4.39 | 4.55 | 4.62 | 4.27 | 4.37 | 4.50 | 4.44 | 4.46 | 4.39 | 4.49 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.45 | 4.31 | 4.48 | 4.59 | 4.22 | 4.26 | 4.48 | 4.40 | 4.44 | 4.37 | 4.45 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

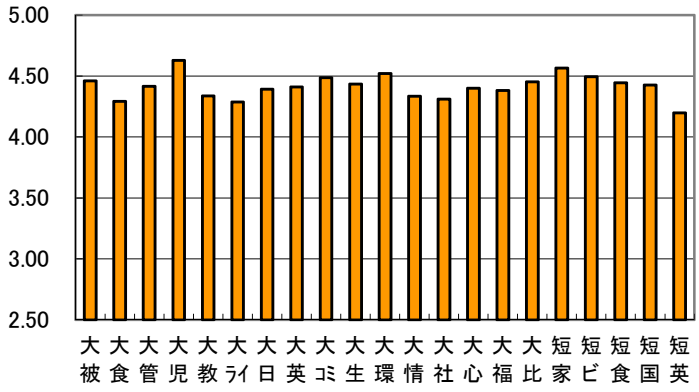
| | | 大情 | 大社 | 大心 | 大福 | 大比 | 短家 | 短ビ | 短食 | 短国 | 短英 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.59 | 4.69 | 4.71 | 4.61 | 4.74 | 4.80 | 4.76 | 4.73 | 4.80 | 4.55 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.33 | 4.31 | 4.40 | 4.38 | 4.45 | 4.57 | 4.49 | 4.44 | 4.43 | 4.20 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.04 | 4.12 | 4.06 | 4.04 | 4.12 | 4.11 | 4.12 | 4.17 | 3.93 | 4.34 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.58 | 2.14 | 2.79 | 2.35 | 2.29 | 2.10 | 2.01 | 2.26 | 2.20 | 2.16 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.34 | 4.41 | 4.47 | 4.52 | 4.48 | 4.68 | 4.57 | 4.43 | 4.71 | 4.50 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.30 | 4.32 | 4.40 | 4.45 | 4.43 | 4.63 | 4.50 | 4.35 | 4.65 | 4.49 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

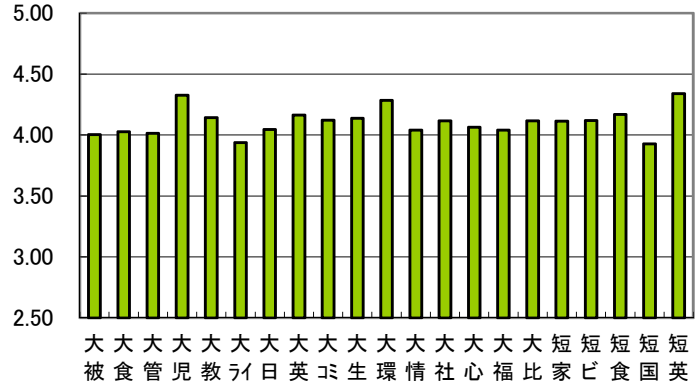
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



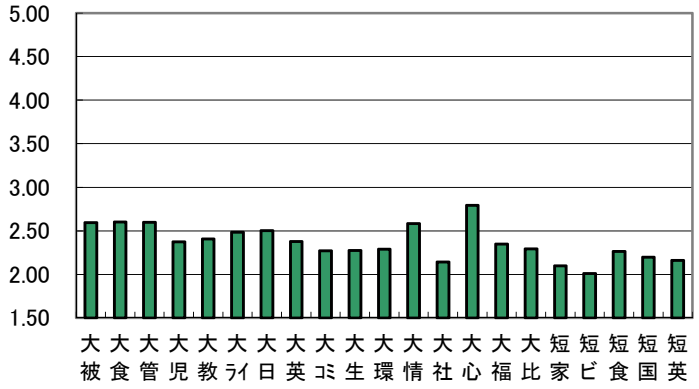

4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



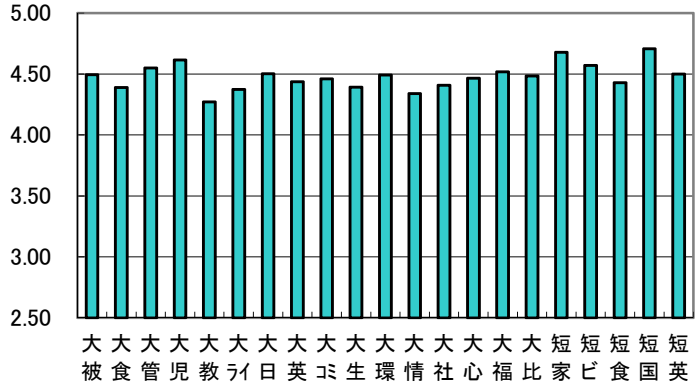

6 授業に積極的に参加したか



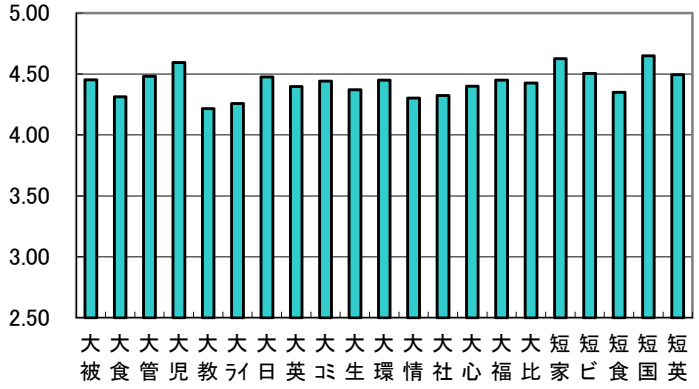

7 授業外学修時間（授業1回あたりの平均）




8 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか




9 授業に満足したか

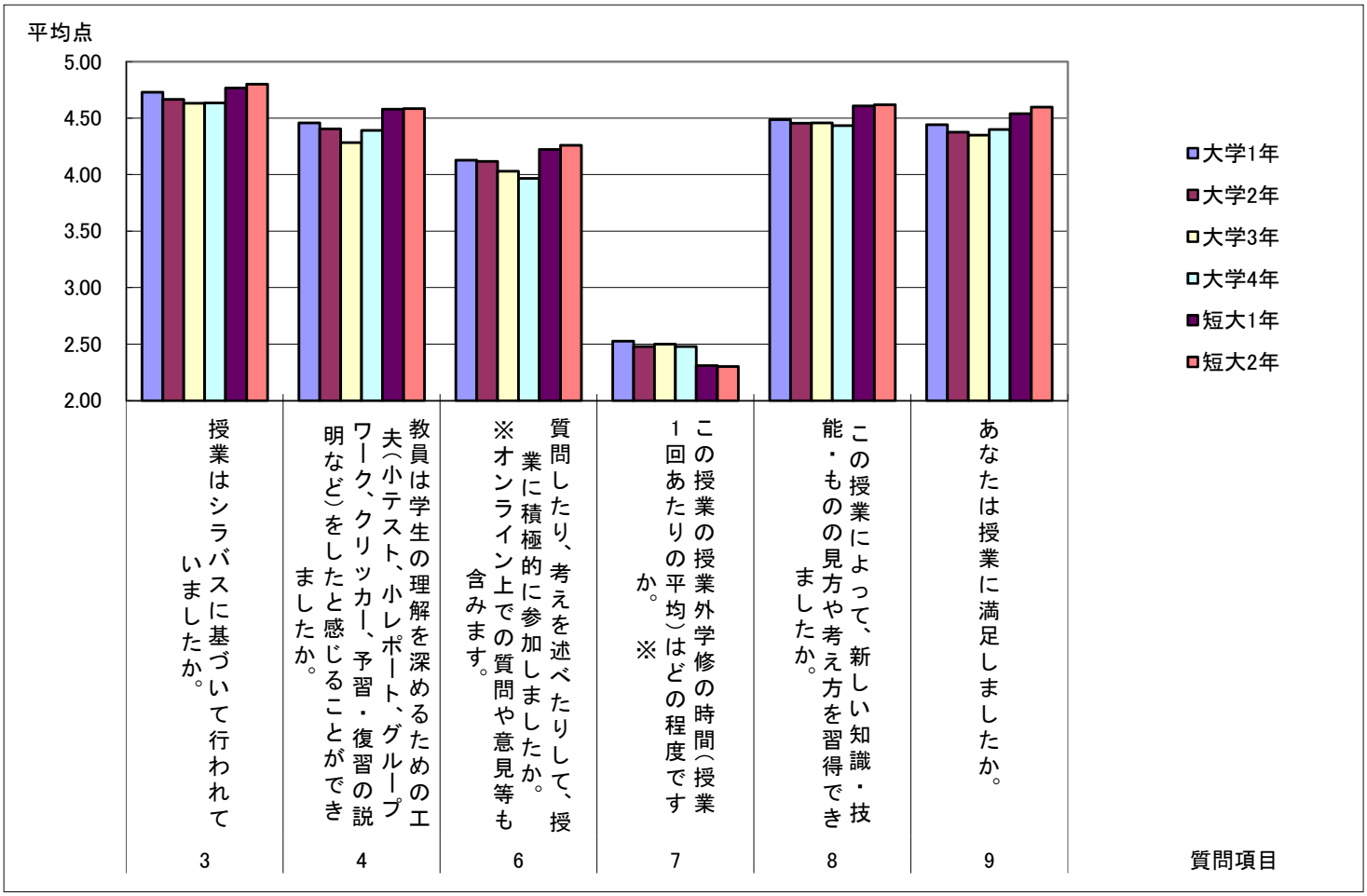


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（学年別）

| | 大学1年 | 大学2年 | 大学3年 | 大学4年 | 短大1年 | 短大2年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 7,854 | 6,381 | 3,503 | 1,092 | 1,616 | 749 |

| | | 大学1年 | 大学2年 | 大学3年 | 大学4年 | 短大1年 | 短大2年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.73 | 4.67 | 4.63 | 4.64 | 4.77 | 4.80 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.46 | 4.41 | 4.28 | 4.39 | 4.58 | 4.59 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.13 | 4.12 | 4.03 | 3.97 | 4.22 | 4.26 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.53 | 2.48 | 2.50 | 2.48 | 2.31 | 2.30 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.49 | 4.45 | 4.46 | 4.43 | 4.61 | 4.62 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.44 | 4.38 | 4.35 | 4.40 | 4.54 | 4.60 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

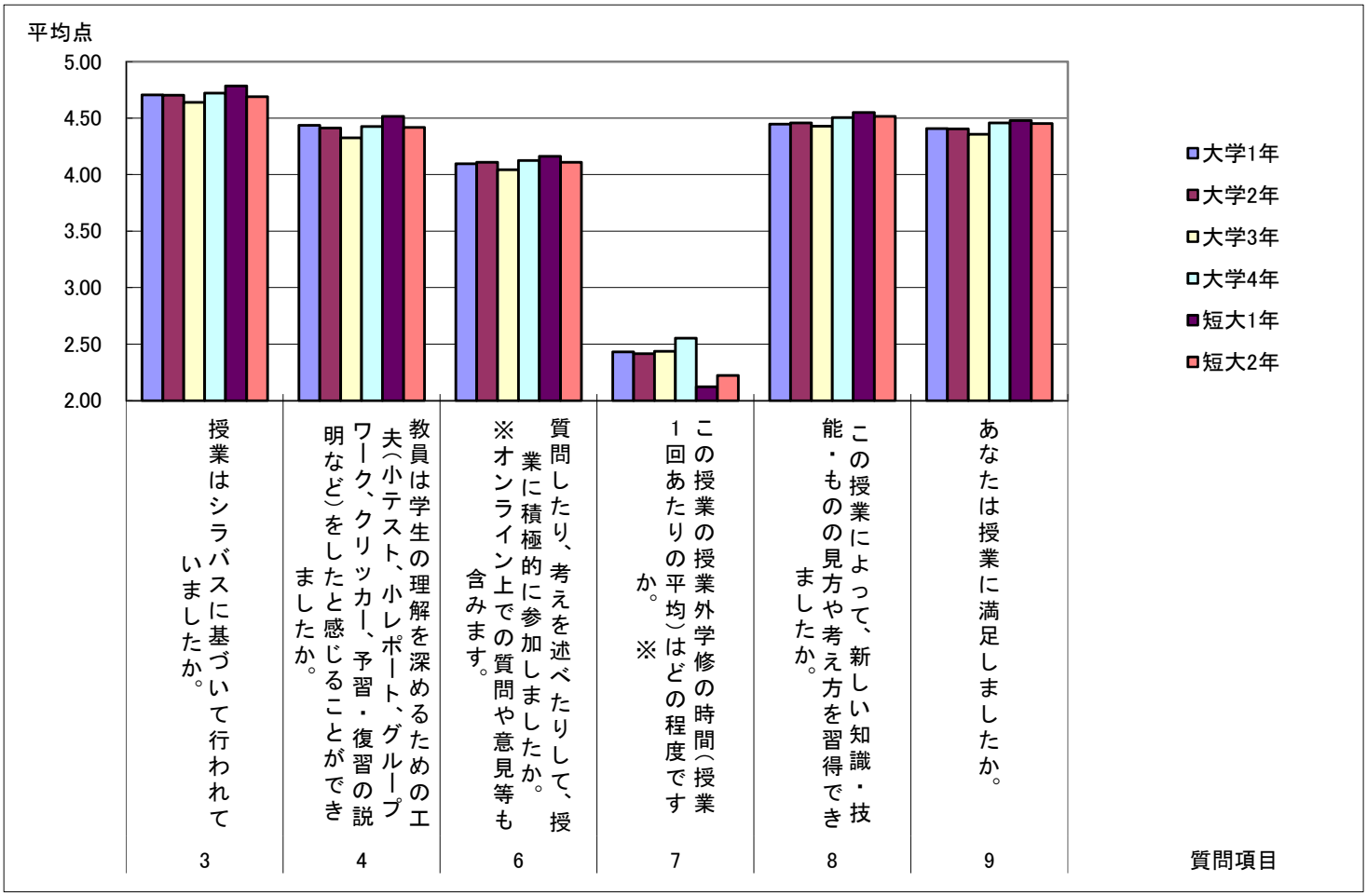


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（学年別）

| | 大学1年 | 大学2年 | 大学3年 | 大学4年 | 短大1年 | 短大2年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 7,535 | 5,948 | 3,130 | 474 | 1,207 | 811 |

| | | 大学1年 | 大学2年 | 大学3年 | 大学4年 | 短大1年 | 短大2年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.71 | 4.70 | 4.64 | 4.72 | 4.79 | 4.69 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.44 | 4.41 | 4.32 | 4.43 | 4.52 | 4.42 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.10 | 4.11 | 4.04 | 4.13 | 4.16 | 4.11 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.43 | 2.41 | 2.44 | 2.55 | 2.12 | 2.22 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.45 | 4.46 | 4.43 | 4.51 | 4.55 | 4.52 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.41 | 4.40 | 4.36 | 4.46 | 4.48 | 4.45 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

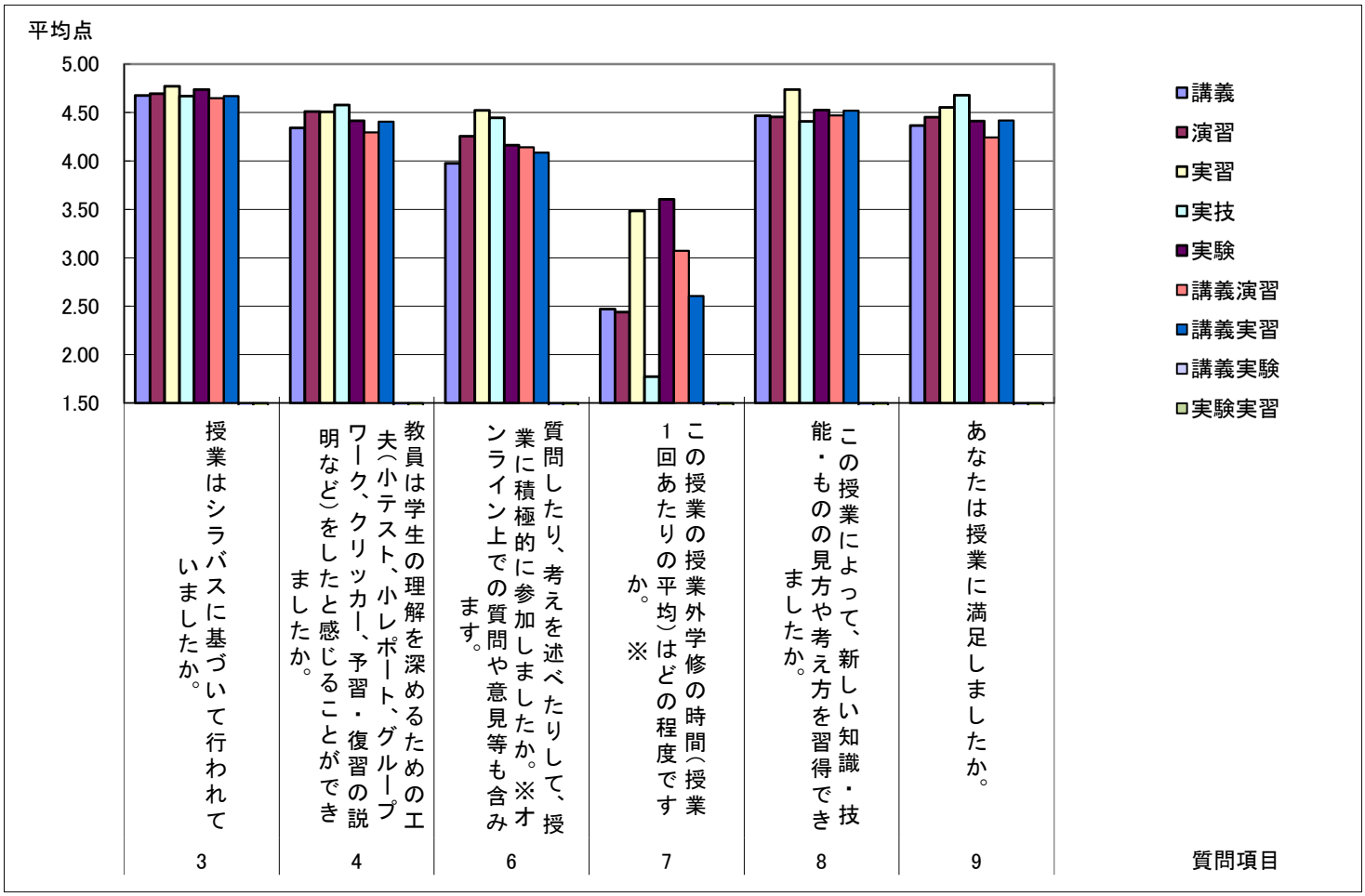


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（授業方法別）大学

| | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 37,765 | 15,197 | 1,124 | 723 | 868 | 1,648 | 430 | – | – |
| 回答者数 | 11,121 | 6,340 | 288 | 241 | 184 | 500 | 156 | – | – |
| 回答率（%） | 29.45 | 41.72 | 25.62 | 33.33 | 21.20 | 30.34 | 36.28 | – | – |

| | | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.68 | 4.70 | 4.77 | 4.67 | 4.74 | 4.65 | 4.67 | – | – |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.34 | 4.51 | 4.51 | 4.58 | 4.42 | 4.29 | 4.41 | – | – |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 3.98 | 4.25 | 4.52 | 4.45 | 4.16 | 4.14 | 4.09 | – | – |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.47 | 2.44 | 3.49 | 1.77 | 3.60 | 3.07 | 2.60 | – | – |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.47 | 4.46 | 4.74 | 4.41 | 4.52 | 4.47 | 4.52 | – | – |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.37 | 4.45 | 4.55 | 4.68 | 4.41 | 4.24 | 4.42 | – | – |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

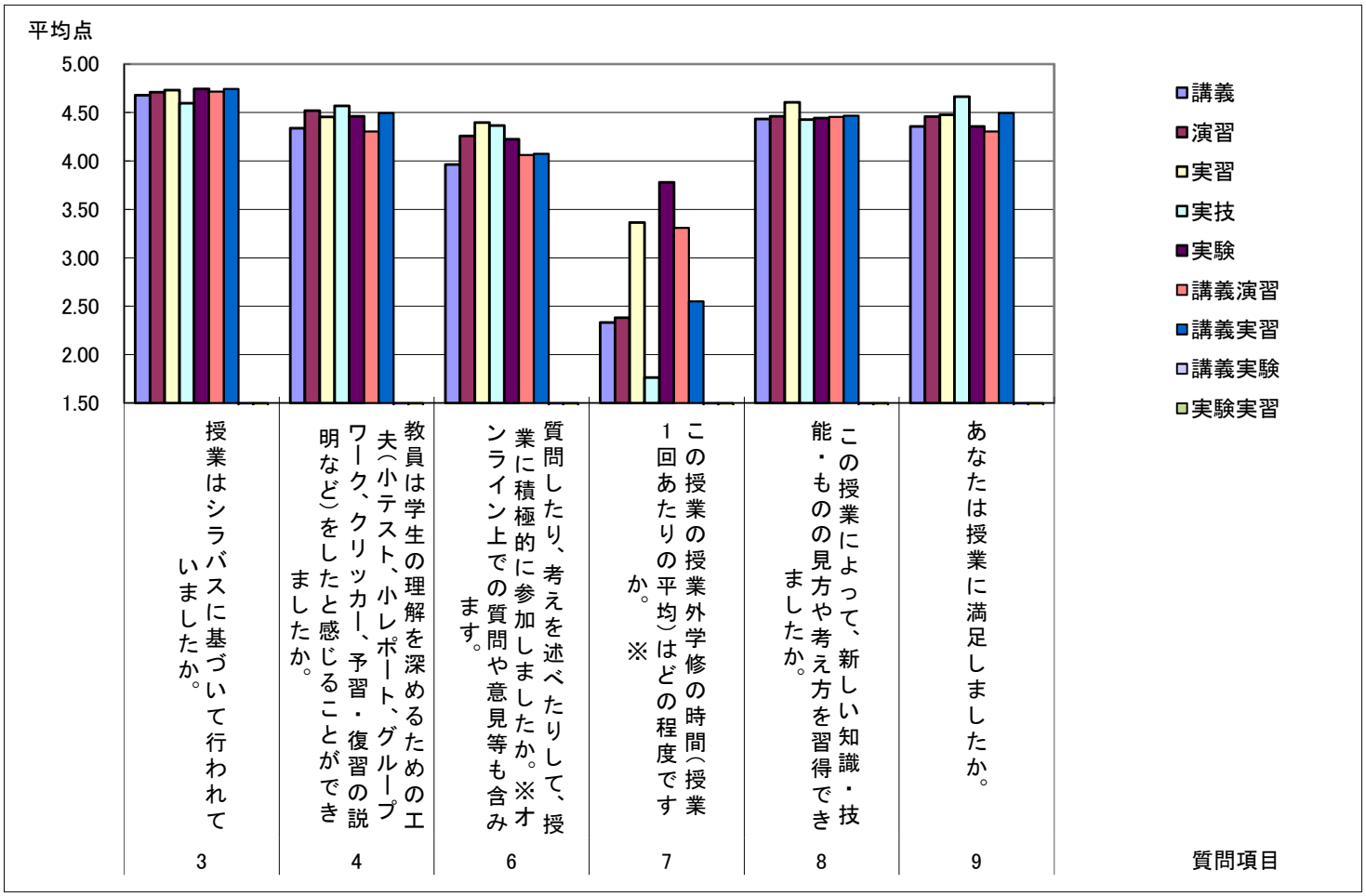


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（授業方法別）大学

| | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 34,468 | 13,970 | 1,553 | 635 | 511 | 1,692 | 331 | － | － |
| 回答者数 | 9,870 | 5,642 | 484 | 263 | 219 | 489 | 120 | － | － |
| 回答率（%） | 28.64 | 40.39 | 31.17 | 41.42 | 42.86 | 28.90 | 36.25 | － | － |

| | | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.68 | 4.71 | 4.73 | 4.60 | 4.74 | 4.72 | 4.74 | － | － |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.34 | 4.52 | 4.46 | 4.57 | 4.46 | 4.30 | 4.50 | － | － |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 3.96 | 4.26 | 4.40 | 4.37 | 4.23 | 4.06 | 4.08 | － | － |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.33 | 2.38 | 3.36 | 1.76 | 3.78 | 3.31 | 2.55 | － | － |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.43 | 4.46 | 4.61 | 4.43 | 4.44 | 4.46 | 4.47 | － | － |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.36 | 4.46 | 4.48 | 4.67 | 4.36 | 4.30 | 4.50 | － | － |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

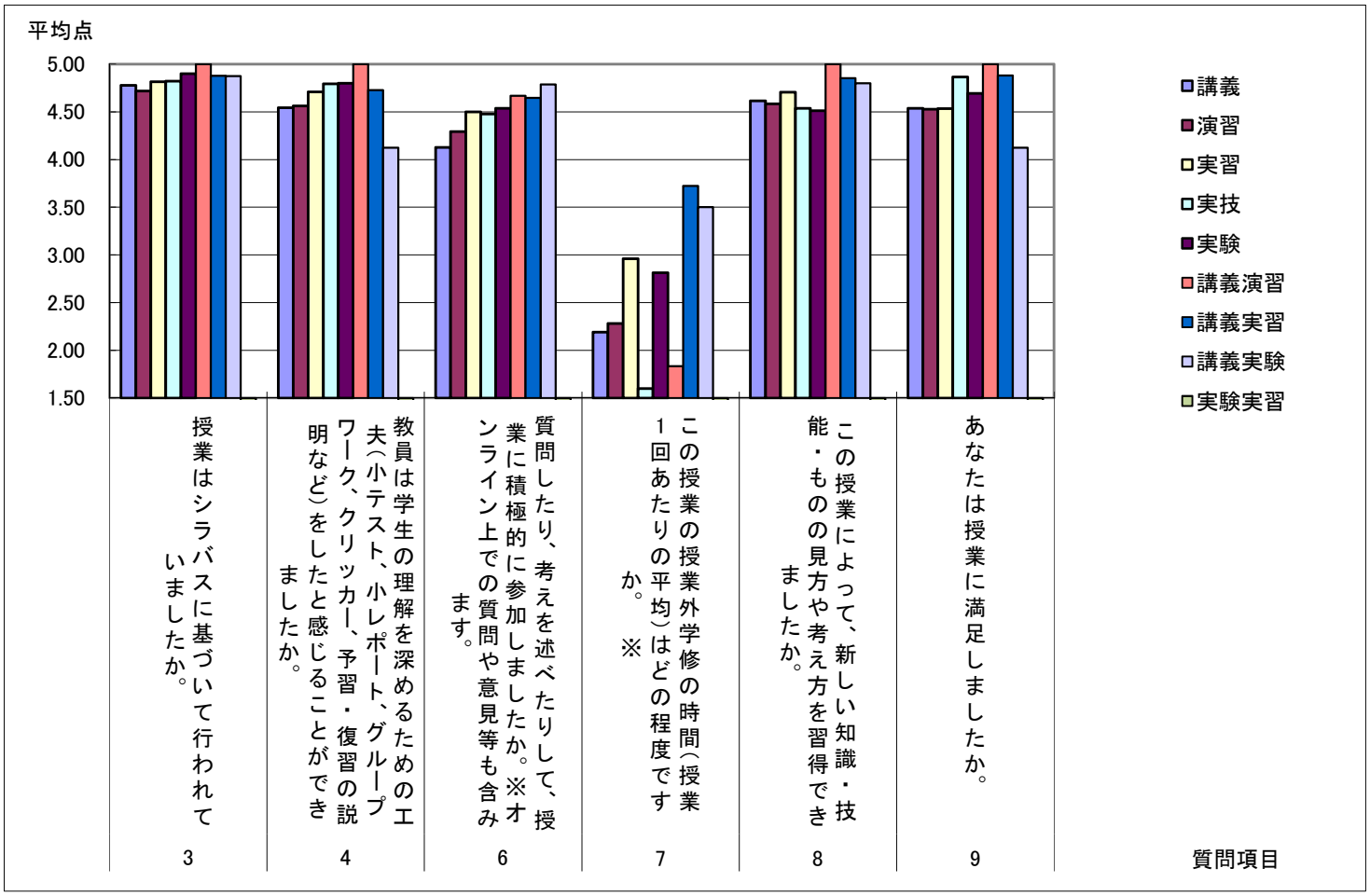


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（授業方法別）短大

| | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,787 | 1,018 | 285 | 103 | 222 | 10 | 73 | 23 | – |
| 回答者数 | 1,465 | 571 | 110 | 67 | 120 | 6 | 34 | 16 | – |
| 回答率（%） | 52.57 | 56.09 | 38.60 | 65.05 | 54.05 | 60.00 | 46.58 | 69.57 | – |

| | | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.78 | 4.72 | 4.81 | 4.82 | 4.90 | 5.00 | 4.88 | 4.88 | – |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.54 | 4.56 | 4.71 | 4.79 | 4.80 | 5.00 | 4.73 | 4.13 | – |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.13 | 4.29 | 4.50 | 4.48 | 4.54 | 4.67 | 4.65 | 4.79 | – |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.19 | 2.28 | 2.96 | 1.60 | 2.81 | 1.83 | 3.72 | 3.50 | – |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.62 | 4.59 | 4.70 | 4.54 | 4.51 | 5.00 | 4.85 | 4.80 | – |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.54 | 4.53 | 4.53 | 4.87 | 4.69 | 5.00 | 4.88 | 4.13 | – |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

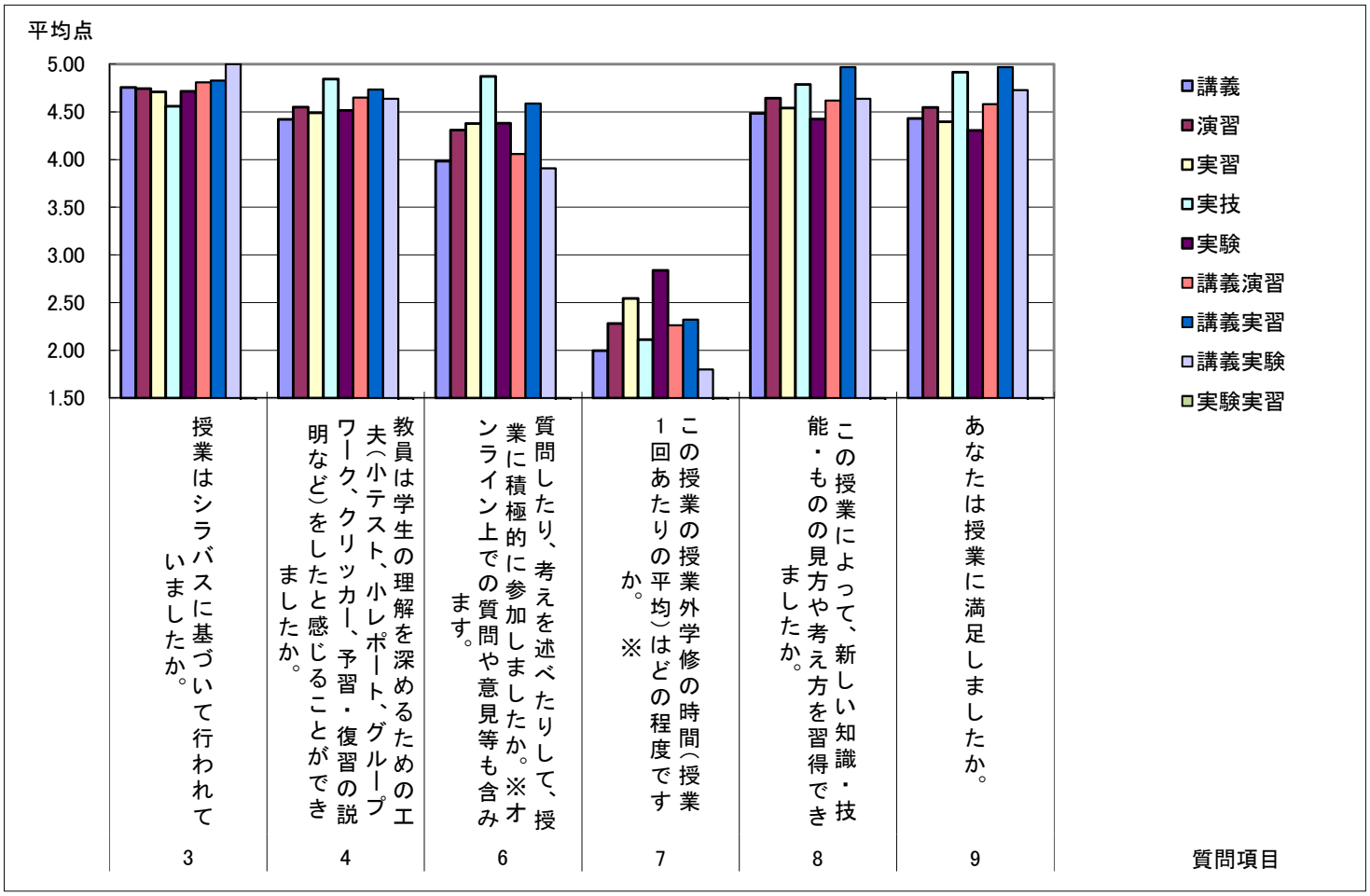


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（授業方法別）短大

| | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,209 | 759 | 309 | 53 | 144 | 160 | 52 | 11 | – |
| 回答者数 | 1,206 | 448 | 181 | 35 | 98 | 43 | 31 | 11 | – |
| 回答率（%） | 54.59 | 59.03 | 58.58 | 66.04 | 68.06 | 26.88 | 59.62 | 100.00 | – |

| | | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.75 | 4.74 | 4.71 | 4.56 | 4.71 | 4.81 | 4.83 | 5.00 | – |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.42 | 4.55 | 4.49 | 4.84 | 4.52 | 4.65 | 4.73 | 4.64 | – |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 3.98 | 4.31 | 4.38 | 4.87 | 4.38 | 4.06 | 4.59 | 3.91 | – |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.00 | 2.28 | 2.54 | 2.11 | 2.84 | 2.26 | 2.32 | 1.80 | – |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.48 | 4.64 | 4.54 | 4.79 | 4.43 | 4.62 | 4.97 | 4.64 | – |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.43 | 4.55 | 4.40 | 4.91 | 4.31 | 4.58 | 4.97 | 4.73 | – |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

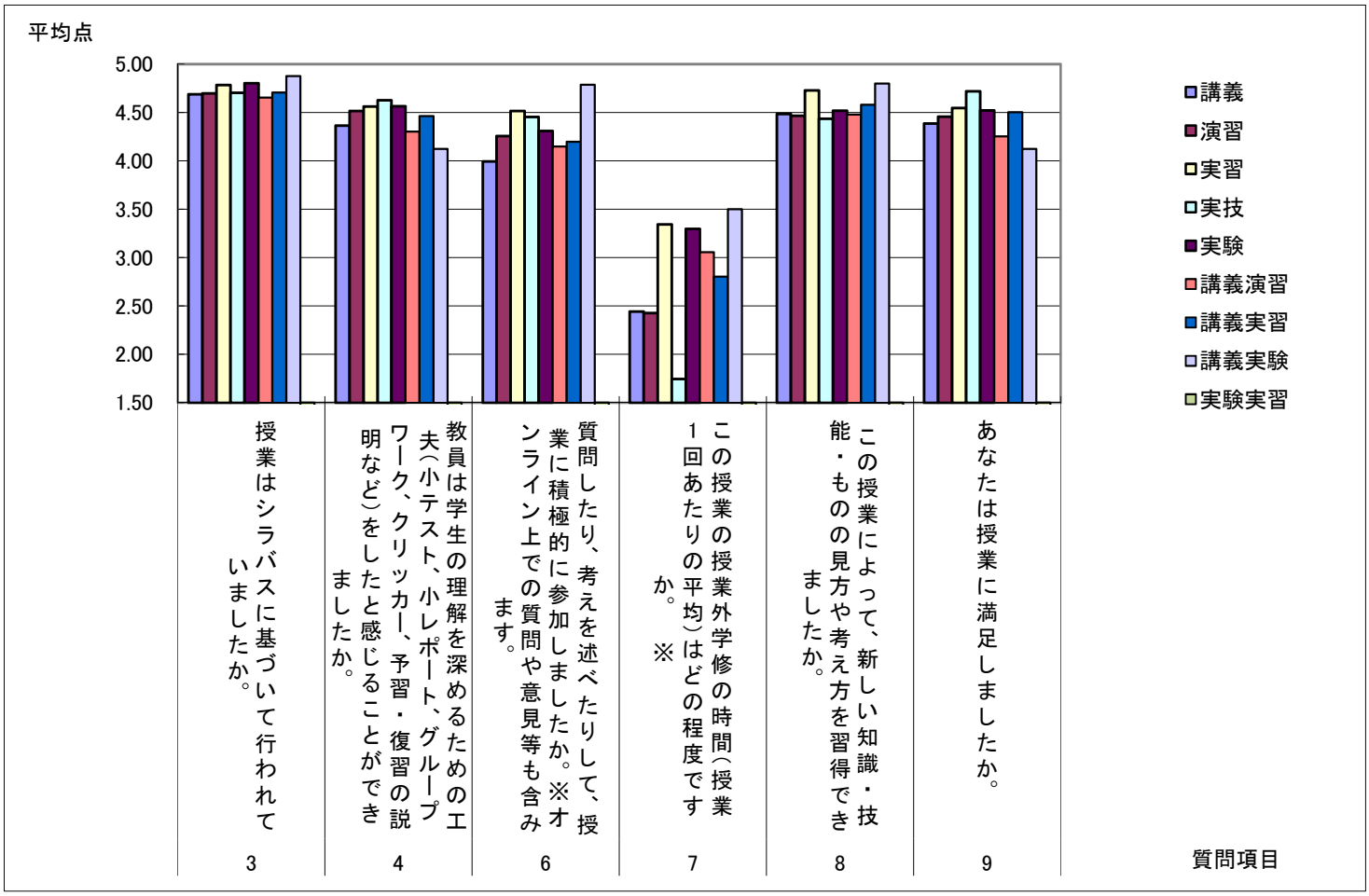


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（授業方法別）大学・短大合計

| | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 40,377 | 16,147 | 1,409 | 826 | 1,090 | 1,658 | 503 | 23 | – |
| 回答者数 | 12,522 | 6,892 | 398 | 308 | 304 | 506 | 190 | 16 | – |
| 回答率（%） | 31.01 | 42.68 | 28.25 | 37.29 | 27.89 | 30.52 | 37.77 | 69.57 | – |

| | | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.69 | 4.70 | 4.78 | 4.70 | 4.80 | 4.65 | 4.71 | 4.88 | – |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.36 | 4.52 | 4.56 | 4.63 | 4.57 | 4.30 | 4.46 | 4.13 | – |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 3.99 | 4.26 | 4.52 | 4.45 | 4.31 | 4.15 | 4.20 | 4.79 | – |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.44 | 2.43 | 3.34 | 1.75 | 3.30 | 3.06 | 2.80 | 3.50 | – |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.48 | 4.47 | 4.73 | 4.44 | 4.52 | 4.48 | 4.58 | 4.80 | – |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.39 | 4.46 | 4.55 | 4.72 | 4.52 | 4.25 | 4.50 | 4.13 | – |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

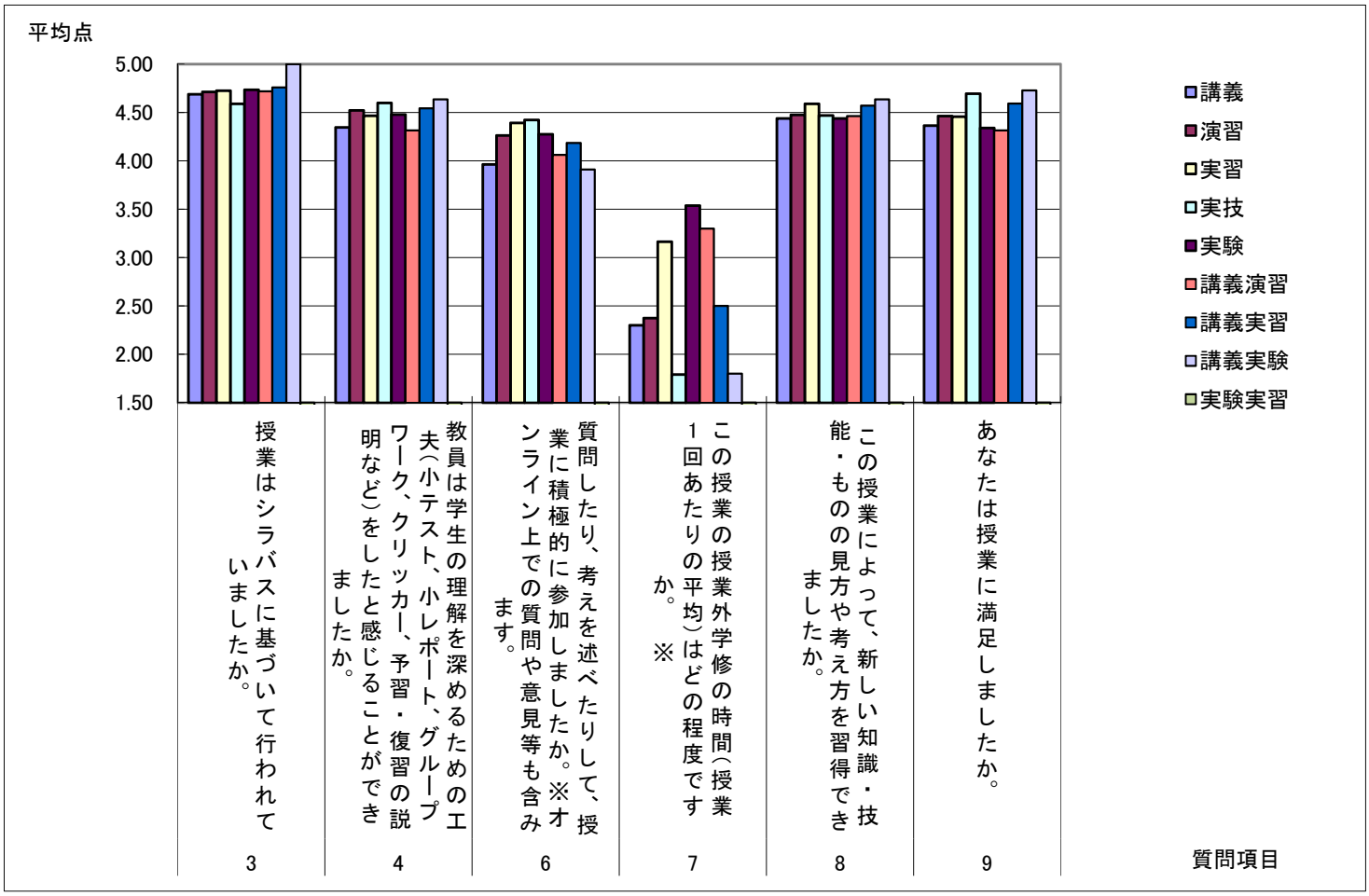


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（授業方法別）大学・短大合計

| | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 36,495 | 14,712 | 1,862 | 688 | 655 | 1,706 | 383 | 11 | – |
| 回答者数 | 11,037 | 6,085 | 665 | 298 | 317 | 497 | 151 | 11 | – |
| 回答率（%） | 30.24 | 41.36 | 35.71 | 43.31 | 48.40 | 29.13 | 39.43 | 100.00 | – |

| | | 講義 | 演習 | 実習 | 実技 | 実験 | 講義演習 | 講義実習 | 講義実験 | 実験実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.69 | 4.71 | 4.73 | 4.59 | 4.73 | 4.72 | 4.76 | 5.00 | – |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.35 | 4.52 | 4.46 | 4.60 | 4.48 | 4.31 | 4.54 | 4.64 | – |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 3.96 | 4.26 | 4.39 | 4.42 | 4.27 | 4.06 | 4.19 | 3.91 | – |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.30 | 2.37 | 3.16 | 1.79 | 3.54 | 3.30 | 2.50 | 1.80 | – |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.44 | 4.47 | 4.59 | 4.47 | 4.44 | 4.46 | 4.57 | 4.64 | – |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.36 | 4.46 | 4.46 | 4.69 | 4.34 | 4.32 | 4.59 | 4.73 | – |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

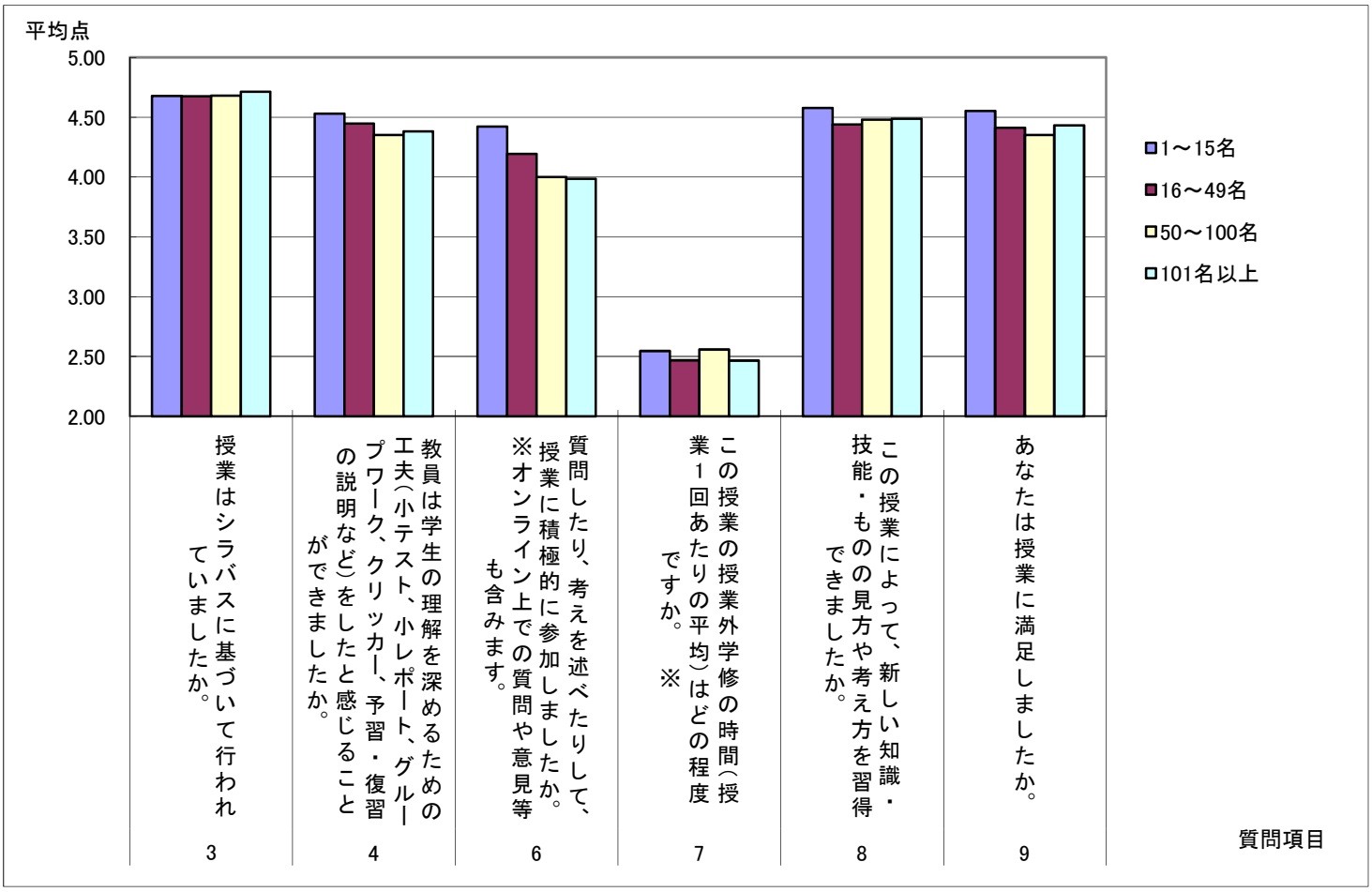


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（クラスサイズ別）大学

| | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 1,742 | 21,011 | 21,974 | 13,028 |
| 回答者数 | 628 | 7,982 | 6,619 | 3,601 |
| 回答率（%） | 36.05 | 37.99 | 30.12 | 27.64 |

| | | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.68 | 4.68 | 4.68 | 4.71 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.53 | 4.45 | 4.35 | 4.38 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.42 | 4.19 | 4.00 | 3.99 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.55 | 2.47 | 2.56 | 2.46 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.58 | 4.44 | 4.48 | 4.49 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.55 | 4.41 | 4.35 | 4.43 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

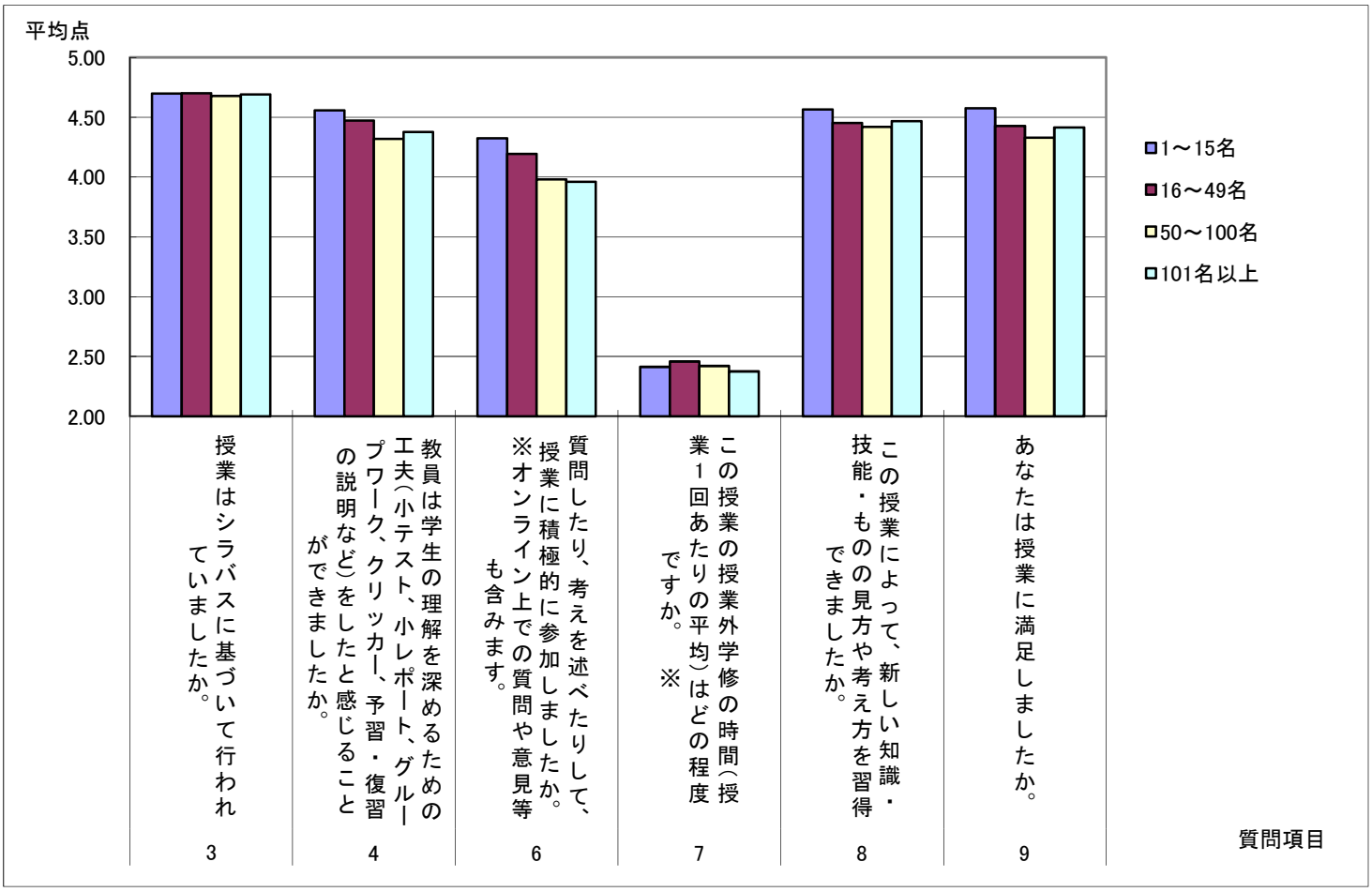


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（クラスサイズ別）大学

| | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 1,996 | 20,240 | 20,750 | 10,174 |
| 回答者数 | 729 | 7,643 | 5,925 | 2,790 |
| 回答率（%） | 36.52 | 37.76 | 28.55 | 27.42 |

| | | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.70 | 4.70 | 4.68 | 4.69 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.56 | 4.47 | 4.32 | 4.38 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.33 | 4.19 | 3.98 | 3.96 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.41 | 2.46 | 2.42 | 2.38 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.57 | 4.45 | 4.42 | 4.47 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.57 | 4.43 | 4.33 | 4.42 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

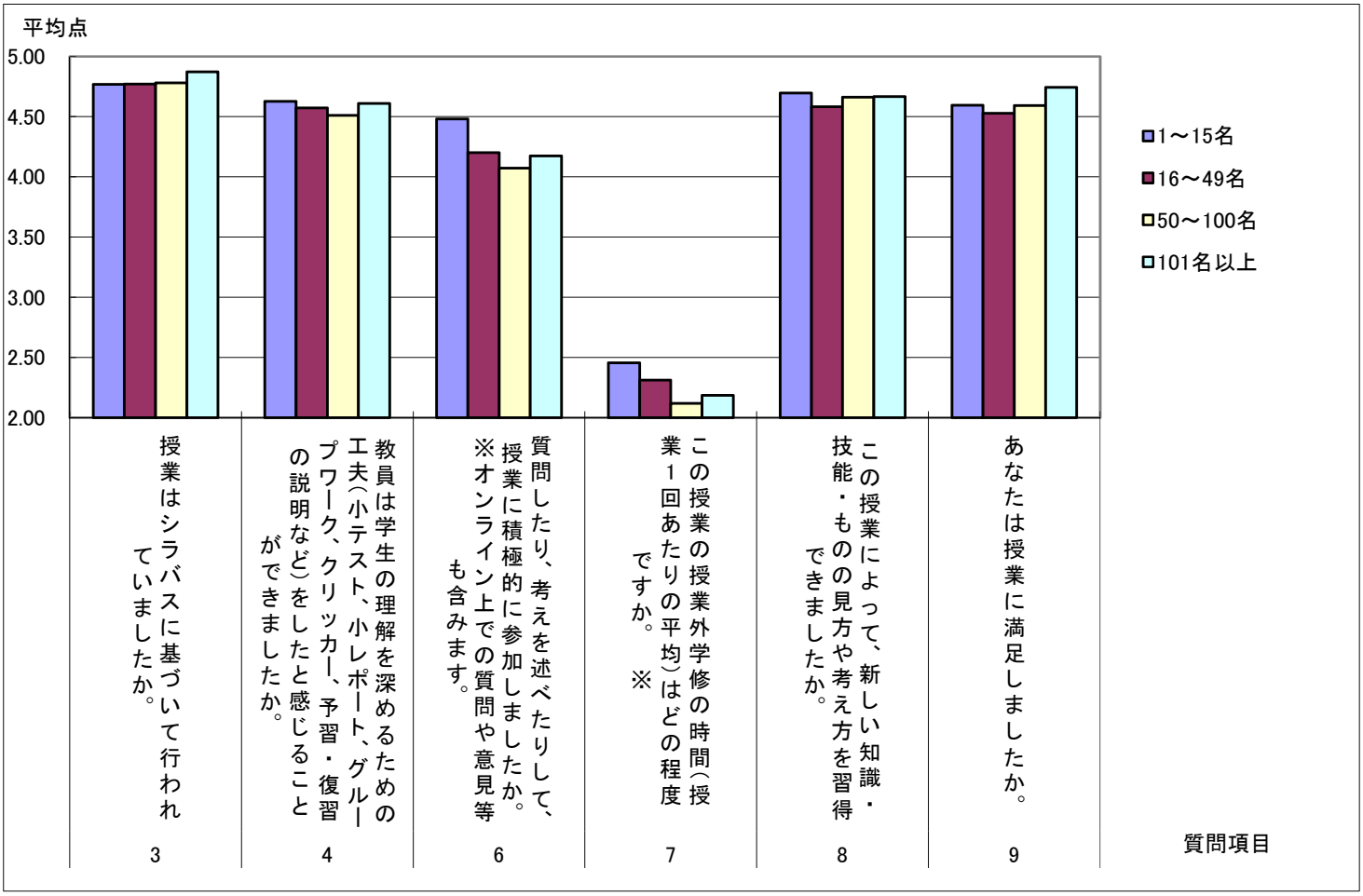


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（クラスサイズ別）短大

| | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 568 | 3,270 | 473 | 210 |
| 回答者数 | 353 | 1,687 | 259 | 90 |
| 回答率（%） | 62.15 | 51.59 | 54.76 | 42.86 |

| | | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.77 | 4.77 | 4.78 | 4.87 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.63 | 4.57 | 4.51 | 4.61 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.48 | 4.20 | 4.07 | 4.17 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.46 | 2.31 | 2.12 | 2.19 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.70 | 4.58 | 4.66 | 4.67 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.59 | 4.53 | 4.59 | 4.74 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

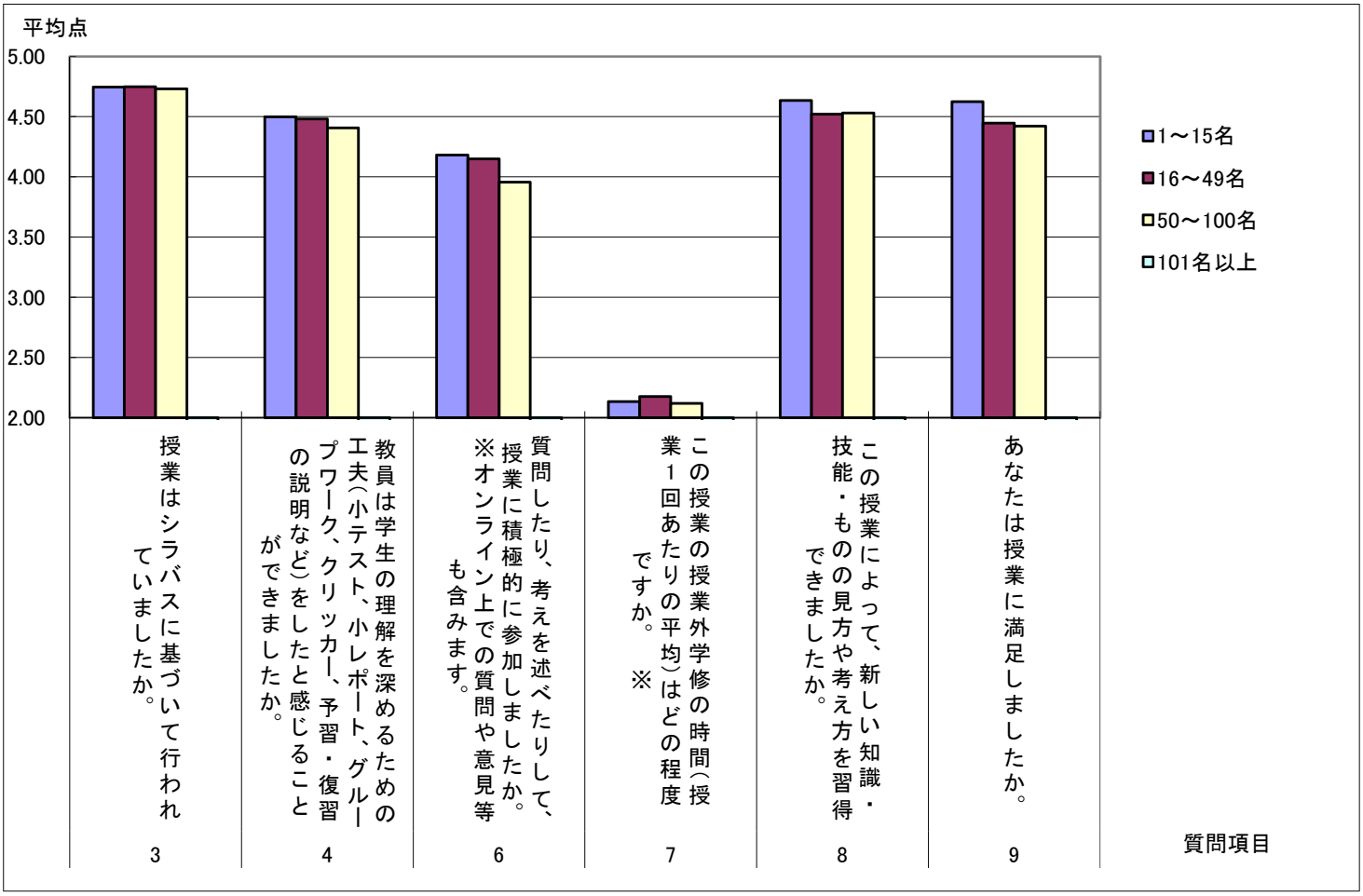


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（クラスサイズ別）短大

| | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 521 | 2,715 | 461 | － |
| 回答者数 | 275 | 1,631 | 147 | － |
| 回答率（%） | 52.78 | 60.07 | 31.89 | － |

| | | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.75 | 4.75 | 4.73 | － |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.50 | 4.48 | 4.41 | － |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.18 | 4.15 | 3.96 | － |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.13 | 2.17 | 2.12 | － |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.63 | 4.52 | 4.53 | － |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.63 | 4.45 | 4.42 | － |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

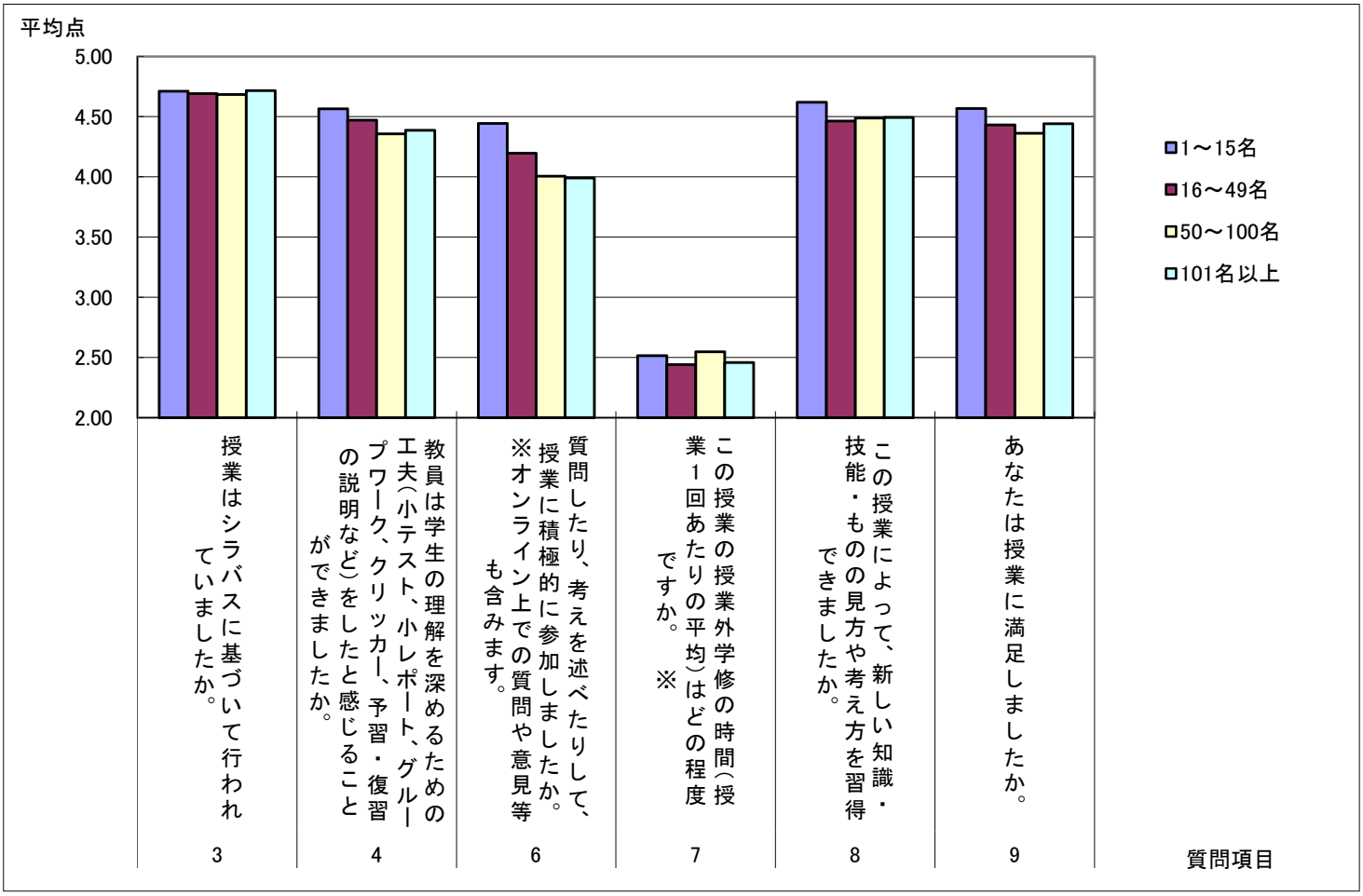


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（クラスサイズ別）大学・短大合計

| | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,310 | 24,091 | 22,394 | 13,238 |
| 回答者数 | 981 | 9,610 | 6,854 | 3,691 |
| 回答率（%） | 42.47 | 39.89 | 30.61 | 27.88 |

| | | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.71 | 4.69 | 4.68 | 4.72 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.57 | 4.47 | 4.36 | 4.39 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.44 | 4.20 | 4.00 | 3.99 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.52 | 2.44 | 2.55 | 2.46 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.62 | 4.46 | 4.49 | 4.49 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.57 | 4.43 | 4.36 | 4.44 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

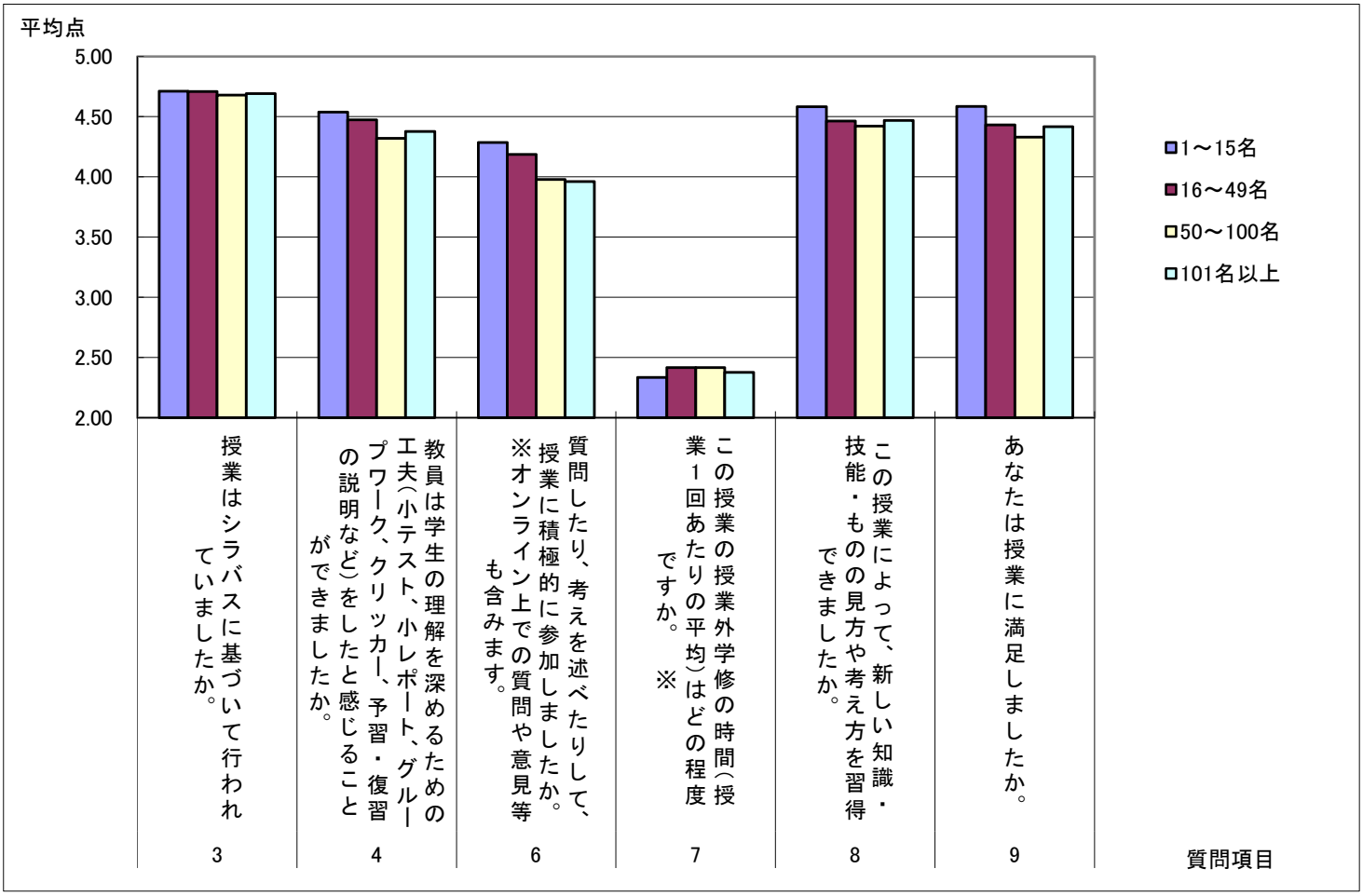


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（クラスサイズ別）大学・短大合計

| | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,477 | 22,860 | 21,001 | 10,174 |
| 回答者数 | 997 | 9,254 | 6,020 | 2,790 |
| 回答率（%） | 40.25 | 40.48 | 28.67 | 27.42 |

| | | 1～15名 | 16～49名 | 50～100名 | 101名以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.71 | 4.71 | 4.68 | 4.69 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.54 | 4.47 | 4.32 | 4.38 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.28 | 4.19 | 3.98 | 3.96 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.34 | 2.42 | 2.42 | 2.38 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.58 | 4.46 | 4.42 | 4.47 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.59 | 4.43 | 4.33 | 4.42 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

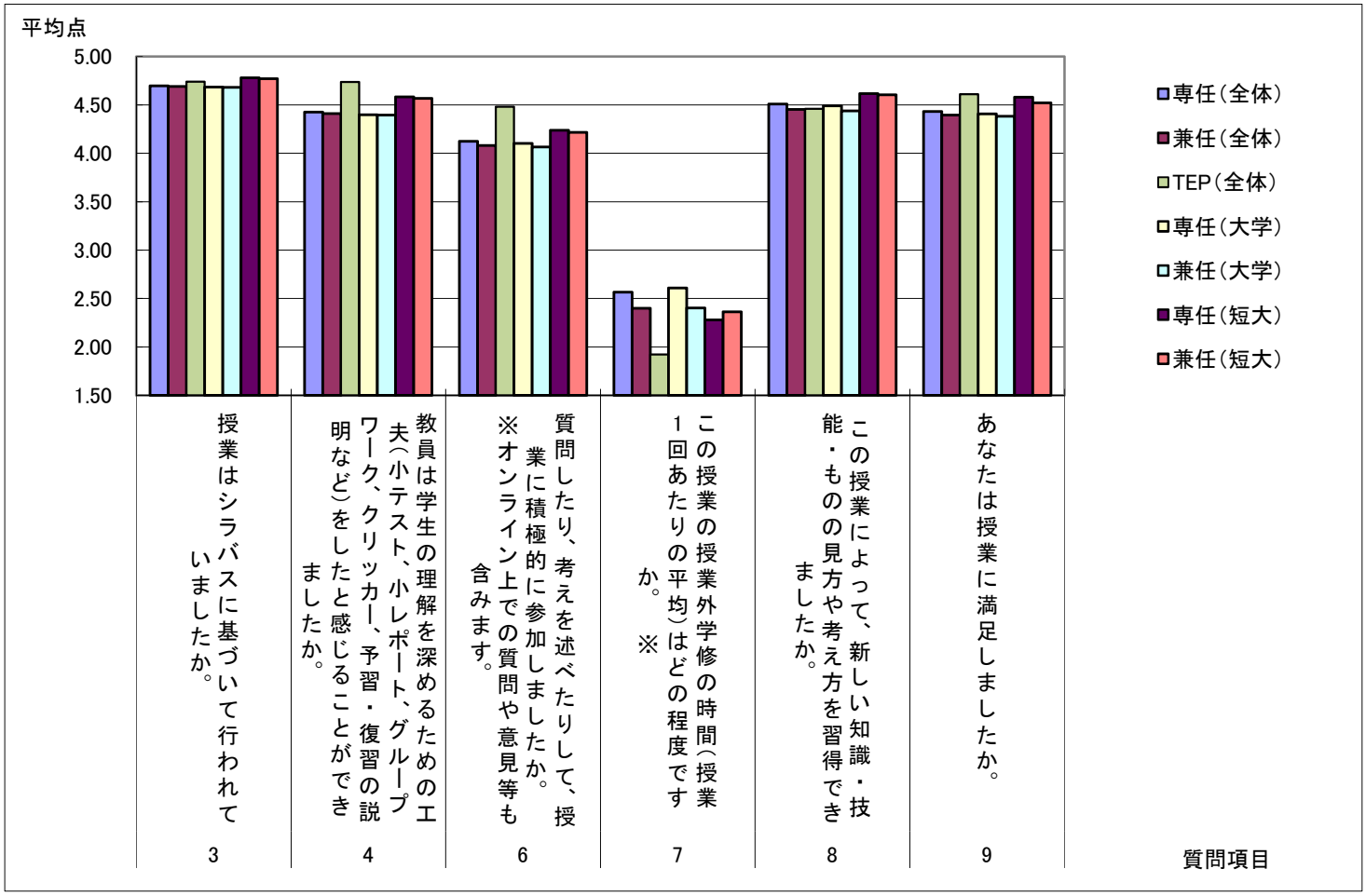


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（専任・兼任別）

| | 専任（全体） | 兼任（全体） | TEP（全体） | 専任（大学） | 兼任（大学） | 専任（短大） | 兼任（短大） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 31,561 | 27,958 | 563 | 29,299 | 26,013 | 2,405 | 2,045 |
| 回答者数 | 9,791 | 10,439 | 249 | 8,457 | 9,479 | 1,392 | 985 |
| 回答率（%） | 31.02 | 37.34 | 44.23 | 28.86 | 36.44 | 57.88 | 48.17 |

| | | 専任（全体） | 兼任（全体） | TEP（全体） | 専任（大学） | 兼任（大学） | 専任（短大） | 兼任（短大） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.70 | 4.69 | 4.74 | 4.68 | 4.68 | 4.78 | 4.77 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.43 | 4.41 | 4.74 | 4.40 | 4.39 | 4.58 | 4.57 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.12 | 4.08 | 4.48 | 4.10 | 4.07 | 4.24 | 4.22 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.57 | 2.40 | 1.92 | 2.61 | 2.40 | 2.28 | 2.36 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.51 | 4.45 | 4.46 | 4.49 | 4.44 | 4.62 | 4.60 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.43 | 4.40 | 4.61 | 4.41 | 4.38 | 4.58 | 4.52 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

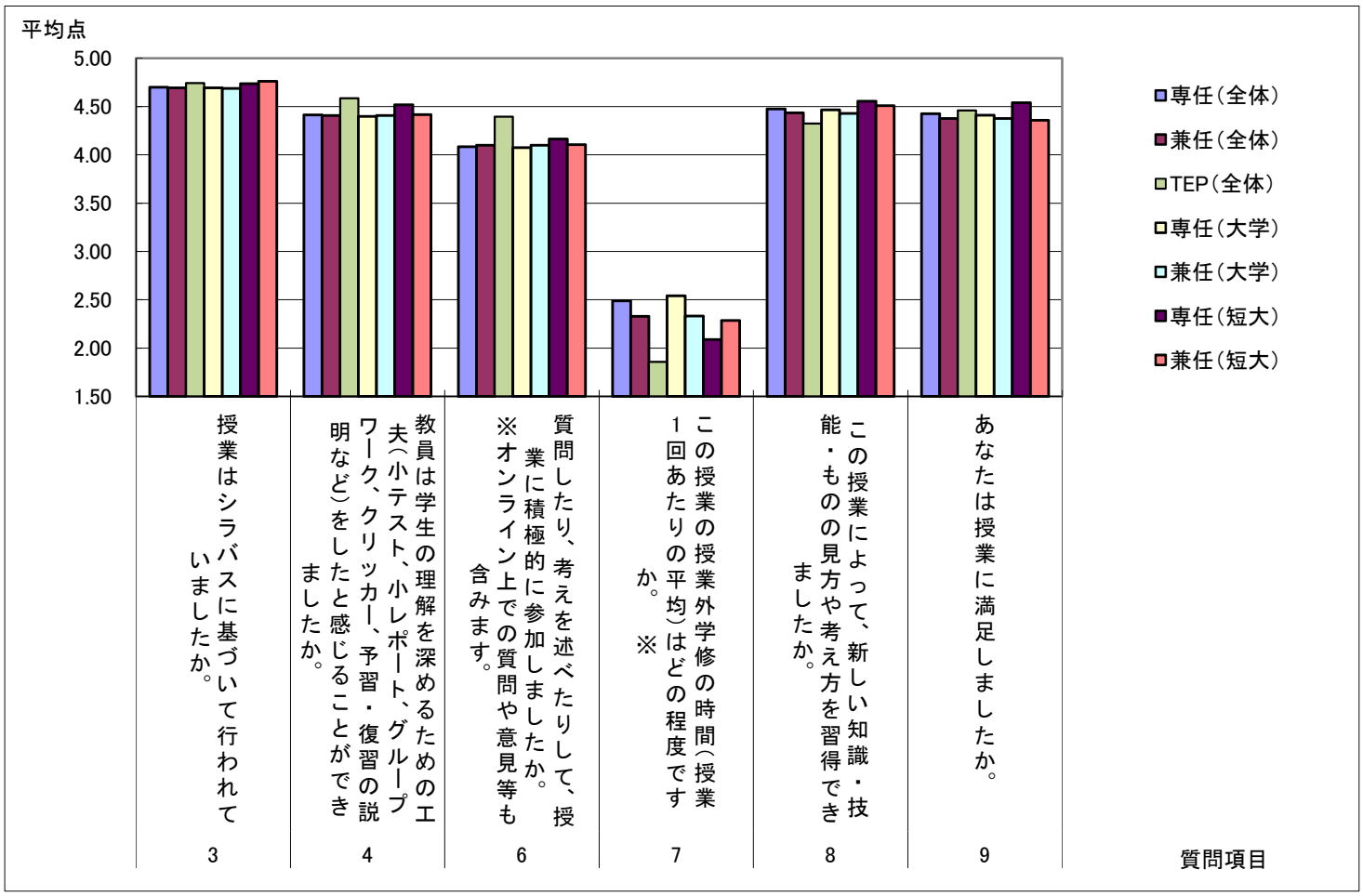


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（専任・兼任別）

| | 専任（全体） | 兼任（全体） | TEP（全体） | 専任（大学） | 兼任（大学） | 専任（短大） | 兼任（短大） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 29,703 | 24,460 | 558 | 27,696 | 23,115 | 2,187 | 1,510 |
| 回答者数 | 9,515 | 8,876 | 174 | 8,304 | 8,113 | 1,254 | 799 |
| 回答率（%） | 32.03 | 36.29 | 31.18 | 29.98 | 35.10 | 57.34 | 52.91 |

| | | 専任（全体） | 兼任（全体） | TEP（全体） | 専任（大学） | 兼任（大学） | 専任（短大） | 兼任（短大） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.70 | 4.69 | 4.74 | 4.69 | 4.69 | 4.74 | 4.76 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.41 | 4.41 | 4.59 | 4.40 | 4.41 | 4.52 | 4.42 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。<br>※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.08 | 4.10 | 4.40 | 4.07 | 4.10 | 4.16 | 4.11 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.49 | 2.33 | 1.86 | 2.54 | 2.33 | 2.09 | 2.29 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.48 | 4.43 | 4.32 | 4.46 | 4.43 | 4.55 | 4.51 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.43 | 4.38 | 4.46 | 4.41 | 4.38 | 4.54 | 4.36 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

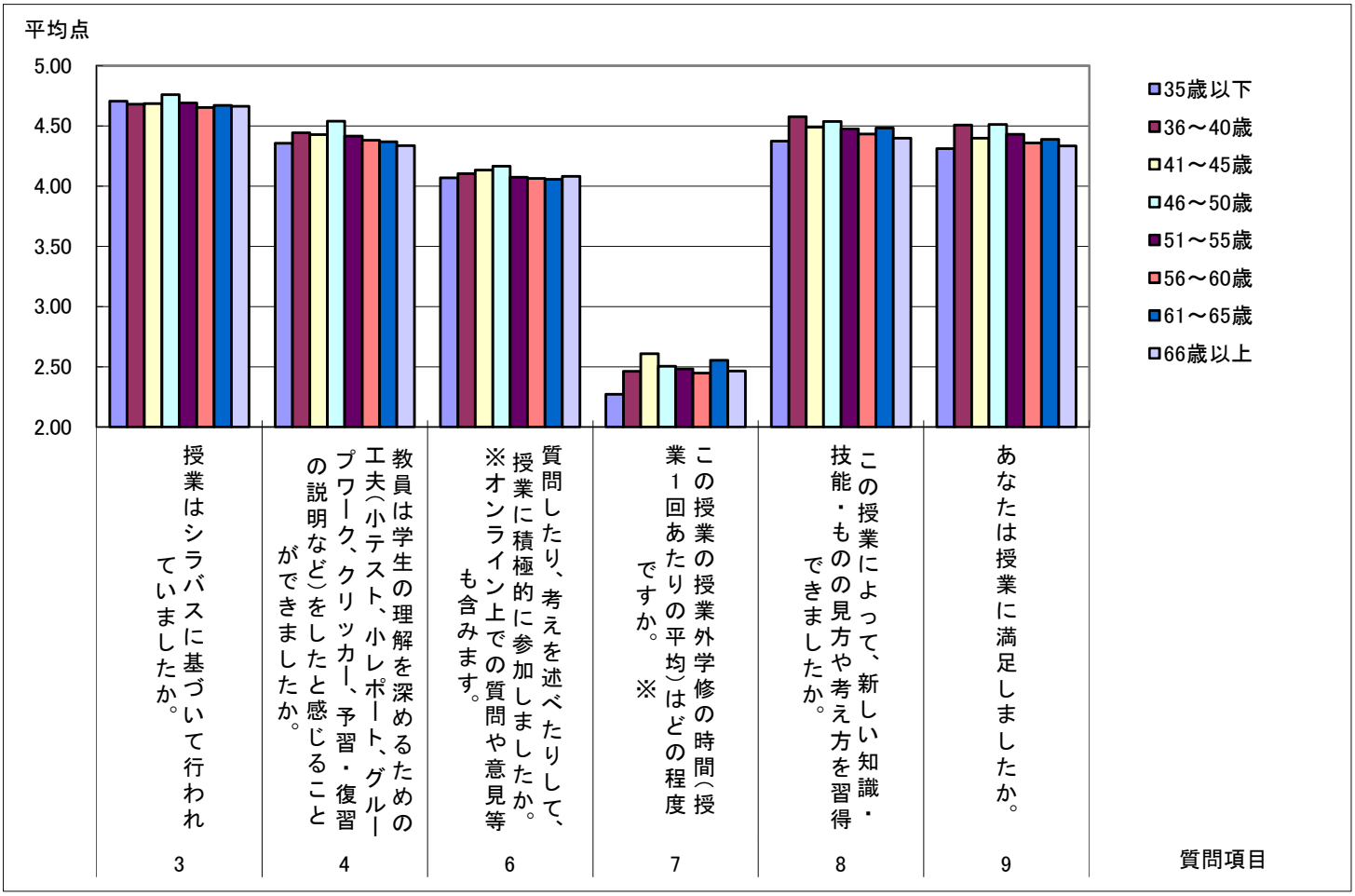


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（教員の年齢別）大学

| | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,040 | 2,136 | 6,862 | 7,461 | 7,127 | 8,961 | 10,003 | 11,285 |
| 回答者数 | 705 | 719 | 2,013 | 2,331 | 2,421 | 2,801 | 3,298 | 3,897 |
| 回答率（%） | 34.56 | 33.66 | 29.34 | 31.24 | 33.97 | 31.26 | 32.97 | 34.53 |

| | | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.70 | 4.68 | 4.69 | 4.76 | 4.69 | 4.65 | 4.67 | 4.66 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.36 | 4.44 | 4.43 | 4.54 | 4.42 | 4.38 | 4.37 | 4.34 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.07 | 4.10 | 4.13 | 4.17 | 4.07 | 4.06 | 4.06 | 4.08 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.27 | 2.46 | 2.61 | 2.50 | 2.48 | 2.45 | 2.55 | 2.46 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.37 | 4.58 | 4.49 | 4.54 | 4.47 | 4.43 | 4.48 | 4.40 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.31 | 4.51 | 4.40 | 4.51 | 4.43 | 4.36 | 4.39 | 4.33 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

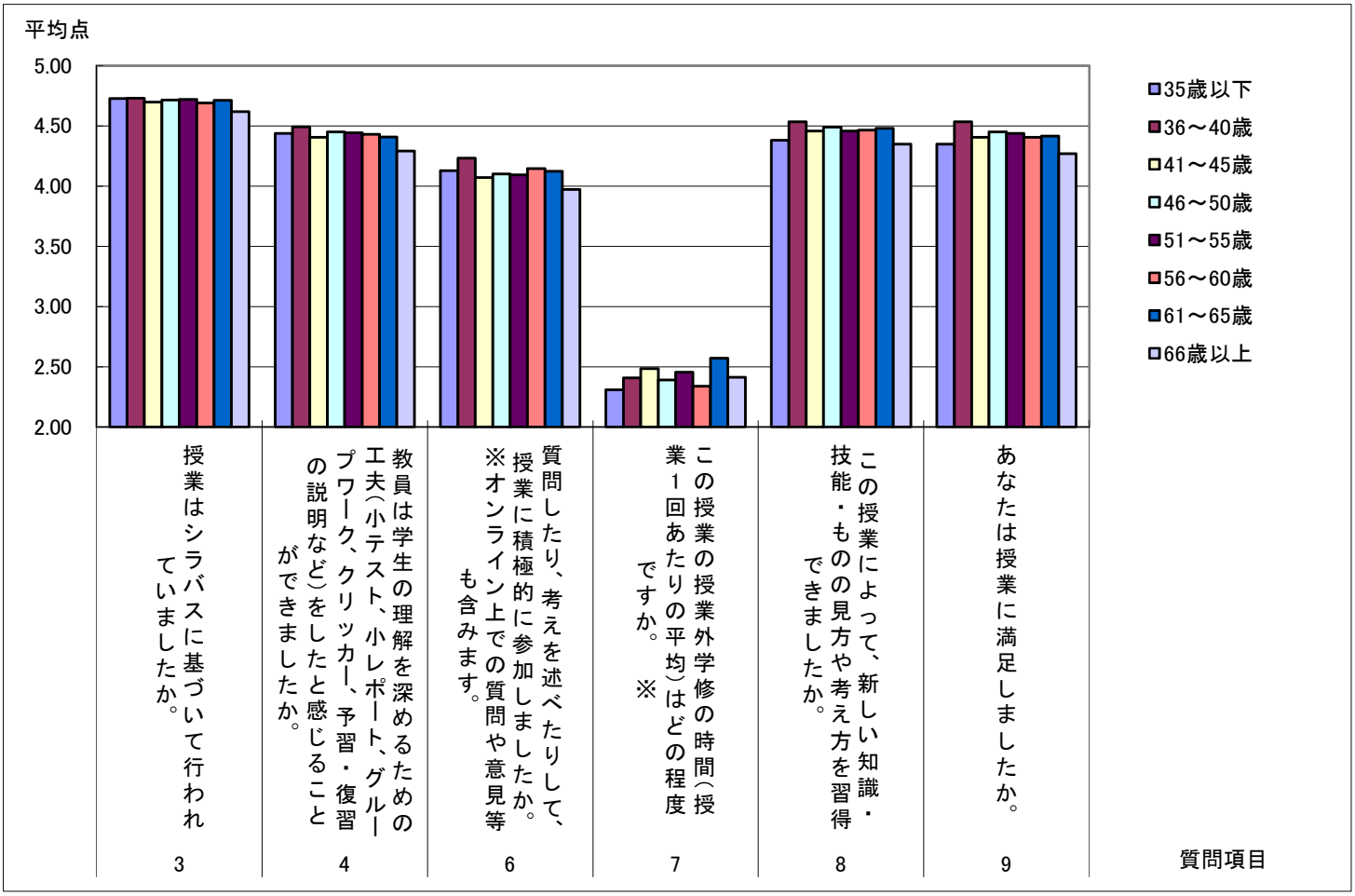


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（教員の年齢別）大学

| | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,299 | 2,443 | 7,280 | 7,540 | 6,460 | 8,322 | 7,799 | 9,226 |
| 回答者数 | 779 | 815 | 2,077 | 2,359 | 1,965 | 2,712 | 2,598 | 3,286 |
| 回答率（%） | 33.88 | 33.36 | 28.53 | 31.29 | 30.42 | 32.59 | 33.31 | 35.62 |

| | | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.73 | 4.73 | 4.70 | 4.72 | 4.72 | 4.69 | 4.71 | 4.62 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.44 | 4.49 | 4.41 | 4.45 | 4.44 | 4.43 | 4.41 | 4.29 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.13 | 4.23 | 4.07 | 4.10 | 4.09 | 4.15 | 4.12 | 3.97 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.31 | 2.41 | 2.48 | 2.39 | 2.45 | 2.34 | 2.57 | 2.41 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.38 | 4.53 | 4.46 | 4.49 | 4.46 | 4.46 | 4.48 | 4.35 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.35 | 4.53 | 4.40 | 4.45 | 4.44 | 4.41 | 4.42 | 4.27 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

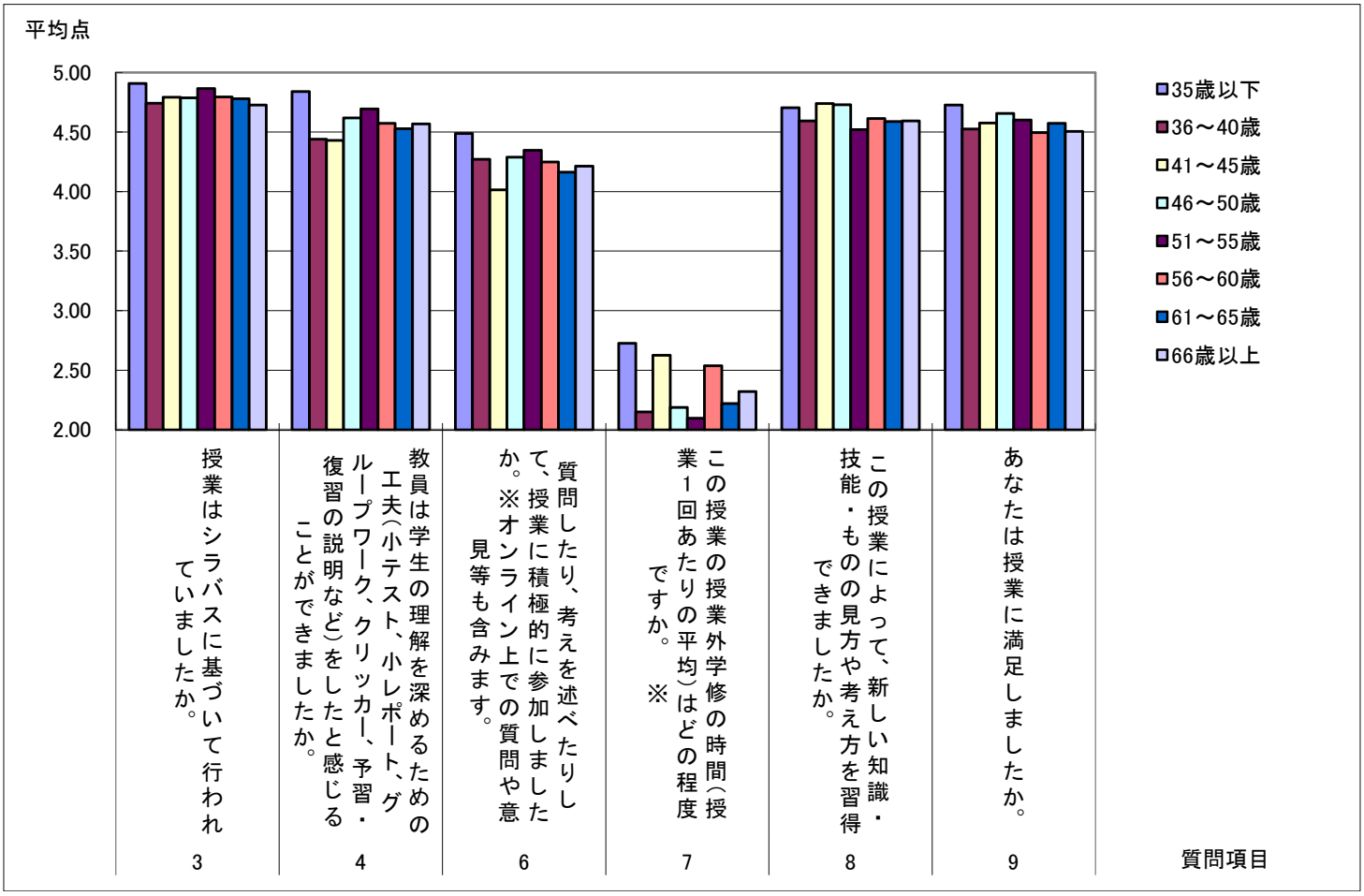


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（教員の年齢別）短大

| | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 79 | 134 | 189 | 616 | 454 | 663 | 876 | 1,439 |
| 回答者数 | 44 | 60 | 73 | 297 | 243 | 347 | 524 | 789 |
| 回答率（%） | 55.70 | 44.78 | 38.62 | 48.21 | 53.52 | 52.34 | 59.82 | 54.83 |

| | | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.91 | 4.74 | 4.79 | 4.79 | 4.86 | 4.79 | 4.78 | 4.73 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.84 | 4.44 | 4.43 | 4.62 | 4.69 | 4.57 | 4.53 | 4.57 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.49 | 4.27 | 4.02 | 4.29 | 4.35 | 4.25 | 4.16 | 4.21 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.73 | 2.15 | 2.63 | 2.19 | 2.10 | 2.54 | 2.22 | 2.32 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.70 | 4.59 | 4.74 | 4.73 | 4.52 | 4.61 | 4.59 | 4.59 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.73 | 4.53 | 4.58 | 4.66 | 4.60 | 4.49 | 4.57 | 4.51 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

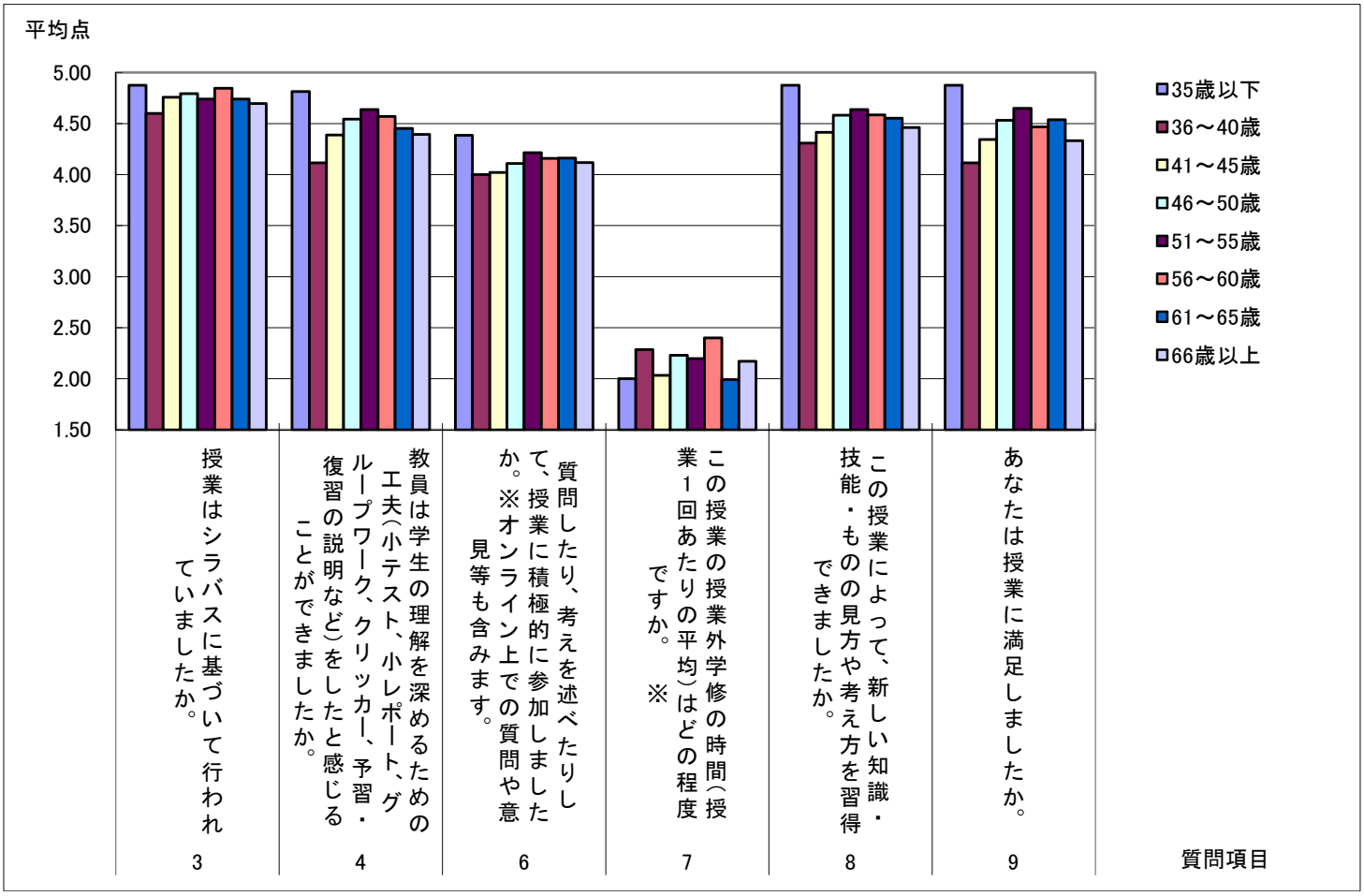


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（教員の年齢別）短大

| | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 23 | 49 | 206 | 456 | 444 | 471 | 936 | 1,112 |
| 回答者数 | 16 | 26 | 64 | 286 | 249 | 246 | 524 | 642 |
| 回答率（%） | 69.57 | 53.06 | 31.07 | 62.72 | 56.08 | 52.23 | 55.98 | 57.73 |

| | | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.88 | 4.60 | 4.76 | 4.79 | 4.74 | 4.84 | 4.74 | 4.70 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.81 | 4.12 | 4.39 | 4.54 | 4.64 | 4.57 | 4.45 | 4.39 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.38 | 4.00 | 4.02 | 4.11 | 4.22 | 4.16 | 4.16 | 4.12 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.00 | 2.29 | 2.03 | 2.23 | 2.20 | 2.40 | 1.99 | 2.17 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.88 | 4.31 | 4.41 | 4.58 | 4.64 | 4.58 | 4.55 | 4.46 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.88 | 4.12 | 4.34 | 4.53 | 4.65 | 4.47 | 4.54 | 4.33 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

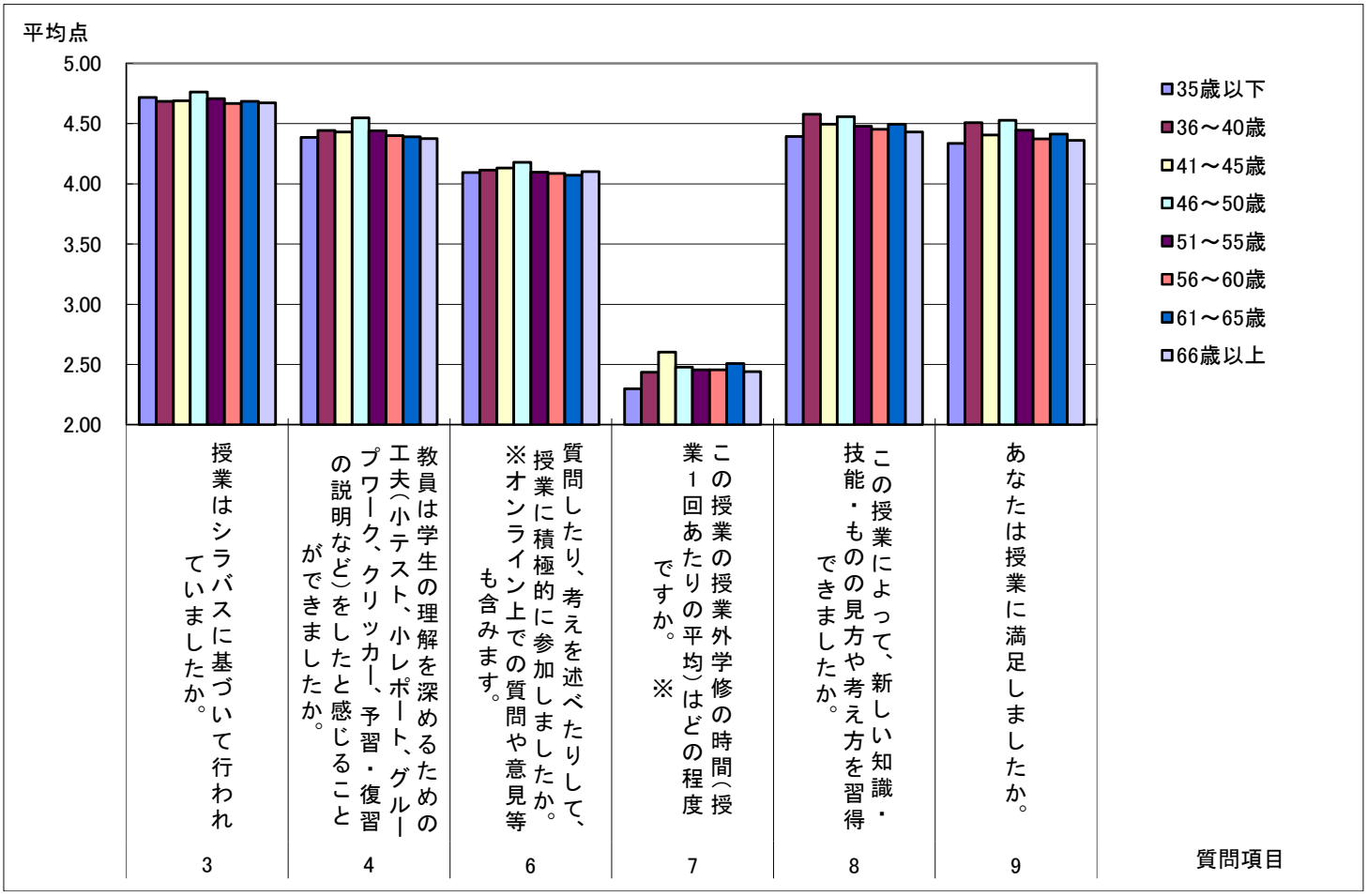


## 2022年度前期　授業改善のためのアンケート集計結果（教員の年齢別）大学・短大合計

| | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,119 | 2,270 | 6,964 | 8,077 | 7,581 | 9,550 | 10,879 | 12,642 |
| 回答者数 | 749 | 779 | 2,057 | 2,628 | 2,664 | 3,115 | 3,822 | 4,665 |
| 回答率（%） | 35.35 | 34.32 | 29.54 | 32.54 | 35.14 | 32.62 | 35.13 | 36.90 |

| | | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.72 | 4.68 | 4.69 | 4.76 | 4.71 | 4.67 | 4.69 | 4.67 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.39 | 4.44 | 4.43 | 4.55 | 4.44 | 4.40 | 4.39 | 4.38 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.09 | 4.11 | 4.13 | 4.18 | 4.10 | 4.09 | 4.07 | 4.10 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.30 | 2.44 | 2.60 | 2.48 | 2.46 | 2.46 | 2.51 | 2.44 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.39 | 4.58 | 4.50 | 4.56 | 4.48 | 4.45 | 4.50 | 4.43 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.34 | 4.51 | 4.41 | 4.53 | 4.45 | 4.37 | 4.41 | 4.36 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

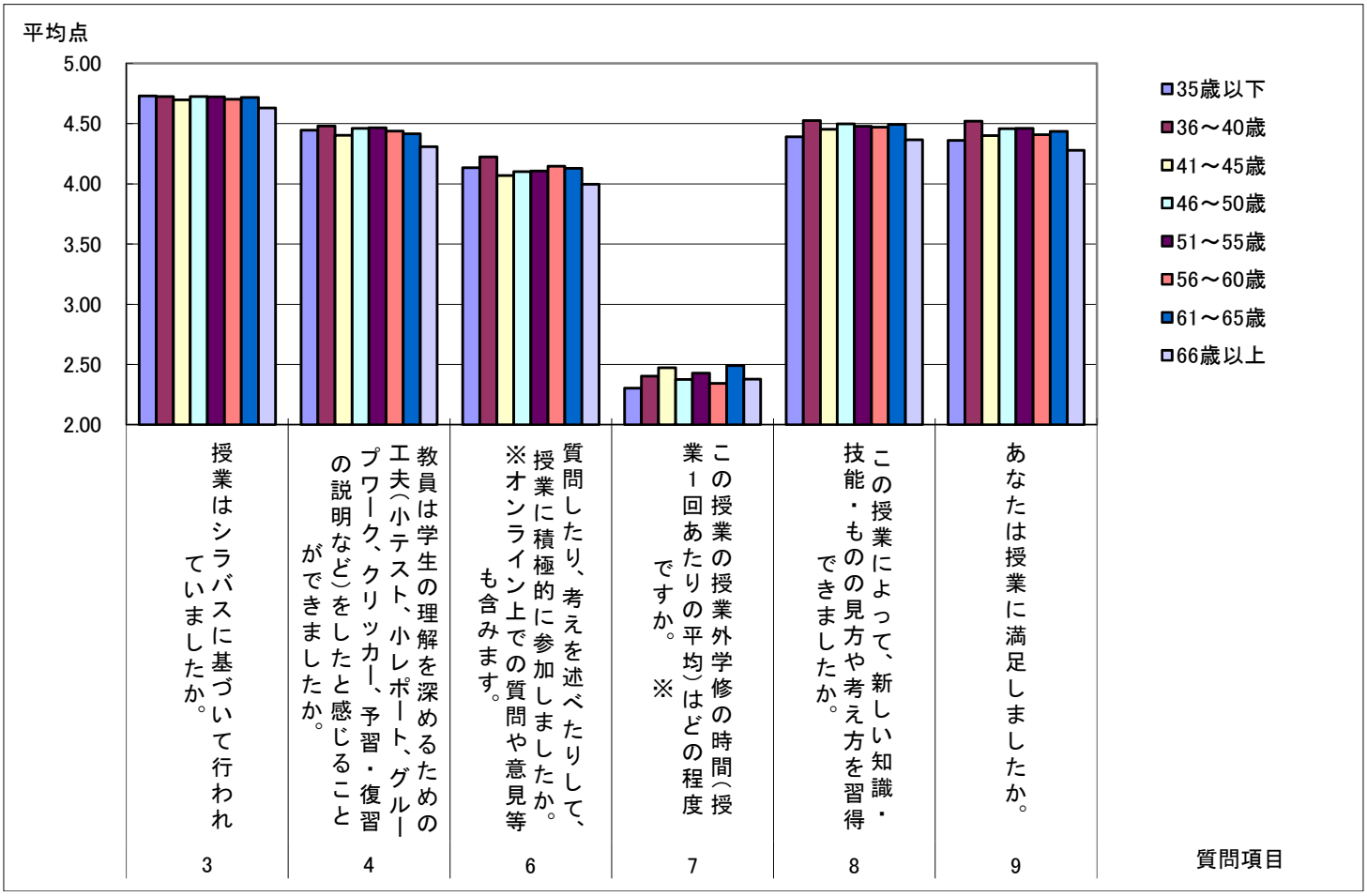


## 2022年度後期　授業改善のためのアンケート集計結果（教員の年齢別）大学・短大合計

| | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修者数 | 2,322 | 2,492 | 7,391 | 7,996 | 6,904 | 8,689 | 8,704 | 10,223 |
| 回答者数 | 795 | 841 | 2,117 | 2,645 | 2,214 | 2,934 | 3,115 | 3,904 |
| 回答率（%） | 34.24 | 33.75 | 28.64 | 33.08 | 32.07 | 33.77 | 35.79 | 38.19 |

| | | 35歳以下 | 36～40歳 | 41～45歳 | 46～50歳 | 51～55歳 | 56～60歳 | 61～65歳 | 66歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。 | 4.73 | 4.73 | 4.70 | 4.72 | 4.72 | 4.70 | 4.72 | 4.63 |
| 4 | 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。 | 4.45 | 4.48 | 4.40 | 4.46 | 4.46 | 4.44 | 4.42 | 4.31 |
| 6 | 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。 | 4.13 | 4.22 | 4.07 | 4.10 | 4.11 | 4.15 | 4.13 | 4.00 |
| 7 | この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。※ | 2.30 | 2.40 | 2.47 | 2.37 | 2.43 | 2.34 | 2.49 | 2.38 |
| 8 | この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 | 4.39 | 4.53 | 4.45 | 4.50 | 4.48 | 4.47 | 4.49 | 4.37 |
| 9 | あなたは授業に満足しましたか。 | 4.36 | 4.52 | 4.40 | 4.46 | 4.46 | 4.41 | 4.44 | 4.28 |

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



## ２ 各学部の令和4年度FD活動の概要報告

### （１）家政学部

**１．令和４年度家政学部FD委員会構成**

委員長：矢野 博之（児童学科）　委員：原木英一（被服学科）　岩瀬靖彦　玉木有子（食物学科）
須藤良子　林原泰子（ライフデザイン学科）
大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：市川 博（家政学部長）

**２．授業改善のためのアンケート**

令和４年度も、UNIPA を利用しての WEB 方式とし、コロナ禍の影響もにらんで、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全９問（選択式は６段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和４年７月 11 日（月）から７月 23 日（土）までで実施。後期は令和４年 12 月 12 日（月）から 12 月 24 日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計、結果等、概況を記す。

①　前後期実施状況

家政学部　回答者数／履修者数　前期：9,775 名／29,711 名　（回答率 32.9%　*昨年 50.3%）
後期：9,547 名／28,392 名　（回答率 33.6%　*昨年 40.7%）

②　総評：家政学部全体として

「満足度」(Q9) の平均点は、前期 4.44、後期 4.40 であった。前年度は前期 4.40、後期 4.37 であったことから、前後期ともに 0.3 ポイント以上上回る結果となった。また、「シラバスに基づいた授業」(Q3) の平均点は、前期 4.70、後期 4.71 であり、前年度は前期 4.62、後期 4.64 であったことから、前後期ともに上回った。

③　家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「家政学部共通科目」の前期については、多くの項目で全体の平均点を下回っている。

「授業への積極的な参加」(Q6) を見てみると、±0.1 ポイント以上が多く見られ、バラつきが大きかった。「満足度」(Q9) を見てみるとあまり大きな差がなく、全体を 0.1 ポイント以上上回る結果は見られなかった。

④　家政学部全体と授業形態別を比較して

傾向としては、「実技」「実習」は全体の平均点を大きく上回る項目が多い結果となった。「実技」では「授業外学習時間」(Q7) は全体の平均点を下回っている。「授業への参加」(Q6) を見てみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」については前後期ともに下回る結果となった。

⑤　家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

傾向は例年と同様で、「1～15 名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向にある。

「授業への参加」(Q6) を見てみると、「51～75 名」と「101 名以上」で全体の平均点を 0.1 ポイント以上下回っている。「満足度」(Q9) を見てみると、「1～15 名」が前後期ともに全体より 0.1 ポイント以上高く、「51～75 名」の後期で、0.1 ポイント以上下回った。

## ３．学部専任教員によるFD報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和5年3月の年度末（期間3月10日～3月31日）に、下記のA～Dの項目について、一人当たりの総記述量が15～20行（最大800字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼し、各教員からFD報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、その後のコロナ禍等の諸対応の状況もにらみながら、令和4年度の状況をふまえ、FD委員会にて検討した結果、昨年度と同等の設問を設定した。

以下A～Dの４項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

---

●項目A：今年度の授業アンケート実施科目のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。

●項目B:コロナ禍にともなう授業実施形態の変更について、その方法と利点および問題点を挙げてください。

●項目C:コロナ禍における授業の成績評価について、苦労した点やどのように対処したかを記してください。

●項目D：アクティブ・ラーニングを実施した授業があれば、その効果や問題点を挙げてください。

---

## ４．本年度の家政学部FD委員会による主な報告・審議事項

令和4年5月18日（水）令和3年度「家政学部FD活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF方式）

第1回家政学部FD委員会　連絡及び文書協議（5月11日（水））：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討，②家政学部内FD研修会の企画検討について）

第2回家政学部FD委員会　連絡及び文書協議（令和5年3月1日（水））：UNIPAによる「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえた令和4年度FD活動報告書作成に向けての確認

なお、令和4年度の活動報告の詳細については「2022年度家政学部FD報告書」を参照されたい。

「家政学部FD報告書」のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェア社に外部委託し、令和5年1月19日（木）に発注、3月31日（金）に納品された。

## ５．次年度への課題と引き継ぎ事項

・家政学部としての学部内FD活動の検討と実施（*コロナ対策の緩和が見えてきた上での、今後のFD活動の在り方の模索と研修企画の立案）

・令和5年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

## （２）文学部

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、令和4年度の文学部FD活動は、前年度に引き続き従来の活動予定を一部変更して実施した。例年、各学科ごとに「授業担当者懇談会」、「保証人と教員の懇談会」、「公開授業」、「学会活動」等を実施するが、「保証人と教員の懇談会」と「公開授業」については実施を見送り、その点では規模を縮小しての活動内容であった。他方、前年度より開始した学生懇談会については今年度も引き続き実施し、対面にて直接学生からの声を集約するという点で一つの要となる活動であった。

### 1. 学生懇談会

文学部学生との懇談会（「文学部学生懇談会」）を、10月18日（火曜）（12:20～12:50）にF棟542教室にて開催、実施した。その目的は、文学部の教育環境、授業、学生生活全般に関して、授業評価アンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。学生は自由参加（事前の申し込み不要）であるが、当日は3名の学生（日本文学科3年生：１名、英語英文学科2年生：2名）が参加し、文学部FD委員5名が懇談に臨んだ。また、オブザーバーとして文学部長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、教育支援センター部長に御臨席いただいた。

事前の広報としては、ポスターを作成し、学生が目にしやすい本館および大学校舎Ａ棟の各所に掲示した。また、各学科ごとにmanaba コースニュースや授業時に適宜案内を行い周知し、学生の参加を促した。懇談会当日は、会場設営の際新型コロナウイルス感染予防を徹底した。学生との懇談は昨年度と同様自由討議形式であるが、今回は学生からの意見・要望等を集約することに徹した。参加人数は少なかったが、各自、友人からの意見・要望を持ち寄っており、授業履修、キャンパスライフ、留学等について多くの意見・要望が披露され、充実した懇談会となった。

懇談会実施後、参加学生から得られた意見・要望等を整理し報告書「文学部学生懇談会：学生の意見・要望」としてまとめ、文学部長、日本文学科長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、文学部教務委員長、文学部学生委員長、教育支援センター部長、学生支援センター部長に報告した。内容を共有いただき、今後に向けての検討、改善に活用いただけると幸いである。なお、懇談会の開催および結果については、令和4年度第8回文学部教授会にて報告してある。

### 2. 公開授業

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、今年度も公開授業の実施を見送った。ただし、例年文学部将来検討委員会からの案内に基づく高大連携事業の公開授業は今年度も実施されている。

### 3. 保証人と教員の懇談会

千鳥会総会に併せて例年実施している保証人と教員の懇談会についても、今年度も実施されなかった。

### 4. 各学科の活動

各学科で行われたFD活動について報告する。例年実施されている授業担当者懇談会については、今年度も予定通り5月の時期に各学科にてオンラインで実施された（日本文学科：5月7日、英語英文学科：5月14日、コミュニケーション文化学科：5月7日）。学科ごとに実施スタイルは様々であるが、授業の進め方等を中心

に常勤・非常勤教員との間で様々な情報提供、意見交換がなされた。

その他、各学科ごとに、例えば、日本文学科の学科内FD研修会（3月5日）や、コミュニケーション文化学科での学科内意見交換会（3月4日）、さらに適宜学科会議等の場において、授業の実施方法や学生への対応等について様々な活動が行われた。

また、学会活動についても、引き続くコロナ禍の影響に配慮しつつ、新入生歓迎会、総会、講演会、例会、プレゼンテーション大会、レシテーションコンテスト、卒業論文発表会等、各学科学会にて様々な活動が実施された。

## 5. 授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の2回、前期は7月11日（月）～ 23日（土）、後期は12月12日（月）～ 24日（土）の期間に学内ポータルサイトUNIVERSAL PASSPORTにてオンラインで実施された。

アンケート実施科目（専門科目、教養科目、諸課程科目、外国語科目）は、前期578 科目、後期574科目で、総科目数は1152科目であった。実施対象としては、これまでの方針に従い、少人数履修者科目や特殊な実施形態の科目のような例外を除いて、原則全ての授業を対象として実施された。

アンケート回答者数（括弧内は昨年度）は、前期8,891（13,080）名、後期8,598（10,012）名、総数17,489（23,092）名であり、昨年度より大幅に減少している。また、回答率（括弧内は昨年度）も、前期は36.51（52.27）％、後期は37.47（43.65）％、平均して36.99（47.96）％であり、これも昨年度からの大幅な低下を示している。今年度は学生へのアンケート周知を前期2回、後期4回行ったが、今年度の全体回答率（前期：34.07％、後期：33.73％、平均：33.9％）と比較すればやや高いものの、昨年度からの大幅な低下は深刻であり、今後さらに回答者数と回答率を高める方法を検討する必要がある。

なお、アンケート設問に対する回答結果としては、授業の進め方、授業成果、授業への満足度等について、昨年度同様に全体を通じて一定程度の高い評価が示された。他方、授業外の学習時間については、わずかながら昨年度より低い評価となった。この点については、昨年度に比べ今年度は対面型授業が相対的に増えており、おそらく授業外課題等の学習作業が総じて減じていることと関連するのではないかと推察される。

以上

## （３）社会情報学部

### １　令和４年度社会情報学 FD 委員会構成

委員長 小野茂（情報デザイン専攻）、委員：山崎志郎(社会生活情報学専攻主任)、池田緑（社会生活情報学専攻)、細谷夏実(環境情報学専攻主任)、松本暢子(環境情報学専攻)、市村哲(情報デザイン専攻主任)、原田龍二（語学代表)、オブザーバー：関えいこ（学務助手：庶務・記録)。

### ２　本年度の FD 活動の概要

令和 4 年度は社会情報学部が組織的な FD 活動を開始してから 21 年目にあたる。これまでの活動成果を継承しつつ、今年度は、本年 4 月より施行された新学習指導要領による高等学校の情報教育の大幅改定が本学部教育に与える影響と提示する課題を見据えながら、FD 活動に取り組んだ。活動の具体化に当たっては、全 10 回の定期委員会と 1 回の臨時委員会におけるオンライン審議を中心に行った。また、委員会のメーリングリストと Google Drive 上の共有フォルダの併用により、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。尚、下記活動の詳細については、『令和 4 年度大妻女子大学社会情報学部ＦＤ活動報告書』に報告されている。

#### ①　学生との意見交換会の開催

11 月 17 日、「入学当初の達成目的から見た社会情報学部の教育内容」をテーマに学生との意見交換会をオンライン形式で行った。交換会では、学生に大学入学当初考えていた目的を振り返ってもらい、その達成度の観点から社会情報学部のカリキュラム並び授業内容に対する評価及び提案を受ける形を取った。

#### ②　FD 研修会の実施

12 月 24 日に FD 研修会を実施した。テーマは、今年度からスタートした高等学校における教科情報の新学習指導要領への移行を受けて、『高等学校における「情報 I」の教育実態』とし、大妻中学高等学校・情報科の教員である桑原先生から「大妻高校における新教科『情報Ｉ』の教育内容と共通テストに向けての受験対策について」と題したご講演を頂戴した。また、新課程移行に伴う受験動向に関して、駿台・ベネッセに対して当委員会が実施したヒヤリングの内容を紹介した。研修会は、昨年同様にオンライン（Zoom）形式で行い、教員 34 名（参加率 92%、欠席 3 名）が参加した。なお欠席の 3 名も後日 Zoom の録画動画を視聴している。

#### ③ FD 研究会の実施

FD 研修会（全学）終了後、引き続き FD 研究会を実施した。市村教授から「ハイブリッド授業の実施に向けた実践的ノウハウの獲得」についての報告があり、その後、参加者による質疑応答がなされた。

#### ④ 特定枠プロジェクト研究の実施

特定枠プロジェクト研究として、以下１件に助成を行った。

研究テーマ「PROG コンピテンシーテスト」

研究代表者：小野　茂

#### ⑤ 入学時学生生活調査の実施

新年度に入った 4 月、社会情報学部 1 年生 312 名を対象に、入学時学生生活調査を Google Forms を用いて実施した。回収率は 87.2%と例年より低い値となった。

⑥　卒業時の学生生活調査の実施

12 月～１月に Google Forms を利用して、匿名性を確保しつつ、卒業時の学生生活調査アンケートを実施した。回収率は 44.8%で昨年より 5%低下した。

⑦　「より良い授業評価アンケートのための教育活動」への専攻別取組み

社会生活情報学専攻では、基礎ゼミにおいて、授業評価アンケートの回答の質を上げ、有効なフィードバック機能を果たす「良い授業評価」について討論を行った。環境情報学専攻では 1 年次前期の専門必修科目である「環境情報学基礎演習」においては、授業評価アンケートの位置づけやその目的などについて説明を行った。情報デザイン専攻では１年次必修科目「情報デザイン基礎演習」において、 授業評価アンケートの意義の利害を深めることを目的としてグループ討論会を実施した。

⑧ オフィスアワーの周知

大学ホームページの教員紹介に掲載されているオフィスアワーの実施方法につき、対面形式とオンライン形式が併用される授業形態に応じ、時間割上、在宅で研究室に訪問できない学生の状況や、年間を通じた感染状況の不確実性を考慮し、授業、ゼミ、クラス担任別に設定されている manaba のコースニュースを通じてオフィスアワーの実施方法（特に、オンラインでのオフィスアワー実施の場合の URL 等）を周知し、例年通り 90 分の教員へのアクセスを確保することとした。

⑨ 授業評価アンケートの実施

全学 FD 活動の一環として、前期、後期にオンラインで実施した。

⑩ 授業評価アンケートに関する教員の意見の提出

従来からの取り組みを継続し、授業評価アンケートに関する教員の意見の提出を行い、とりまとめて全学部教員に配布した。

⑪ 休講の実態調査

例年通り、教員が提出した休講届を基に休講数及び補講による補充率を把握した。

３　その他

本委員会主催の保護者懇談会の実施を検討した。形式（対面・オンライン）、実施目的の絞り込みなどを審議した結果、Covid-19 の感染拡大に鑑み、今年度も見送ることとなった。また、学生と教員とのコミュニケーションの改善策について議論した。実態把握と平行して、改善策について来年度も引き続き審議を継続する予定である。

以　上

## （４）人間関係学部

今年度、人間関係学部は以下の通りの FD 活動の取り組みを行った。

オフィスアワー　オンラインと対面の組み合わせにより実施
授業担当者懇談会（社会学専攻）令和 4 年 5 月 21 日
（社会・臨床心理学専攻）令和 4 年 5 月 21 日
（人間福祉学科）令和 4 年 5 月 21 日
FD 研修会（人間関係学部 FD 委員会主催）　令和 4 年 12 月 9 日
保護者懇談会　令和 4 年 10 月 29 日
学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会　令和 4 年 12 月 23 日

１）学部 FD 研修会の実施

令和 4 年 12 月 9 日(金)に「今、教員が抱えているモヤモヤ」というテーマを３つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3 つのテーマは「多様性のある学生への関わり方」「ゼミの指導方法～授業の展開の方法、活動内容、キャリア教育など～」「教員の研究と大学教育の両立や展開の方法」。研修会の内容と参加者の意見については、令和４年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

２）学生による授業評価

令和 4 年度においても、前期・後期の年 2 回、学生による授業アンケートを実施した。

３）学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会

教育の質の更なる向上に向けて、令和４年度においても、12 月 23 日（金）に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和 4 年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

４）オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本年度は対面とオンラインの組み合わせにより実施した。

５）非常勤講師との教育懇談会

例年前期に実施している非常勤講師との授業担当者懇談会を今年度も 5 月 21 日に実施した。教育懇談会の内容については、令和 4 年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

６）各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためには FD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員

会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

７）各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、令和 4 年度人間関係学部 FD 報告書の中でも各学科における FD 活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

８）クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和 4 年度人間関係学部 FD 報告書の中でも各教員が 1 年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以　上

## （５）比較文化学部

本学部では主に、(I) 授業改善のためのアンケートの実施、(II) 授業担当者懇談会、(III) 父母・教員懇談会 、(IV) オフィスアワーの実施に取り組んだ。紙幅の関係で､以下では主に (I) について詳細に報告する。

### (I)「授業改善のためのアンケート」実施について

a) アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

【前期】

期間：　7 月 11 日(月)～7 月 23 日(土)

方法：　全ての対象科目において、学生は UNIPA からアンケート回答ができるようになっているため、授業担当者は該当科目の履修者に回答を促す。

【後期】

期間：　12 月 12 日(月)～12 月 24 日(土)

方法：　前期と同様

いずれも、実施期間になると UNIPA を通じて学生に通知され、学生は UNIPA にログインしてアンケートを実施するという方式が取られた。対面授業とオンライン授業が混合する中、UNIPA と manaba 双方に注意を払わなければならない学生がアンケート実施を見落とすことを懸念して、FD 委員会より教授会で告知をおこない、教員からも学生のアンケート参加を促してもらうよう依頼した。

b) 実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部には、通年、半期あわせて前期授業 217 コマ、後期授業 212 コマ（共に、3 年ゼミの比較文化演習と、4 年ゼミの比較文化セミナーを含む）が開講されている。開講されている授業は、講義、演習、語学等々さまざまな形態があり、受講者数も数名規模から 200 名近くまでさまざまである。そうした授業間の差異は集計結果を組み合わせることによってかなりの程度考慮、検討することができる。そのため本学部では、原則としてゼミ（3 年ゼミに相当する比較文化演習ならびに 4 年ゼミに相当する比較文化セミナー）を除く全ての科目でアンケートを実施した。

c) 実施科目の受講者数と有効回答数

実施科目の受講者数は、前期 20,750 名である。うち、有効回答者数は 7,505 名(回答率 36.16%)であった。後期の実施科目の受講者数は 20,135 名である。うち、有効回答者数は 7,209 名(回答率 35.8%)であった。

d) 集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは各授業別の集計結果だけでなく、授業方法別（講義・演習・講義演習)、区分別（外国語・教養・専門)、クラスサイズ別、言語別、学年別、担当教員の職名別、担当教員の年齢別、全授業の平均評定平均度数分布といった集計結果が納品された。これまで本学部の報告書には評定平均度分布が掲載されていたが、昨年度以降、納入されたデータは学部ごとに集計・整理されたものではなく全学のデータとなったことから、今回の FD 報告書（以下の f で説明）には掲載していない。

e）アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、成績登録期間終了後に UNIPA から担当教員が直接確認することができるようになった。そのため、アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPA を通じて授業担当教員本人にその旨を告知した。

f）教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する所感、感想執筆を全教員に対して依頼した。前期は専任教員 3 名、非常勤教員 7 名の計 10 名から、後期は専任教員 3 名、非常勤教員 4 名の計 7 名から応答があった。

g）一連のサイクル実施の報告

従来、年度開始後（前期）のアンケート結果の概要につき、後期に開催される父母懇談会にて説明してきたが、近年は web で公開することができるよう、PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊している。

h）公開するアンケート集計結果について

数値として算出される集計結果はそのまま報告書に公開しているが、学生による意見・感想を掲載することは、昨年度同様見送ることとした。学生による意見・感想には時に非常に示唆的なものが見られる反面、無責任あるいは感情的なコメントや授業期間中に教員とコミュニケーションをとって解決することができたであろう事案も見られるからである。一方、教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答でもあるため、表記統一と誤字脱字の修正を除いて原則編集せずに掲載した。アンケートが web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果については即時に確認することができるようになった。ただ、同じような集計結果が他の授業―たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目など―にも見られるのかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、報告書には専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載している。

（II）授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 4 年 5 月 8 日に実施した。今年度も ZOOM で実施した。

（III）父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 4 年 11 月 12 日に実施した。今年度も ZOOM で実施した。

（IV）オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以　上

## （６）短期大学部

### １．令和４年度短期大学部 FD 委員会の構成と活動方針

短期大学部 FD 委員会は家政３専攻から各１名、国文科から１名、英文科から１名の計５名の専任教員によって構成されている。昨年度に引き続き、以下の項目を中心にして、FD 活動の実施・検討を行った。

（１）授業改善のためのアンケート （２）オフィス・アワー （３）ホームページ （４）保証人との懇談会
（５）授業公開 （６）学習支援活動 （７）FD 講演会、FD 研修会 （８）満足度調査

### ２．令和４年度の FD 活動の概要

活動の詳細は、令和４（2022）年度 FD 活動報告書第 20 号に掲載した。ここでは、その概要を記す。

#### (1)「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD 基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサルパスポート)」でオンラインによるアンケート実施である。設問数全９問により実施した。アンケートの実施期間は、前期は令和４年７月 11 日（月）～7 月 23 日（土)、後期は令和４年 12 月 12 日（月）～12 月 24 日（土）であった。

昨年度との比較として学期末で見ると、短期大学部全体として、前期は履修者総数 4,521 人中 2,389 人、後期は履修者総数 3,697 人中 2,053 人から回答を得た。№3～9 までのカテゴリーの平均値は前期 4.23、後期 4.16 であった。

#### (2) オフィス・アワーについて

各学科・専攻の専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、今年度もコロナ禍対応中であるため、zoom や E メールも活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心掛けた。

#### (3) ホームページについて

本年度も短期大学部広報委員会を中心に、家政科、国文科、英文科が共同で、短期大学部ホームページの維持と管理を実施した。

今年度は昨年度、指摘されたシステムのプラットフォームの老朽化に伴う改修にかかる作業が中心に行われた。短期大学部で使用しているコンテンツ・マネジメント・システム（以下、CMS とする）については、導入後年数が経過したためセキュリティ面の不安があり、改修を行うこととなった。改修に際しては業者との相見積もりを実施して、従来からの実績も考慮して、業者選定を行い、改修を進めていくこととなった。

令和４年度のコンテンツの管理に関しては、生活総合ビジネス専攻の新任教員ページの更新、オープンキャンパスなどの実施状況、フードスペシャリスト検定における学生の成果、教員の受賞、世羅町との地域連携などの情報掲載を行った。

#### (4) 保証人との懇談会

令和４年度は、家政科３専攻が保証人との懇談会を実施した。家政専攻では、対面で実施し、１年間の学生生活の流れをはじめ、教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容をスライド、

資料配布で紹介した。今年度の保護者懇談会は、開催前の作業のスリム化と当日の新しいプログラム内容で実施され、以降の新しいフォーマットの 1 つが提案できたといえよう。生活総合ビジネス専攻では、Zoom 利用で教職員の紹介、専攻・資格、成績表の見方、編入、就職についてなど、パワーポイントを用いて説明を行った。食物栄養専攻では、校外実習報告会へのオンライン参観形式で、2 年生の保護者を対象に行われた。チャット機能で質問などを受け付けるなどし、保護者からは「オンラインでの参観は遠方に住むものにとって、ありがたい企画である。」などの意見が寄せられた。国文科、英文科は実施しなかった。

**(5) 授業公開について**

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員 17 名が授業を公開し、国文科では専任教員の 1 名が、英文科では専任教員 1 名が公開担当した。「授業公開」に関する案内は、E メールで周知した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施して、参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、また両者での話し合いの場を設けて意見交換をするなどして、今後の授業の改善に繋げた。

**(6) 学習支援活動について**

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施されている。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

**(7) 短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について**

FD 講演会は、「学生募集に資するFDご提案」を令和4年11月10日（木）にオンライン（zoom）で開催した。講師は池内健治氏である。学生募集についてどのような工夫を実践しているのか、具体的な事例を紹介していただいた。短期大学部の全員の教員が参加し、「非常に参考になった」との感想が寄せられた。
また FD 研修会「授業改善を学生とともに考える」を令和 5 年 2 月 14 日（火）に対面で開催した。当日の参加者は、学生 10 名、教員は短期大学部の学部長、学科長、専攻主任、教務委員など教員の合計 13 名であった。

あらかじめ学生にはグループディスカッションのテーマを配布し、当日までに準備を依頼し、学科専攻ごとに分かれ議論した。学生からは活発な意見が寄せられ、直接学生の声を聴く貴重な機会となり、多くの示唆を得た研修会となった。

**(8) 満足度調査について**

満足度調査は、教育成果の確認と教育環境の改善・向上に役立てることを目的として例年実施しており、今年度はコロナ禍対応のため令和 5 年 1 月 16 日（月）～2 月 5 日（日）にオンラインの Google アンケートで行った。卒業年次生を対象として無記名で実施したところ、回答の総計は 146 名（前年は 185 名）であった。
「全体的にみて」の項目では、「満足」が 52%（昨年は 28%）で「やや満足」の 26%（昨年は 35%）を加えると 78%（昨年は 63%）となり、概ね満足と回答している。やや不満足」と「不満足」の合計が 4%と低く、評定平均は 4.26 であった。「満足」と答えた者の割合は、2021 年度よりも 26%も高くなり、全体的にみた学生の満足度は上昇した。

以　上

## ３　人間文化研究科の令和４年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科 FD 委員会は、令和 4 年度～6 年度の 3 年計画で、大学院における FD 活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的な FD 活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

### Ⅰ．令和 4 年～6 年度大妻女子大学大学院 FD 実施計画

１．基本方針

大学院 FD 委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

**①　FD 活動の目標**

大学院 FD 活動の目標を次のように定める。

① 学部・短大 FD と大学院 FD の連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望した FD 活動を実施する。

② 教育活動に有益な FD を実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。

③ 教員対象の FD にとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的な FD に取り組む。

④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

**②　FD 活動の計画**

大学院 FD 活動の計画は次の通りとする。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

③ 「大学院修了時アンケート」

④ 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD 委員会に報告する。

⑤ 学会発表の奨励に関する活動

活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年 1 回、FD 委員会に報告する。

⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動

活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年 1 回、FD 委員会に報告する。

⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動

「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。

⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動

活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年 1 回、FD 委員会に報告する。

⑨ 就職支援に関する活動

活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年 1 回、FD 委員会に報告する。また、大学院生の就職支援体制の充実を図る。

⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人院生に対して制度の充実や環境整備を具体的にどのように推進していくか検

討する。
⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動
専攻･専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育･研究体制のあり方について検討する。
大学院の組織の見直しを随時検討する。
⑫ その他の活動
大学院生室の有効活用の検討などを行う

## Ⅱ．FD 活動の実施状況

以下、３つのアンケート調査を実施した。①と②については、平成 28 年度から Web を利用して調査しており、③については令和 3 年度から新たに実施した調査であり、Web を利用して行っている。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、10 月に実施した。その結果については、「Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で 10 月に実施した。その結果については、「Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了時アンケート」

令和5年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に2月～3月にかけて実施した。その結果については、「Ⅴ.大学院修了時アンケート（結果の概要）」として、本報告書に掲載した。

## Ⅲ．大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

### Ⅲ−1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成 22 年 4 月（2010 年）に改組して以来、13 年目を迎えた。本年度も「大学院 FD 活動実施計画」に基づき、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（Ⅳ.参照）を実施した。前者は修士 1 年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施した。以下に両調査の結果の概要を提示する。

### Ⅲ-2 進学意識に関する調査の目的と方法

「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、修了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

### Ⅲ-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は、次の要領に基づいて実施した。

(1) 調査の対象：令和 4 年度人間文化研究科各専攻修士 1 年生 27 名を対象とした。回答者は 16 名だった。
(2) 調査の期間：令和 4 年 10 月 14 日（金）～10 月 30 日（日）
(3) 調査の方法：Web を利用して行った。
(4) 回収の状況：平成 27 年度から今年度までの 1 年生の回答者数と回収率を表 1 に示した。期間

中、2 度、回答催促を行った。今年度の回収率は 59%で、一昨年度および昨年度の 83.3%と比較すると激減した。

表１　大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

| 対象者 | 平成28年度 (H28) | 平成29年度 (H29) | 平成30年度 (H30) | 令和元年度 (R1) | 令和2年度 (R2) | 令和3年度 (R3) | 令和4年度 (R4) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新入学者 | 22 | 24 | 18 | 18 | 18 | 12 | 27 |
| 回答者 | 16 | 19 | 12 | 17 | 15 | 10 | 16 |
| 回答率(%) | 72.7 | 79.2 | 66.7 | 94.4 | 83.3 | 83.3 | 59.2 |

**Ⅲ-4　大学院への進学の動機について**

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る 1～12 項目に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表 2 に示した。「非常に重視した」5 点、「かなり重視した」4 点、「どちらとも言えない」3 点、「あまり重視しなかった」2 点、「ほとんど重視しなかった」1 点、「まったく考えたことがない」0 点として平均点を算出した。

表２　大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

| | | 平均点数（5～1 点評価） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H28 (n=16) | H29 (n=19) | H30 (n=12) | R1 (n=17) | R2 (n=15) | R3 (n=10) | R4 (n=16) |
| 1 | 将来、研究職・臨床職に就きたいこと | 3.7 | 3.9 | 2.9 | 3.4 | 2.8 | 3.2 | 3.6 |
| 2 | 専門分野の学位が取れること | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 3.6 | 3.8 | 3.8 | 4.2 |
| 3 | 就職に有利になること | 3.5 | 3.3 | 2.3 | 2.5 | 3.0 | 2.6 | 2.8 |
| 4 | 自宅・会社からの通学が便利なこと | 2.1 | 3.2 | 3.0 | 2.6 | 3.3 | 2.9 | 2.5 |
| 5 | 指導を受けたい教員がいること | 4.4 | 4.4 | 3.8 | 4.0 | 4.5 | 3.9 | 4.0 |
| 6 | 大学のネームバリューがあること | 2.3 | 2.5 | 2.2 | 1.8 | 2.5 | 2.0 | 2.6 |
| 7 | 就職を先に延ばせること | 2.2 | 1.7 | 1.6 | 1.3 | 1.3 | 1.2 | 1.4 |
| 8 | 希望する就職先がなかったこと | 1.5 | 1.4 | 1.2 | 0.6 | 1.4 | 1.3 | 0.7 |
| 9 | 奨学金を受給できること | 2.7 | 2.3 | 1.6 | 1.8 | 1.3 | 0.6 | 0.9 |
| 10 | 専門の資格が取れること | 4.0 | 3.8 | 3.1 | 2.6 | 2.0 | 3.1 | 3.6 |
| 11 | 研究したいことがあること | 4.2 | 4.3 | 3.8 | 4.1 | 4.2 | 3.6 | 4.0 |
| 12 | 在学中の学費の支払いのこと | | 3.5 | 3.4 | 2.9 | 3.4 | 2.8 | 2.9 |

※表中数値は平均値

表 2 に見られるように、全体的な傾向としては過去 6 年間とほぼ同様であり、「指導を受けたい教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「研究したいことがあること」といった項目が上位を占める。一方、「将来、研究職・臨床職に就きたいこと」「専門の資格が取れること」も比較的上位にある。

この質問に対しては、2 件の自由記述があった。

・卒後教育が充実しているから
・周辺環境を含めた立地と設備

## Ⅲ-5　大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表３　大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

| | | 平均点数（5～1 点評価） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | H28 (n=11) | H29 (n=19) | H30 (n=12) | R1 (n=17) | R2 (n=15) | R3 (n=10) | R4 (n=16) |
| 1 | 本学の先輩の研究成果を見たこと | 1.9 | 2.8 | 1.7 | 2.4 | 2.0 | 1.6 | 2.2 |
| 2 | 大学院に行っている友人・知人からの情報 | 2.5 | 2.9 | 2.0 | 2.9 | 2.1 | 1.8 | 2.2 |
| 3 | 両親や兄弟姉妹から勧められたこと | 1.1 | 1.8 | 2.2 | 1.9 | 1.3 | 0.9 | 1.5 |
| 4 | 自分の配偶者の意見 | 0.3 | 0.6 | 1.1 | 0.8 | 0.2 | 1.3 | 0.7 |
| 5 | 大学院紹介の受験雑誌などの記事 | 1.2 | 2.1 | 1.2 | 1.1 | 0.9 | 0.8 | 1.9 |
| 6 | 本学発行の大学院紹介パンフレット | 3.0 | 2.9 | 2.6 | 2.6 | 2.3 | 1.4 | 3.4 |
| 7 | 学内の大学院進学説明会 | 2.5 | 3.6 | 2.9 | 1.8 | 2.6 | 2.1 | 3.3 |
| 8 | 学外の大学院進学説明会 | 1.2 | 1.4 | 0.8 | 0.8 | 0.2 | 1.4 | 1.8 |
| 9 | 本学のホームページの記事 | 2.7 | 2.6 | 2.0 | 2.9 | 2.5 | 1.3 | 2.9 |
| 10 | 指導教員になる教員との相談 | 4.5 | 3.9 | 4.2 | 4.2 | 4.5 | 3.6 | 3.6 |
| 11 | 学部時代お世話になった教員との相談 | 2.7 | 3.0 | 3.4 | 3.1 | 2.9 | 2.4 | 設問欄なし |
| 12 | 出身の大学の先生との相談 | 2.7 | 3.0 | 3.6 | 2.5 | 2.0 | 2.5 | 2.6 |
| 13 | 出身の高校の先生との相談 | 0.9 | 0.8 | 0.2 | 0.4 | 0.3 | 0 | 0.2 |
| 14 | 教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから | 3.9 | 3.8 | 3.6 | 3.9 | 3.9 | 3.1 | 3.3 |
| 15 | 他の大学院にはない独創的な文化資源（蔵書、マニュスクリプト、物的資料など）があると考えたから | 1.6 | 2.1 | 1.8 | 1.9 | 2.4 | 1.6 | 2.4 |

※表中数値は平均値

「指導教員になる教員との相談」が高い得点であるのは、例年通りである。「学内の大学院進学説明会」「本学発行の大学院紹介パンフレット」が高い得点となったのは、新しい傾向であると考えられる。

自由記述欄に「志望する大学院に所属している大学院生の方からの情報」という記載が 1 件あった。

なお、「学部時代お世話になった教員との相談」は、「出身の大学の先生との相談」と設問が類似していたため、削除した。

## Ⅲ-6　他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」の質問に対しては、16 名中 15 名が「いいえ」と答えた。他大学大学院受験生は 1 名であり、それは、昭和女子大学 生活機構研究科 心理学専攻であった。

## Ⅲ-7　大学院修了後の進路及びどの様な大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どの様に考えていますか」については、平成 28 年度からの推移を表 4 にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表４　大学院修了後の進路について（複数回答）

| | | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 博士後期課程に進学したい | 22 | 26 | 42 | 35 | 13 | 0 | 37 |
| 2 | 外国に留学したい | 22 | 16 | 17 | 6 | 0 | 10 | 6 |
| 3 | 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい | 28 | 21 | 25 | 12 | 13 | 0 | 6 |
| 4 | 専門社会調査士として就職したい | 0 | 0 | 17 | 6 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 臨床心理士として就職したい | 22 | 37 | 33 | 24 | 13 | 40 | 44 |
| 6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい | 6 | 16 | 8 | 24 | 13 | 20 | 19 |
| 7 民間企業で一般職の業務に就きたい | 11 | 0 | 17 | 24 | 20 | 0 | 19 |
| 8 民間企業で総合職の業務に就きたい | 11 | 16 | 17 | 24 | 13 | 30 | 12 |
| 9 公務員として就職したい | 11 | 11 | 17 | 12 | 20 | 0 | 25 |
| 10 大学教員として就職したい | 6 | 16 | 8 | 29 | 13 | 0 | 12 |
| 11 まだ具体的に考えていない | 28 | 5 | 8 | 18 | 27 | 60 | 19 |

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

表 4 に関しては、「臨床心理士として就職したい」が、昨年 40%から今年は 44%に上昇した。また、「博士後期課程に進学したい」が昨年 0%から今年は 37%と飛躍的に上昇した。

自由記述欄には、以下の二つの記載があった。

・修士課程で学んだことを生かせる道に進みたいと考えています。

・福祉・教育分野での就職を考えています。

「どんな大学院生活を送りたいか」の質問に対しては、平成 28 年度からの推移を表 5 にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表５　どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

| | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 専門分野についての研究中心の生活をしたい | 44 | 63 | 17 | 59 | 53 | 30 | 37 |
| 2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい | 61 | 58 | 50 | 53 | 80 | 70 | 62 |
| 3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい | 44 | 42 | 25 | 18 | 0 | 30 | 25 |
| 4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい | 17 | 16 | 8 | 18 | 0 | 30 | 25 |
| 5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい | 11 | 16 | 8 | 12 | 20 | 20 | 12 |
| 6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい | 17 | 37 | 25 | 18 | 47 | 30 | 56 |
| 7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい | 0 | 11 | 17 | 12 | 7 | 10 | 12 |
| 8 アルバイトや遊びも大いにやりたい | 11 | 6 | 8 | 12 | 13 | 20 | 19 |
| 9 自由な時間をできるだけ楽しみたい | 17 | 16 | 17 | 18 | 33 | 20 | 25 |
| 10 どうするか、まだはっきり考えていない | | | | 9 | 7 | 0 | 0 |

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は 100%を超えている。

回答率が高い順に、「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」62%、「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」56%、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」37%、「自由な時間をできるだけ楽しみたい」25%という結果が得られた。

### Ⅲ-8　大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと」の質問に対しては、以下の 13 件の記載があった。

・就職について悩みました
・自分の将来の夢に一歩でも近づくことができるかどうか
・時間が確保できるか
・専門外の教科を履修するにあたって、その内容を理解できるかどうか。
・心理職の就職枠の少なさ。
・自分自身、大学院での学びについていけるか心配なこと。
・金銭的なことを一番悩みました。奨学金のことや就職のことを考慮して最適な方法は何か考えました。
・修士の先の進路
・入試に受かるか、資格が取れるか、卒業できるか
・大学院に入学できるかどうか、課題や実習などをこなせるかどうか。
・大学院に進むことは親の迷惑にはならないか
・内部進学を希望していたので、まず受験基準の GPA を超えられるかどうかのプレッシャーに悩みました。
・時間の調整、お金

## Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成 25 年度から回答を、「非常にそう思う；5 点」から「まったくそう思わない；1 点」までの 5 段階評価としている。評価点は、回答者全員の平均点と最高点、最低点を算出している。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な学生生活が制限されている状況を鑑み、設問を一部変更した。(1)は今年度からの変更点であり、(2)は令和 2 年度からの変更で、今年度もこれを踏襲した。

(1)新型コロナ感染症の感染拡大状況および授業実施形態の変化によって回答に差が出る可能性があることから、「学年」を設問に加えていたが、対面授業を中心とした学生生活に好転しているため、「学年」を問う設問は廃止した。

(2) 通常、回答のための選択肢は 1～5 の中から選んでいるが、昨今の状況により影響を受ける一部の設問には、「0. コロナ禍により利用していない 等」を加えた。

（ア） 調査の対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生 48 名
（イ） 回収の状況：39 件の回答があった（回答率 81.2%）。

結果の概要は以下の通りである。

### Ⅳ-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表 6 の通りである。問 1 から問 4 までの各項目は 5 段階評価で概ね 4 点前後にあり、コロナ禍の制約はあったものの授業や研究指導はおおむね適切に行われているという評価であったといえる。

しかしながら、問 5 の学外研究・学外実習に関する項目は修士課程 1 年が 2.6、博士後期課程が 3.7 と低く、全平均も 2.8 にとどまった。昨年度よりも若干回復したものの新型コロナウイルス感染症の影響が学外での諸活動を制限したことが読み取れる。

表６　大学院の授業全般についての評価

| 課程 | 回答数 | 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた | 授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった | 授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた | 研究指導や論文指導のあり方について適切であった | 学外研究・学外実習について希望通り実施することができた |
| 修士課程 | 31 | 4 | 4.1 | 4.3 | 4.3 | 2.6 |
| 博士後期課程 | 6 | 4.5 | 4.5 | 4.7 | 4.8 | 3.7 |
| 未選択 | 1 | 4 | 4 | 4 | 3 | 未回答 |
| 全平均 | 38 | 4.1 | 4.2 | 4.4 | 4.4 | 2.8 |
| 最高点 | 38 | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最低点 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 |

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

続いて、大学院の履修および研究環境については表７の通りである。

事務手続きのシステム全般、およびガイダンスの日程や実施方法、図書館他学校の施設設備については４前後の評価が得られており、コロナ禍に対応した運用ができていたと考えられた。**Ⅳ-2** にとりあげた自由記述欄の記載を読むと、システム全般について、「UNIPA で登録できなかった」「研究助成金の振り込みに時間がかかる」という指摘があった。

図書館については、専門図書の充実を望む声があった。これは図書館としては、極めて由々しい事態である。これは、重要な事柄なので、最後に総括した。また、院生自習室については、多摩キャンパス所属の院生から、千代田キャンパスに比べ差別を感じる、という指摘があった。

表７　大学院の履修および研究環境について

| 課程 | 回答数 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | システム全般の手続き方法について分かりやすかった | ガイダンスの日程や実施方法について適切であった | 図書館他学校の施設設備について満足している | 院生自習室の利用方法について満足している |
| 修士課程 | 31 | 3.5 | 4 | 3.5 | 3.9 |
| 博士後期課程 | 6 | 3.8 | 4.3 | 4 | 3.2 |
| 未選択 | 1 | 未回答 | 未回答 | 4 | 未回答 |
| 全平均 | 38 | 3.5 | 4 | 3.6 | 3.8 |
| 最高点 | 38 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最低点 | | 2 | 3 | 0 | 0 |

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

教育・研究支援について表８に示す。

表８　教育・研究支援について

| 課程 | 回答数 | 問10 | 問11 | 問12 |
|---|---|---|---|---|
| | | 院生自習室の設備について満足している | 事務職員の対応は適切であった | 大学院の学費・奨学金は適切であった |
| 修士課程 | 31 | 3.3 | 3.9 | 3.6 |
| 博士後期課程 | 6 | 2.7 | 4 | 3.5 |
| 未選択 | 1 | 10 | 5 | 4 |
| 全平均 | 38 | 3.2 | 4 | 3.6 |
| 最高点 | 38 | 5 | 5 | 5 |
| 最低点 | | 0 | 1 | 1 |

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

評価結果から、全体的には適切であったといえよう。しかしながら、**Ⅳ-2** にとりあげた自由記述欄の記載から、多摩キャンパスにおけるプリンタ関連の不満の声が顕著である。

**Ⅳ-2　大学院の授業全般（問 1～5）、履修・研究環境（問 6～9）、教育・研究支援（問 10～12）に関する自由記述欄への記述状況**

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1.「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

・知らなかったことや、新しいことを学んだことによって、学部生の時以上の知識を得ることが出来た。
・質問のしやすい環境のため、理解を深めやすかった。
・授業数が予告なく増えて、負担になることがあった。
・自分自身 時間がとれず、先生に質問等出来ない状態が多い。

問2.「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

・そのほかの大学院の実際がわからないので比較できないが、質の高い学びを提供してもらったと思う。
・学部生として当たり前に知っていなければならないことを、再度やる場合がありその点は修士課程として適切ではないと感じた。
・学生のレベルが低くて教授陣に申し訳なく思う。
・範囲はさらに広がっても面白さがあって良いと思う。

問3.「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

・和歌などには今までほとんど触れなかったため専門知識をしっかりと得ることが出来た。
・自分の専門以外の授業であっても、意義を感じることができた。
・学部時代にとりきれなかった授業の補足をしてもらえたので助かった。

問4. 「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

・指導教員はじめ、希望すればさまざまな教員が指導をしてくれる。毎週 1 回のペースで指導してくれるのもありがたい。また学部の先生方も興味を持ってくれており、ご指導くださることも、とてもありがたい。
・まだそこまで論文について行っていないため。

問5. 「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

・コロナ禍もあるが、現場は受け入れてくれた。検査は必要だが、受け入れてくれるだけでありがたい。
・大学院の授業全般に関しては、教授・講師・助手の皆さんのおかげで多彩な分野を濃密に学べていると感じています。
基本的な座学だけでなく、実践的な知識についても学べている実感があります。臨床心理師あるいは研究者としての経験を、教授・外部講師を問わず皆さん共有してくださり、そこから学べるものは教科書にはない、本当に貴重で価値のある学びだと思ってます。ディスカッションの機会も潤沢にあり、先生・学生間だけでなく、先輩・後輩、同期同士でも考えを共有し学びを深める機会ばかりです。
教育に関しては、一切の不満等はありません。
・新型コロナウイルスに罹ると持病が悪化するため禁止されているから実施できていない。
・コロナの影響による実習先の都合もあり実習内容が予定通りとはいかず、その領域の実習経験が乏しく感じる為。
・TA とのスケジュールの兼ね合いがあり、学外実習先の選択肢がなかったため。

問 6.「システム全般（UNIPA での履修登録、研究助成）の手続き方法について分かりやすかった。」

・研究助成については、意見があります。まず、研究助成金(B)の金額が決定されてから、振り込みまでに相当な時間がかかりすぎだと思います。この研究費で、院生室のインク代やコピー代、書籍代を賄っており、大変重要なものとなっています。決してないがしろにされてはいけないと思います。指導教授とともに、4 月中真剣に考えて作成したものです。もし振り込みに時間を要した理由があるなら、説明してほしかったです。理由があるならば、納得もします。来年以降の参考にしてください。
・履修登録について：ユニパで登録したのにも関わらず、ユニパでは登録できず後日窓口に行き登録しなおさなくてはいけないものなどがあった為。
・上の先輩が研究助成の見本としてご自身の当時の書類を見せてくださらなかったら手続きをすることは難しかったと思う。
ページをまたがってはならないことを知らなかったため、ページ数をオーバーしてしまい、再提出となった。

問7. 「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

・ガイダンス後に不明な点が出てきた際、解決までに時間がかかった。

問8. 「図書館他の学校の設備について満足している。」

・問 6～8 に関して。事務対応、施設運営の皆さんに関しては、対面・非対面問わずに毎回誠実に対応してくださっていると思っています。システム全般、助成関係、提出物等におけるメールでの案内、資料配布など円滑に行われているため、とてもありがたいです。他大学の院生からは「事務が何も教えてくれない、支援制度があってもいつの間にか始まっていつの間にか終わっている」という旨を聞くことがあるので、大妻の運営の皆さんの配慮を日頃から感じています。

・臨床心理学関連の図書が多摩キャンパスにはなくて、千代田キャンパスにあるものが多々あります。心理学部のある多摩キャンパスを優先していただきたいです。
・図書館の本（特に専攻分野に関わる学術の図書をもっと充実できましたら大変助かります）
・図書館や文系共同図書室の学術系雑誌の種類を増やして欲しい。
・図書館のインターネット環境があまり良くない為。
・食堂の営業時間が短い。
・他の図書館から文献のコピーを取り寄せたときに、支払いが郵便局のみでしかできないのは不便に感じた。

問9.「大学院生室・大学院生自習室の利用方法（利用時間も含む）について満足している。」
・自習室がもう少し広いと嬉しいです。
・（欲を言えば 24 時間、大学内に居て研究していたいのですが、）22 時まで開門してくださっているのでありがたいです。警備の皆さんの帰宅時間を考えると、ちょっと申し訳ない部分もありますが…。
・多摩:閉門の関係もあるかと思うが、他大のように利用時間の制限を無くして欲しい。（閉門時間後は翌朝開門まで院生室から出れないなどでも良いので）

問 10.「大学院生室・大学院生自習室の設備（PC・プリンタなどの設置機器、辞書・参考文献などの資料、室内レイアウト）について満足している。」
・プリンタが新しくなり、どのプリンタでもカラー印刷ができるようになったことはとてもありがたい。ただ、インクのなくなるペースが早いので、論文提出時期の混雑が心配。PC の動きはとてもよい。
・　多摩キャンパスですが、専攻の先生方のご厚意（自費のプリンター購入、使っていたものを譲っていただく）や先輩方の置き土産（冷蔵庫、電子レンジなど）で設備面なんとか成り立っているのが正直なところです。（事務の皆さんも、設備の調整作業に真摯に携わってくださいました。）
千代田キャンパスと比較して、「在籍人数少ない＝運用できる設備費が少ない」のは重々承知ですが、あまりにも”お下がり”に頼りきっている印象があります。千代田キャンパスの設備を実際に使えたことがない（授業の関係で一切立ち入らないので……）ので、内実は詳しくは知らない立場から発言させていただきますが、キッチンがないこと、水道がないことはなかなかに不便な感じがあります。（建物の構造上、水道が引けないのも納得できますが、）先述したプリンターの件なども相まって「（教員、事務は頑張って支援してくれているのに、）多摩キャンパスだけ、施設面なにも支援されてないね」という感想を抱いてしまいます。
・PDF が編集出来ない。
・プリンタがパソコン室に設置されているものと比べて印刷が遅いです。また、インクや用紙の消耗が激しく、補助金だけで補うことが難しいです。インクや用紙を大学で購入していただけますと幸いに存じます。
・スキャナーの存在をもっと周知させたり使い方を明記したほうがいい。持ち腐れている。
・多摩キャンパス所属です。インク代だけで半年で 12 万円を超えました。なにかもう少し補助があると嬉しいです。
・プリンターなどの修理が必要になった場合は、出来るだけ迅速に対処して欲しいと思います。修理が必要な状態が続き、学内発表や修論・博論の提出期間になると、プリンターが使えず困ります。
・多摩:プリンターなどの設置機器の不調などがあるとどのように直すべきなのかなど院生全員で試行錯誤している状態で時間をかなり使っている。そして不調になる頻度も高い。過去、勉強しにきているのかプリンターを直しにきているのかわからないような日もあっ

た。インク代も研究助成金または院生の自費で賄っており、学費で払っている教育充実費などにそれは含まれていないのかと非常に疑問に思う。
・多摩校のプリンターやパソコンに不備が多く、自分たちで解決しなければならない事ばかりで不満がある。
・千代田のコピー機は図書館でカードを買ってくださいとなっていたが、前期の序盤は図書館のカード販売機が壊れていたので利用することができなかった。
・プリンターが早くて助かります。またオンライン会議のある都合上、個室もたまに使用させていただいてます。非常にありがたいです。

問 11. 「事務職員の対応は適切であった。」
・大所帯のため、細分化されているため、総合窓口が必要か。
・研究支援室の倫理審査申請書を指導教員経由で何度も確認していただき、大変お世話になりました。

問 12. 「大学院の学費・奨学金制度について」
・大学院の奨学金が、養育者の収入でしか申請できないことが疑問です。
大学院には仕事をしながら通う学生がいますが、特に学部からストレートで大学院に入った学生は本人の収入だけでは学費を用意することは簡単ではありません。しかしながら、奨学金の申請は養育者の収入でしか申請することができないため、結果的に奨学金を受けられず自らの収入から学費を用意するしかありません。学生本人の収入から奨学金を申請できるようにして欲しいです。
・学費を上げても良いのでもう少し環境整備をしていただいても良いのではないかと感じる。

### Ⅳ-3　ハラスメントについて

平成 24 年度からアンケート調査項目に「ハラスメントについて」を取り入れた。ハラスメントに関する平成 28 年度からの調査結果を図 1 に示した。「経験がある」が 1 名、「答えたくない」が 2 名であった。自由記述欄には 1 名が次のような意見を述べている。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨、例年通り明記している。

・大学院生は短い期間に成果を出すことを求められ、メンタルヘルス上の問題を抱えやすい環境です。また、指導教員と院生は非常に慎重さを求められる関係であることも、双方が認識しておくべきかと思います。

アンケートから、ハラスメントあるいはそれに近い状況がいまだに存在していることが推測される。内容如何にかかわらず、ハラスメントは本来一件もあってはならないことであるが、指導教員と学生が 1 対 1 になりがちな大学院は起こりやすい環境であるとも言える。ハラスメントは一過性の行為ではなく常習的に行われることが多く、加害者側にハラスメントの認識がないケースがほとんどであることから、学生が副指導教員を含めた複数の教員から指導を受けられる体制を整え、学生の SOS 信号をできる限り早いうちに見つけ出すしくみの確立が重要である。

これまでとってきたハラスメント防止対策を再度、確認しておきたい。

① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。事案には FD 委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。
② ハラスメントに関する回答の FD 報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。
③ 専攻会議等で結果を報告し、注意喚起を行う。

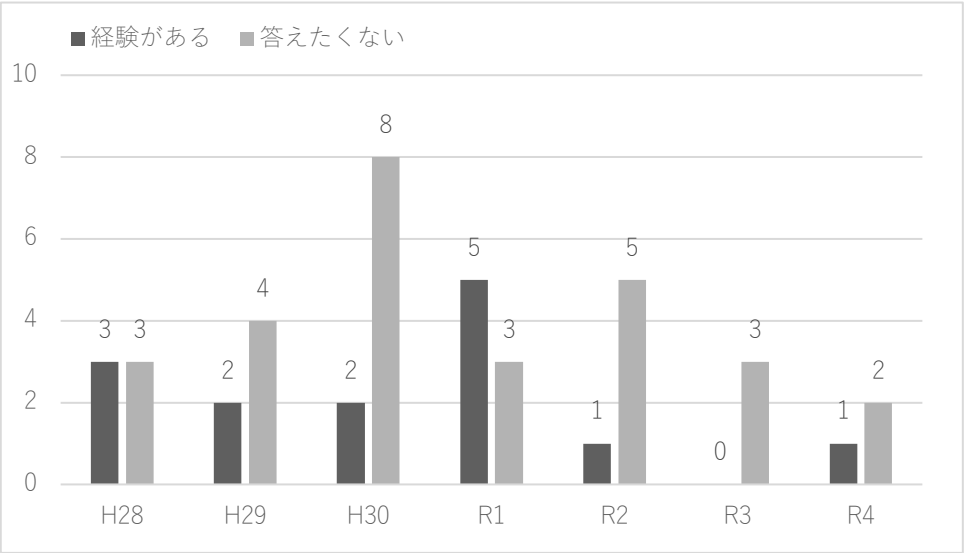



図 1 ハラスメントについて

**Ⅳ-4　社会人特別選抜の入学者への配慮について**

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは 13 名から回答を得た。77%が「5　非常にそう思う」か「4　そう思う」のいずれかであった。しかし、自由記述欄のような問題を指摘する声があった。これは、専任と非常勤との意識の差があるのかもしれないので、両者間で意識の統一を図るべきではないかと考えられる

社会人入学者の自由記述は 3 件あった。

・日中の仕事を配慮していただけるのはありがたいが、Zoom の使用もあいまって多くの講義が夜間に行われる雰囲気にある。これが行き過ぎると、一般の院生にとっては、まるで夜間通信大学院のようになってしまうのではないかとも思う。職場の理解を得つつ、日中の時間帯に対面での履修も考えなければならないのではないか。

・社会人対応してくださるとのことだったが、手続きがよくわからず、時間の変更ができない授業があった。

・多くの先生方はご協力下さり助かりました。一部の非常勤講師の先生とは履修登録前にやり取りは拒否され、相談すること自体難しく、のちに履修取り消しをせざる得なくなりました。

**Ⅳ-5　その他意見・希望について**

この質問に対する自由記述欄には以下のような記述があった。

・大学の FD 活動は、中間発表の後に行われますが、結局はいつも同じ先生が答えていて、解決にいくまえに、意見をあまり聞いてもらえてないような、解決していないような感じがします。他大学と比較して学費が安いので、あまり文句は言えませんが、コピーインク代がもう少し、変わればいいなと思います。また、学外実習の実習費ですが、個人によって出す額が違います。実習先も結局は、先生が選んでいる節があるのに、実習費が無料の学生もいれば、負担額が 3 万円の学生もいます。この実習費は学校が負担というのは、考えた事はないのでしょうか。自分が勉強したいから、行くのは当然である実習に、そういった暗黙の負担というのは、どこか違和感を感じます。意見をたくさん書いてしまいましたが、日々大変お世話になっておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## Ⅴ．大学院修了時アンケート（結果の概要）

### Ⅴ-1 大学院修了時アンケートの目的

このアンケートは、令和 5 年 3 月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に在学期間中の学修環境や体験･修得した能力について把握し､また自由記述による意見を集約することで、教育・研究環境改善につなげることを目的として、令和 3 年度より新たに実施した。

### Ⅴ-2 調査対象・方法・期間・回収状況

（1）調査対象：大学院修士課程及び博士後期課程修了予定者（満期退学含む）13 名
（2）調査方法：Google フォームによる WEB アンケート
（3）調査期間：令和 5 年 2 月 27 日～3 月 19 日
（4）回収状況：回答数 8 件、回答率 61.5%

結果の概要は以下の通りである。

### Ⅴ-3 学修環境等についての評価

評価は表 9 の通りである。問 1 から問 6 までの各項目は 4 段階評価で「そう思う」4 点、「ある程度そう思う」3 点､「あまりそう思わない」2 点､「そう思わない」1 点として平均点を算出した。

表 9　研究・授業、進路、学生生活についての評価

| | 回答数 | 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 本学大学院在学中は研究・学業に意欲的に取り組みましたか | 開講科目の数や種類は十分でしたか。 | 授業内容は、全体として満足していますか。 | 研究指導や論文指導について指導教員から十分な指導を受けることができましたか。 | 修了後の進路は希望に沿ったものになりましたか | 大学院での学生生活に満足していますか。 |
| 全平均 | 8 | 3.5 | 3.4 | 3.3 | 3.5 | 3.4 | 3.4 |
| 最高点 | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 最低点 | | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

問 1 から問 6 までの平均値は 3.3～3.5 の範囲内であった。それぞれの質問項目間における顕著な差異は、伺われない。

## Ⅴ-4　大学院在学中に体験・修得した能力

知識や能力の向上に大きく役立ったことを表１０に、在学中に修得した能力について表１１にまとめた。

表１０　知識や能力の向上に大きく役立ったことについて（複数回答）

| | R3 | R4 |
|---|---|---|
| 1　大学院での授業全般 | 70 | 50 |
| 2　指導教員による指導 | 90 | 75 |
| 3　研究活動 | 90 | 50 |
| 4　論文執筆 | 70 | 25 |
| 5　論文発表、最終試験 | 50 | 25 |
| 6　資格取得 | 0 | 12.5 |
| 7　院生時代に築いた人脈 | 50 | 50 |
| 8　その他 | 0 | 12.5 |
| 9　特に役立っているものはない | 0 | 12.5 |

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

表１０からは、次のことを読み取ることができる。知識や能力の向上に大きく役立ったこととしては、昨年度と比較し、概して低調である。とりわけ「論文執筆」の 25%というのは、異常な数字のように思われる。なぜなら、院生にとって、論文執筆は、自らの根幹にかかわる行為であるからである。それと連動する事柄が、次の表１１からも窺がうことができる。すなわち、「ものごとを分析する力」50%、「問題を論理的に考える力」50%、「プレゼンテーションを準備し発表する力」50%は、決して、手放しで喜んでよい数字ではない。

しかしながら、「人間関係を築いたり調整する力」87.5%、自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力」75%というのは、注目すべき数字である。すなわち、コロナ禍にありながらも、対人交渉に関するスキルを体得している、と考えられるからである。

一方で、「英語の運用力」「情報技術の運用力」に関しては、共に 0%であった。これは領域による必要性の差異があると思われるが、研究者として成長する場合、不安な要因であると思われる。

表１１　在学中に修得した能力について（複数回答）回答率（%）で表示

| | | R3 | R4 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教養 | 30 | 12.5 |
| 2 | ものごとを分析する力 | 90 | 50 |
| 3 | 問題を論理的に考える力 | 80 | 50 |
| 4 | 特定の専門分野に関する理解力 | 70 | 75 |
| 5 | 肯定的な意味で批判的に考える力 | 30 | 37.5 |
| 6 | 自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力 | 60 | 75 |
| 7 | リーダーシップ | 0 | 12.5 |
| 8 | 人間関係を築いたり調整する力 | 30 | 87.5 |
| 9 | 地域社会が抱える問題への関心や理解力 | 20 | 37.5 |
| 10 | 明快かつ簡潔に話す力 | 20 | 25 |
| 11 | 表現すべき内容の文章を書く力 | 50 | 62.5 |
| 12 | 英語以外の外国語の運用力 | 0 | 0 |
| 13 | プレゼンテーションを準備し発表する力 | 60 | 50 |
| 14 | 学術的な文献の読解力 | 40 | 62.5 |
| 15 | 情報技術（ICT）の運用力 | 10 | 0 |
| 16 | 国際的な諸問題に対する関心や理解力 | 0 | 0 |
| 17 | 英語の運用力 | 0 | 0 |
| 18 | ものごとの本質をみて判断しようとする力 | 50 | 37.5 |
| 19 | 自分を律して行動する力 | 40 | 37.5 |
| 20 | 得た知識やスキルを活かして問題を解決する力 | 60 | 50 |
| 21 | これらの項目については特に伸びていない | 0 | 0 |

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

## V-5 教育全般についての自由記述

教育全般について、以下のような自由記述があった。

・2 年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

・先生方のモラハラなどが目立つときがあり、あまり頼れませんでした。

・教員の皆様、事務の方々からの手厚いご支援を賜り、十分すぎるほど数多くのことを学ばせていただきました。それでも自分はまだまだ未熟者ですし、愛着もあるため、もっとこの大学に通っていたいのが正直なところです。今までありがとうございました。お世話になりました。

## Ⅵ.　院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

| 専攻 | 実施内容 |
|---|---|
| 人間生活科学専攻D | 保育・教育学専修は修士課程の学生と合同で実施した。健康・栄養科学専修は、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。 |
| 人間生活科学専攻M<br>（健康・栄養科学専修） | 令和 3 年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。 |
| （生活環境学専修） | 令和 2 年度および令和 3 年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。 |
| （保育・教育学専修） | 専修内での中間発表を 11 月 10 日（木）16 時 30 分～18 時に千代田キャンパス F742 教室において Zoom によるオンライン参加も含めて行い、院生と教員との間で修論に関しての質疑応答の場を設け、飲食を伴う懇談会は実施せず、終了時に参加した院生にお菓子を配布した。 |
| 言語文化学専攻<br>（日本文学専修） | 言語文化学専攻日本文学専修では、令和 4 年 7 月 21 日（木）および 12 月 22 日（木）に開催した「日本文学専修院生研究発表会」終了後、日本文学専修の院生及び教員の懇談をおこなった。 |
| （国際文化専修） | 新型コロナウイルス感染症等の影響により、院生・教員懇談会は実施できなかった。 |
| 現代社会研究専攻<br>（臨床社会学専修） | コロナ禍が続いたため本年度も懇談会を実施しなかった。しかしながら個々の担当教員が不断に学生からの意見や要望を聞き入れるようにしていた |
| 臨床心理学専攻 | 2022 年前期と後期の 2 回、大学院授業、実習、院生室の環境や学生生活等について、意見や要望、質問等を出してもらうように依頼した。その後、書面で提出された意見等に関し、オンラインで院生と大学院担当教員とで質疑応答と意見交換の時間を設けた。このオンライン会議には専任教員と院生全員が参加した。この時の話し合いを受け、院生室の PC 環境（プリンター・コピー機を含む）の環境調整を行った。さらに種々の授業に関わる情報について有意義な情報交換をすることができた。その他、2023 年 2 月 25 日（土） には非常勤講師（スーパーヴァイザー）と院生の顔合わせと交流を目的とした懇談会/情報交換会を行うなど、昨年と同様に定期的な FD 活動を行い、その結果を大学院教育と院生生活の整備に還元している。 |

## Ⅶ.　学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の参加状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「発表」は含まないものとし、別途、Ⅸに記載する。

| 専攻 | 活動類型 | 件数 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 人間生活科学専攻<br>博士後期課程 | 学会参加 | 3 件 | 【健康・栄養科学専修】<br>第 76 回日本栄養・食糧学会大会、第 31 回日本バイオイメージング学会学術集会<br>【保育・教育学専修】<br>乳幼児教育学会 |
| 言語文化学専攻<br>博士後期課程 | 学会参加 | 3 件 | 【日本文学専修】<br>日本近代文学会春季大会、日本近代文学会6月例会、昭和文学会研究集会 |
| 人間生活科学専攻<br>修士課程 | 学会参加 | 14 件 | 【健康・栄養科学専修】<br>第 76 回日本栄養・食糧学会大会、日本食物繊維学会第 27 回学術集会、日本災害食学会 2022 年度学術大会、第 53 回日本膵臓学会大会市民公開講座「パープルリボン セミナー京都 2022」、東京都栄養士大会、第 81 回日本公衆衛生学会、日本栄養士会・2022 年度定時総会、日本調理科学会・2022 関東支部講演会<br>【保育・教育学専修】<br>日本発達心理学会第 33 回大会、日本保育者養成教育学会、日本乳幼児教育学会、日本保育学会第 75 回大会<br>【生活環境学】<br>共立女子大学大学院 学位(博士)請求論文公聴会、第 14 回 2022 年度生活科学系コンソーシアム博士論文発表会、海洋教育学会設立準備会 |
| 言語文化学専攻<br>修士課程 | 学会参加 | 9 件 | 【日本文学専修】<br>第 54 回大妻女子大学国文学会総会、ないじぇるクリエイティブ会議−古典のミライにアイデアを！−、中世王朝物語研究会例会<br>【国際文化専修】<br>GPF japan『国際社会で重要な役割を担う日本にとって、朝鮮半島統一がもたらすインパクトとは？』、GPF japan『北朝鮮経済の変化と今後の展望―経済成長と国民生活の向上をどう実現するか―』、韓服イベント講演会、東アジア大学生ピースフォーラム 2022『核問題』、東アジア大学生ピースフォーラム 2022『在日コリアンの民族教育について』、2022 年度中国文化学会大会、日本中国学会第 73 回大会、2022 年度キリシタン文化研究会大会 |
| 現代社会研究専攻<br>修士課程 | 学会参加 | 1 件 | ポジショナリティと日本社会～日沖関係・ジェンダーを中心に～ |
| 臨床心理学専攻<br>修士課程 | 学会参加 | 8 件 | 日本心理臨床学会第 41 回大会、産業・組織心理学会第 37 回大会、日本認知・行動療法学会第 48 回大会、日本心理学会第 86 回大会、動物介在教育・療法学会、産業・組織心理学会、日本応用心理学会、日本・キャリアカウンセリング学会 |

## Ⅷ.　学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「令和 4 年度大学院要覧」11 頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第 8 番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和 5 年 2 月 25 日に実施した。総勢 13 名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

### 令和4年度　修士論文発表プログラム
### （オンラインによる開催）

日時　　令和5年2月25日(土)9時00分開始（ミーティングへの入室は8時40分から可）

開会の挨拶　田中　直子 人間文化研究科長
総合司会　　田中　優 教務委員長

| 開始予定時刻 | 発表順 | 発表者 |
|---|---|---|
| 9:00 | | 田中優 教務委員長プログラム説明 |
| 9:05 | | 田中直子 研究科長あいさつ |
| 9:10 | 1 | 臨床心理学専攻 |
| 9:27 | 2 | 臨床心理学専攻 |
| 9:44 | 3 | 現代社会研究専攻　　臨床社会学専修 |
| 10:01 | 4 | 臨床心理学専攻 |
| 10:18 | 5 | 人間生活科学専攻　　健康・栄養科学専修 |
| 10:35～10:45　休憩・接続確認 | | |
| 10:45 | 6 | 人間生活科学専攻　　健康・栄養科学専修 |
| 11:02 | 7 | 臨床心理学専攻 |
| 11:19 | 8 | 臨床心理学専攻 |
| 11:36 | 9 | 人間生活科学専攻　　健康・栄養科学専修 |
| 11:53 | 10 | 臨床心理学専攻 |
| 12:10～13:10　昼食休憩・接続確認 | | |
| 13:10 | 11 | 現代社会研究専攻　　臨床社会学専修 |
| 13:27 | 12 | 人間生活科学専攻　　保育・教育学専修 |
| 13:44 | 13 | 人間生活科学専攻　　健康・栄養科学専修 |

・持ち時間1人17分（発表12分、質疑応答・交代5分）です。発表開始から12分経過時、17分経過時が分かるよう、Zoom上でお知らせします。
・発表開始時間は進行状況により前後する場合があります。また、通信の不具合やその他の都合により発表が開始されない場合は、発表順を変更する場合があります。

【オンライン実施上の注意】
・Zoomを利用して開催します。ミーティングのURLは、別途送信するメール本文でご確認ください。
・Zoomの個人表示名は自身の氏名にしてください。発表者は氏名の前に「発表」の文字を入れてください。
（例：　発表　大妻花子）
・発表時、Zoomを接続している場所の周囲の環境音や、紙をめくる音などが雑音としてマイクに入ることがありますので、極力静かな環境で参加してください。
・入室時はマイクをミュートにし、発表順になったらミュートを解除してください。発表の2分前にはマイク・カメラを用意し、パワーポイント画面共有の準備をしておいてください。
・自分の発表以外は録音や録画をしないでください。

## Ⅸ.　院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和 3 年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.32　2022”に掲載される。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

| 専攻 | 発表形式 | 題目 |
|---|---|---|
| 人間生活科学専攻<br>博士後期課程 | 口頭発表 | 保育者は自らの視線についていかに語るか<br>―保育者の実践的思考様式の検討― |
| | 口頭発表 | 0 歳児クラス担任保育者の「実践知」<br>―保育者の行為と思考を手がかりに― |
| | 口頭発表 | 大麦に含まれるβ-グルカン及びアラビノキシランがマウスの腸内発酵や GLP-1 分泌に及ぼす影響 |
| | 口頭発表 | 大麦β-グルカンの摂取による胆汁酸代謝を介した脂質代謝の改善メカニズムの検討 |
| | 論文発表 | Consumption of barley flour increases gut fermentation and improves glucose intolerance via the short-chain fatty acid receptor GPR43 in obese male mice |
| | 論文発表 | A single administration of barley β-glucan and arabinoxylan extracts reduce blood glucose levels at the second meal via intestinal fermentation |
| | 論文発表 | Arabinoxylan as well as β-glucan in barley promotes GLP-1 secretion by increasing short-chain fatty acids production |
| | ポスター発表 | オレイン酸が膵臓β細胞の酸化ストレス耐性に与える影響 |
| | ポスター発表 | Association between chewing habit and<br>risk of excess gestational weight gain（Eri Abe） |
| | 口頭発表 | 大型積み木を使用した初期段階の遊び場面におけるリスクマネジメント2 |
| | 論文発表 | 遊び場面におけるリスクマネジメントー「ズレ」概念の提案ー |
| | 口頭発表 | 幼児教育・保育の視点から見たアートパーク |
| | 口頭発表 | 幼児と小学生の参加する持続可能な社会を目指すアートワークショップ |
| | 口頭発表 | リサイクル素材を用いた造形活動　～ストロー素材の塊を使って何ができるかな？～ |
| | ポスター発表 | |
| | 口頭発表 | 子どもが楽しむ＜アート＝芸術＞感とは　～アートワークショップの実践を通して～ |
| | 論文発表 | 子どもたちのためのアートワークショップの可能性―持続可能な発展とホリスティック教育の観点から― |
| | 論文発表 | 保育の可視化とドキュメンテーションの活用実態及びその課題 |

| | | |
|---|---|---|
| | 論文発表 | 幼児教育・保育の視点から見たアートパーク |
| | 論文発表 | キットパスで教材研究～子どもたちと教員の探求～ |
| | 論文発表 | 模擬保育は実習とその後の学びにどのように関連しているのか<br>－実習事前事後指導時の学生の自己評価の変化に着目して－ |
| | 口頭発表 | The relationship between Panel Theater and Sustainability of Concentration – Focusing on Children with Poor Concentration |
| 言語文化学専攻<br>博士後期課程 | 論文発表 | いとうせいこう「想像ラジオ」論<br>―フクシマからの死者たちの声が共存し続けるために |
| | 論文発表<br>口頭発表 | 宮崎駿の中国での SNS の評価から考える<br>－宮崎駿という人物と彼の作品に纏わる異文化受容－ |
| 人間生活科学専攻<br>修士課程 | ポスター発表 | 女子大学生を対象とした食事記録調査方法の検討<br>―平日と休日に分けて行う必要性について― |
| | 口頭発表 | 遊び場面の「ころがしドッジボール」における「ノリ」とは |
| 言語文化学専攻<br>修士課程 | 論文発表 | オルガンティーノと宇留岸伴天連(仮)　渡邉顕彦共著予定 |
| | 口頭発表 | 在日コリアンが抱える問題。現地社会との摩擦 |
| | 口頭発表 | 2018 年の南北首脳会談を経て朝鮮半島がどのように変化したか、また日本と朝鮮半島の外交関係について |
| | 口頭発表 | アメリカ合衆国と日本の外交関係による謝罪の難しさ |
| | 論文発表<br>口頭発表 | 呉昌碩早期における文人的思考の考察ー刻印と側款からの発信を通してー |
| 臨床心理学専攻<br>修士課程 | 口頭発表 | 心理療法におけるポジティブ感情の<br>相互的感情調節プロセスモデル構築と検証 |
| | 口頭発表 | 社交不安に対するエクスポージャーへの補完的介入としてのアニマルセラピーの有効性の検討 |
| | 論文発表 | キャリアレジリエンス測定尺度の再構成と短縮版の作成 |
| | ポスター発表 | オンラインオンデマンドでの呼吸法誘導の効果 |
| | ポスター発表 | 感覚処理感受性が主観的幸福感に及ぼす影響 |

## Ⅹ.　他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「令和4年度大学院要覧」27頁を参照されたい。

## ⅩⅠ.　就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

| 専攻 | 主な進学先・就職先 | |
|---|---|---|
| 人間生活科学 | 就職 | ・亀田製菓株式会社 |
| 臨床心理学 | 就職 | ・社会福祉法人同仁学院　さまりあ<br>・横浜市立横浜市民病院<br>・東京都教育相談センター　東京都教育相談室<br>・相模原市立青少年相談センター |
| | 進学 | ・大妻女子大学大学院　人間文化研究科　博士後期課程　健康・栄養科学専修 |

## XII.　社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。

また、「大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例」により勤務形態に配慮した教育研究体制を希望する学生の入学にあたり、入学先となる人間生活科学専攻教員への周知体制を強化した。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

## XIII.　研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成 23 年度入学生より、「中間発表会（旧研究計画発表会）」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

## XIV.　その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

ティーチング・アシスタント等について

| ティーチング・アシスタント等に任用される大学院生・研究生 | 担当授業科目 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 所属・学年等 | 開講学科等 | 授業科目名 | 授業担当教員名 | 開講時期 | 開講曜日・時限 | 開講校地 |
| 人間生活科学専攻（修士課程） | 家政学部<br>食物学科<br>管理栄養士専攻 | 人体構造機能論実験 | 高波　嘉一 | 前期 | 金曜 4 限 | 千代田校 |
| | 家政学部<br>食物学科<br>管理栄養士専攻 | 実践統計学 | 清原　康介 | 後期 | 水曜 3 限 | 千代田校 |
| | 家政学部<br>食物学科<br>管理栄養士専攻 | 生活環境実験 | 田中　直子 | 前期 | 木曜 3、4 限 | 千代田校 |
| | 家政学部<br>食物学科<br>管理栄養士専攻 | 食品学実験 | 渡辺　雄二 | 後期 | 金曜 3、4 限 | 千代田校 |
| | 家政学部<br>食物学科<br>管理栄養士専攻 | 基礎調理学実習Ⅱ | 玉木　有子 | 後期 | 月曜 3、4 限 | 千代田校 |
| | 社会情報学部<br>社会情報学科<br>環境情報学専攻 | 情報処理実習A | 鈴木　優志 | 前期 | 木曜 3、4 限 | 千代田校 |
| 臨床心理学専攻（修士課程） | 人間関係学部 | コンピュータ応用 | 西川　徹 | 前期 | 月曜 4 限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会・臨床心理学専攻 | 基礎統計学Ⅰ | 伊藤　尚枝 | 前期 | 火曜 3 限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会・臨床心理学専攻 | 基礎統計学Ⅰ | 高橋　幸子 | 前期 | 火曜 3 限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会・臨床心理学専攻 | 社会・臨床心理学基礎セミナー | 八城　薫<br>三好　真 | 前期 | 火曜 4 限 | 多摩校 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 臨床心理学専攻<br>（修士課程） | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会･臨床心理学専攻 | 基礎統計学Ⅰ | 八城　薫 | 前期 | 水曜２限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会･臨床心理学専攻 | キャリア心理学セミナー | 八城　薫<br>本田　周二<br>三好　真 | 前期 | 水曜４限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部 | コンピュータ基礎A | 小幡　正子 | 前期 | 水曜４限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会･臨床心理学専攻 | 心理学統計法 | 八城　薫 | 後期 | 火曜２限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会･臨床心理学専攻 | 基礎統計学Ⅱ | 伊藤　尚枝 | 後期 | 火曜３限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会･臨床心理学専攻 | 心理学基礎実験 | 堀　洋元<br>伊藤　尚枝 | 後期 | 火曜４限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部<br>人間関係学科<br>社会･臨床心理学専攻 | 基礎統計学Ⅱ | 本田　周二 | 後期 | 水曜１限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部 | コンピュータ基礎B | 小幡　正子 | 後期 | 水曜４限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部 | コンピュータ基礎B | 齊藤　豊 | 後期 | 金曜２限 | 多摩校 |
| | 人間関係学部 | コンピュータ応用 | 齊藤　豊 | 後期 | 金曜３限 | 多摩校 |

## ＸＶ．　おわりに

今回は、「大学院進学意識に関するアンケート」「大学院の研究・教育に関するアンケート」「大学院修了時アンケート」の３種類のアンケートを実施した。評価を点数化し経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはほぼそのままを掲載した。

一昨年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学院生はもとより教職員も大きな制約を受ける中で大学院教育が実施されている。今年度は昨年度に比較すると状況は回復しているものの、調査研究は大きく制約を受け、学生間の交流、並びに、対外的な活動も自由に行えない状況である。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後の統計上の数値の推移を考慮に入れ、慎重に判断する必要があろう。

今回、アンケート結果を通覧し、多肢選択からは掬いきれない、自由記述の内容がとても参考になるとの印象を受けた。とりわけ、登録の問題、モラハラの指摘は、たとえ少数であろうとも、看過できない事柄であると思われる。

今回のアンケートで一番気になったのは、「図書館の専門書を充実させてほしい」という声であ

る。これは、現行の図書館の現状に、院生が満足していないことを表している。しかし、「本がない」と言って手をこまねいているのは、あまりにも消極的である。専門領域に関する情報は、図書館司書よりも、院生の方が圧倒的に詳しいはずである。院生は、その分野の専門家であるという自覚を持ってほしい。院生には、図書館に対して、必要図書の購入を図るよう働きかける積極性が欲しい。それが、自らのみならず、同輩、あるいは、今後の後輩に裨益する道であり、図書館の収蔵図書の充実につながる。具体的には、図書館に以下の制度があるので、活用が望まれる。これは、教員と院生が共有すべき情報と思われる。

制度：図書購入申込み

○この制度の電子媒体上の情報：

図書館 HP ＞ 利用案内 ＞ 学生の方

■図書の利用方法

(7) 購入希望の申し込み

https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/guide/student/

○この情報の紙媒体の情報

「学生生活の手引き」

「図書館利用のしおり」（図書館 1 階カウンター横に設置）

○具体的な利用法：

<1> 図書館 HP トップページにある「MyOPAC」をクリック

<2> 学内システム利用アカウントで「MyOPAC」にログイン

<3> 「利用者サービス」メニューの「図書購入申込み（学生・職員用）」から手続き

図書館 HP

https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/

○利用するにあたって留意すべき事項

<1> 一人あたりの金額および冊数の上限は設けていない。

<2> 図書館の予算と収納スペースには限りがある。

<3> 高度に専門的なものや、数万円以上の高額な図書、全集やセットものの場合は、図書館へ購入を申し込む前に、指導教官に相談してみること。

○図書館 HP に記された留意すべき事項

<1> 図書館 HP → 利用案内 → ご質問・ご意見・ご要望 →

これまでのご質問・ご意見・ご要望はこちら

よくあるご質問　Q. 欲しい本がない・本を買って欲しい

https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/guide/question/answer/

<2> 図書館 ＞ 情報検索 ＞ データベース ＞ 蔵書検索

MyOPAC　次の点にご注意ください

https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/info/database/?my-open=true#myopac

（上記の情報においては、図書館の協力を得ました。）

今後もこのような FD 活動を継続していくとともに、院生の声に日常的に耳を傾け、それに対して、教員および職員が、柔軟かつ迅速に対応することが重要であると考えられる。

以　上

# Ⅱ　全学ＦＤ講演会・研修会

## １　講演会・研修会の内容及びアンケート結果

（１）　FD 講演会：「障害学生に対する合理的配慮の実際
－改正障害者差別解消法の施行に向けて大学が取り組むことー」
講師：京都大学　学生総合支援機構　准教授　村田　淳 氏
日時：令和4年7月22日（金）16:30～18:00　Zoomによるオンライン開催

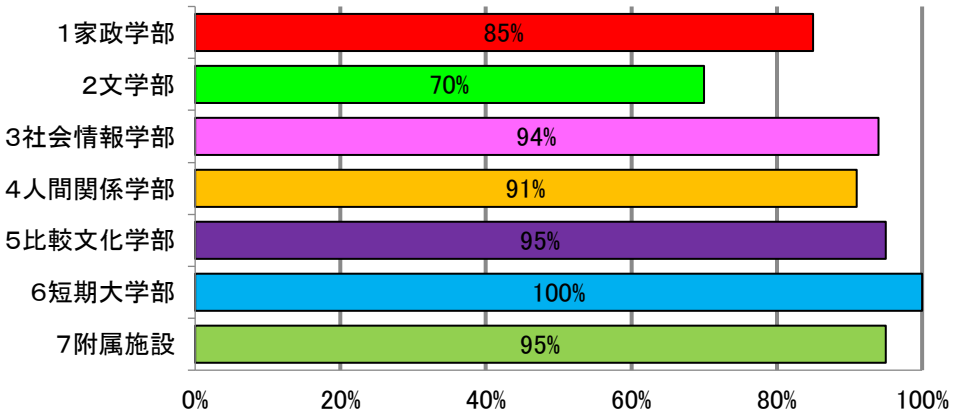
# FD 講演会アンケート集計結果

＜ テ ー マ ＞　障害学生に対する合理的配慮の実際
　　ー改正障害者差別解消法の施行に向けて大学が取り組むことー
＜ 講 師 ＞　京都大学 学生総合支援機構 障害学生支援部門 准教授
　　村田 淳氏
＜開催方法＞　Zoom によるオンライン開催 ＋ 録画配信
＜開催日時＞　令和４年７月２２日（金）１６：３０～１８：００
＜録画配信＞　令和４年７月２９日（金）～ 公開中
＜回答期間＞　①令和４年７月２２日（金）～ ８月３１日（水）２３：５９
　　②令和４年９月２０日（火）～ ９月２６日（月）１２：００（専任教員未回答者対象）
＜未回答者＞　9 月 26 日までのアンケート未回答者数（専任教員）
（研 修 等 除 く）　大家 10 人　大文 9 人、大社 2 人、大人 2 人、大比 1 人、短大 0 人、付属施設 1 人

【参加者（アンケート回答者）の所属】

| 所属 | 出席者 | | | 所属教員数 |
|---|---|---|---|---|
| | Zoom | 録画 | 合計 | 専任教員数 |
| 1 家政学部 | 23 人 | 32 人 | 55 人 | 65 人 |
| 2 文学部 | 9 人 | 17 人 | 26 人 | 37 人 |
| 3 社会情報学部 | 20 人 | 12 人 | 32 人 | 34 人 |
| 4 人間関係学部 | 24 人 | 7 人 | 31 人 | 34 人 |
| 5 比較文化学部 | 11 人 | 9 人 | 20 人 | 21 人 |
| 6 短期大学部 | 17 人 | 8 人 | 25 人 | 25 人 |
| 7 附属施設 | 6 人 | 12 人 | 18 人 | 19 人 |
| 8 助手 | 4 人 | 21 人 | 25 人 | |
| 9 事務職員 | 4 人 | 2 人 | 6 人 | |
| 合 計 | 118 人 | 120 人 | 238 人 | |

【所属別参加率】

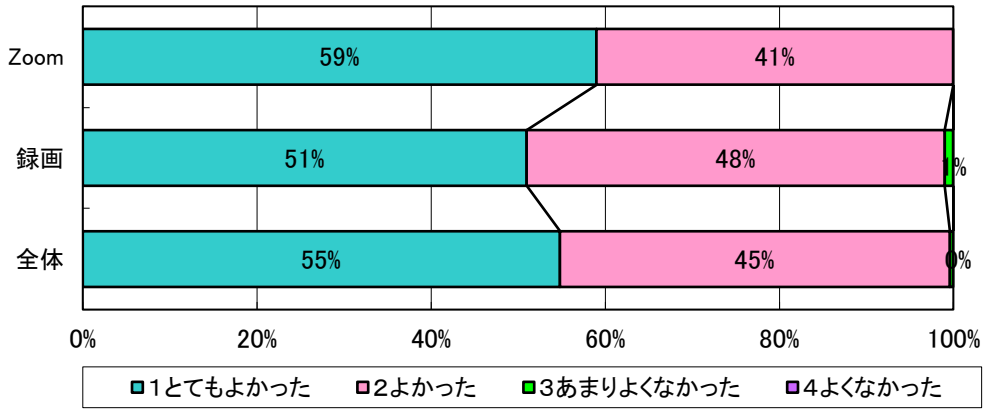


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 238 人分を対象）

問１　講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

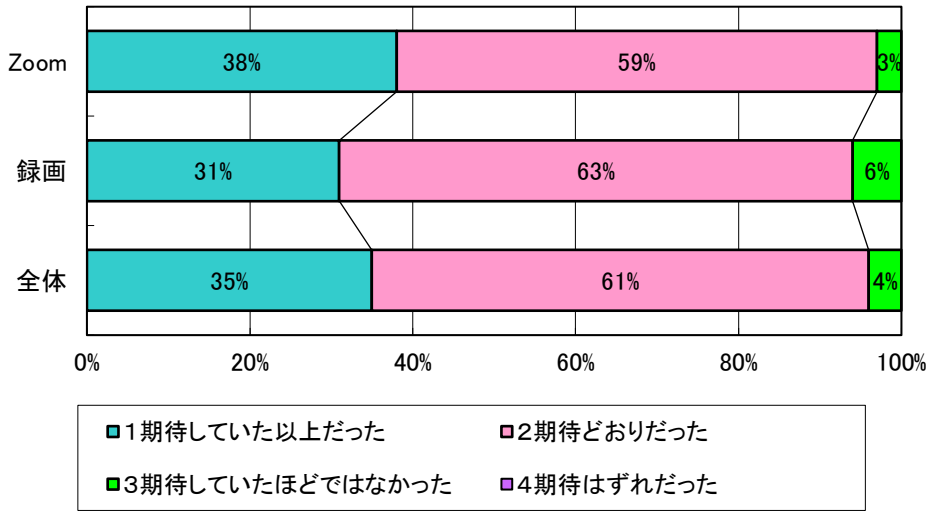
（１）講師について

| 選択肢 | Zoom | | 録画 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1　とてもよかった | 70 | (59%) | 61 | (51%) | 131 | (55%) |
| 2　よかった | 48 | (41%) | 58 | (48%) | 106 | (45%) |
| 3　あまりよくなかった | 0 | (0%) | 1 | (1%) | 1 | (0.4%) |
| 4　よくなかった | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) |



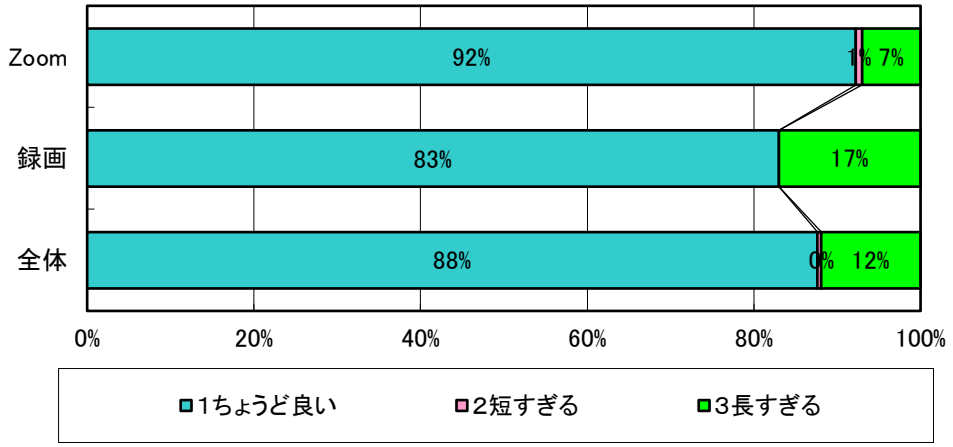

（２）内容について

| 選択肢 | Zoom | | 録画 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 期待していた以上だった | 45 | (38%) | 37 | (31%) | 82 | (35%) |
| 2 期待どおりだった | 70 | (59%) | 76 | (63%) | 146 | (61%) |
| 3 期待していたほどではなかった | 3 | (3%) | 7 | (6%) | 10 | (4%) |
| 4 期待はずれだった | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) |



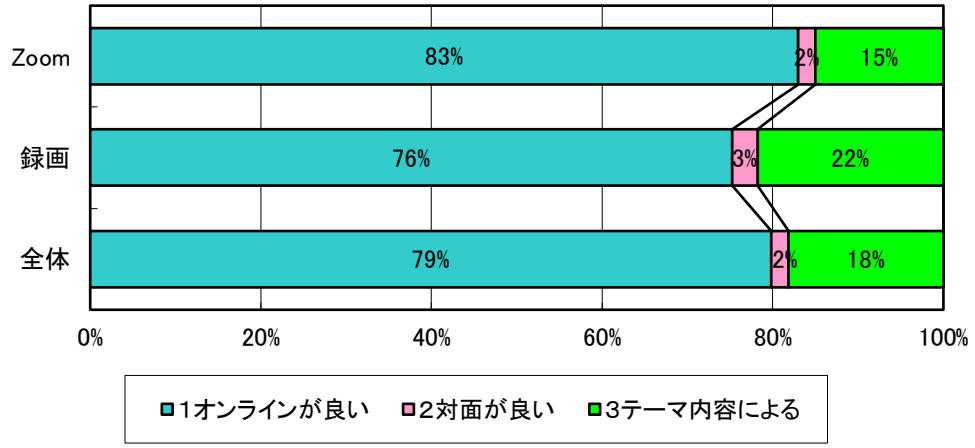
（３）時間について

| 選択肢 | Zoom | 録画 | 全体 |
|---|---|---|---|
| １ちょうど良い | 109　(92%) | 100　(83%) | 209　(88%) |
| ２短すぎる | 1　(1%) | 0　(0%) | 1　(0.4%) |
| ３長すぎる | 8　(7%) | 20　(17%) | 28　(12%) |




（４）開催方法について

| 選択肢 | Zoom | 録画 | 全体 |
|---|---|---|---|
| １オンラインが良い | 98　(83%) | 91　(76%) | 189　(79%) |
| ２対面が良い | 2　(2%) | 3　(3%) | 5　(2%) |
| ３テーマ内容による | 18　(15%) | 26　(22%) | 44　(18%) |



問２　今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

・今年前期に「配慮願い」（不安障害及びうつ状態）があり最初は戸惑ったが、今回の講演であったようにその学生と話をして進めて行った。話し合いが十分であったかは疑問であるが、何とかその学生も楽しく授業に参加できていたように感じる。ただ、私の対応（合理的配慮）が十分であったかを聞きたかったが、授業の 12 回目以降の体調を崩し、またコロナ感染者が増えたことで授業が出来なかったこともある、十分に振り返ることが出来なかったのが残念であった。講演にもあったが、今回のように申し出ることができる学生は良いとしても、グレーゾーンの学生も多くいるように感じる。教職員だけでなく学生にも配慮することが特別なことではなく当たり前になるような教育の必要性を感じた。そのことで、学校自体に障がいを受け入れることが当たり前にできる雰囲気になれば、本当の意味での「コンプライアンス」になるように感じる。
・合理的配慮の必要性、発達障害者の急増等について理解が深まった。講演の中でも指摘があったが、教員個人での対応レベルではなく、大学組織としてインフラ整備が急務と思われる。
・合理的配慮および事前的改善借置の必要性について理解できました。同じ教科（共通内容）を複数で担当するときに、障害により対応が異なるのでその都度話し合いが必要になるのかもしれないと感じました。そのためにも、今後、事前にシミュレーションを行い対応について考えておくことの必要性を感じました。
・とても理解しやすくお話しして頂きありがとうございました。質問に対する回答が参考になりました。
・合理的配慮の構成要素として、【個々のニーズ】,【社会的障壁の除去】,【非過重負担】,【本来業務付随】,【機会均等】,【本質変更不可】,【意向尊重】などがあると聞いたが、特に本質変更不可という点に興味があった。個人では考えることが難しい内容だと思ったが、大学全体で取り組むことが重要だと思った。
・合理的配慮の意味がよく理解できた。教員個人の経験に基づく配慮とは別のものであること。大変勉強になりました。京都大学が障害のある留学生を受け入れ勉強できる環境を提供していることは驚きです。
・内容は網羅的で、多くの例を挙げて説明されていた点が有益であった。
・具体例等を織り交ぜての説明が、非常に良くわかりました。ありがとうございました。
・前期授業で修学の際の配慮が必要な学生が履修していましたので、大変参考になりました。
・様々な学生に対し、求められる対応方法を徹底させたいと思います。
・障碍者への合理的配慮の意味と構成要素についての詳しい説明がありよく理解出来た。解消法の今後の動向も良く分った。
・障碍者への合理的配慮という概念について、具体例を挙げてのお話で大変勉強になりました。
・合理的配慮という言葉を初めて知りました。これが義務化するとのことでしたがなかなか実際に行う場合の難しさを考えます。最近、やはりよく言われる『問題のある学生』が増えてきています。大学に来られない場合が多く、オンラインでの授業は受講できるようですが、対面になると出席不可になってしまいます。対面授業のみの授業をしている担当者にオンラインの要請をしたりしているようです。この場合も担当者はどうするかが難しいようです。授業に参加している学生がほとんどであることや、オンライン授業のために別の資料作りをしなければならないなど担当者の負担もかかりますし、特に考えることは授業に参加している学生との公正さが保たれるかです。難しい問題です。
・障がい学生に対する合理的配慮について、基本的な考え方や判断基準などをわかりやすく説明していただき、大変参考になりました。
・学生への対応に苦慮していたので、とてもよかった
・大変有意義な講演でした。障害支援の重要性、必要性を感じ取ることができました。「支援」をどう具体的な対応に結びつけていけるかが難しいところです。より一層の勉強と理解が必要だと感じました。
・村田先生のお話が大変わかりやすく、具体例などもなるほどと思えるものが多々ありました。障がいのある学生の存在は、日々感じており、今後も大学としてしっかり取り組んでいかなければならない問題だと改めて考えさせられました。
・多様な学生への対応の必要性および難しさをあらためて感じました。障害の状況をどう、どの段階で誰が把握するのか、あるいは教員職員の間で、これらのことをどのように共有していくのか。実際に対応すること、その方法などについて、経験を積みながら進めていくのかなあと考えた次第です。一方、大学の組織としての対応のあり方を準備していくことが求められているのでしょう。自分の状況を客観的に理解できていない学生の場合の対応をどうするのか、見過してしまう危険性が大きいのではないかと気になりました。
・実態を伴う対応、大学というチームとしての取り組みと話された部分が印象に残りました。合理的配慮を、バランスよいシステマティックなものにしていくためには、試行錯誤のプロセスが問われるのだろうと思いました。
・前半の法令の意味合いと後半の実例に分かれて、それぞれ要点を押さえたいいお話しでした。ただ、もっと具体的な対応、線引きなど細かく話しをうかがいたかった。先生方も対応に困っていることがあるかもしれないので、具体例を収集してみる必要もあるように感じました。（事務局への質問）今回のパワポの資料は入手できますか。再度講演を視聴したいと思いますが、それは可能ですか。
・「障害」「合理的配慮」の定義について、認識があらたになった。「配慮」の決め方、「配慮」の決定の手順など、明確に知ることができ、有益であった。これらは教員、学生ともに認識しておくべきであり、「目的を変えず、手段を変える」という教育方針を共有することで、「公平性」についての認識も共有できるのではないかと考えた。

・これまで表面的にしか理解していなかった合理的配慮の実際について深く理解することができ、これからの学生対応に具体的に生かしていきたいと思います。
・障害か否かのボーダーラインと思われる学生に対する初期対応の配慮事項についての回答が印象に残りました。
・もし担当部署だけが正しく理解していて、各教職員が誤解していたら全く進まない事柄ですので、FD 研修として行う意義が大きかったと思います。特に理念的な部分は、皆が把握しておくべきことと感じました。
・専門用語の解説がほしかった。早口でのお話で、もう少しゆっくり話してほしかった。
・発達障害への日本の大学の対応の遅さに驚きました。これから、いろいろな学生の多様性を考えると発達障害者の特性を考えた入試や授業への対応などが必要となると思いました。また、発達障害予備軍も多い中、これからの教育への対応の大切さを感じました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
・先日のオープンキャンパスで来場者から障害に関する相談をうけ、合理的配慮という制度があるという説明をしました。ただ、どの程度の・どのような形の配慮がなされるかどうかは、私にはわからなかったので、その点、受験前に来場者が問い合わせできるような仕組みが、もし本学にあるようでしたら、来場者にそのように説明できますので、ご教授いただけると助かります。
・重要な論点について、とても丁寧に、その要所や機微を説明いただきました。個人的には既に非常勤先でいくつか異なる障碍をもつ学生への実際的対応を行ってきているのですが、単なる「対処」ではなく「＋αとなる支援」という表現が、まさに大事にしてきた部分に重なり、背中を押していただけるような思いでした。貴重かつ丁寧なプレゼンテーションをどうもありがとうございました。
・オンラインの際にも実習に関する合理的配慮をどう考えるかについて話があったが（質問を踏まえ）、本件についてはもっと詳細に知りたいと思います。つまり、高等教育を受ける学生の権利と、学校現場等で学生等の利用者が受ける権利の保障との関係をどう考えるのか、具体的に免許・資格の取得を認める判断基準についてどのように考えることなのか（倫理問題になるのかもしれませんが）、免許や資格の取得をメインとしているような学科の場合、この問題についてはぜひ具体的な事例等を含めて改めて伺いたいと思いました。
・普段気が付かない法的環境の変化に気がつくようになり、参考になりました。
・未知の事柄がとても多かった。
・改めて教育の本質変更不可について考えました。到達方法、手段の工夫が求められていることが、今後の教育実践の中で考えていきたいと思えました。また、法律や制度の動向を伺えて、理解も深まった様に思います。何よりも講師の臨床の知見を伺えたことは興味深かったです。学科としても取り組めることがあると考えました。より臨床の事例なども伺いたかったです。
・「障害」の意味や、支援の実際等、大変具体的で分りやすく話して下さいました。そして、「合理的配慮」にはメニューとしての基準はないということで、支援の難しさを感じました。実際今までも、学生の障害の種類や状態や自覚は多様であるがゆえに、対応の困難さを経験したことがあります。その点において、最後に言われた「外在化」という事が重要かと思います。つまり、教員、支援センターのカウンセラー、家族等が連携して情報を共有し、一人に過重な負担が行かないことが、継続的な支援を可能とすると考えました。
・欧米での障碍者学生の比率の高さには驚きました。日本はまだ遅れています。そして学習障害の学生が欧米では多いということにも驚きました。発達障害の学生はますます増えることでしょう。勉強しないといけないと思いました
・平等・公平に扱うことにこだわり、同じことを行わせようとすることが差別になり得るという点は、障害学生への支援に留まらない重要な観点だと感じた。
・法律的な流れから詳しく説明していただき、また、世界的な比較もとても参考になりました。
・資料も含め、とても分かりやすかったです。参考になりました。有難うございました。
・合理的配慮は、学生の特性や置かれた状況に応じて、各部署の教職員が連携して臨機応変に個別に対応すればよいことがわかった。
・昨今、何らかの障害ある学生が増加していることは実感していたが、数パーセントに増えると予想される現状に応じた体制準備などや、合理的配慮の構成要素である本質変更不可・非過重負担・意向尊重などを、いかにバランスをとりながら個々のケースに対応することが重要かなど多くを学ばせていただきました。
・情報が多く参考になった。
・担当するゼミに障害学生がいるので、関心を持って講演を聞きました。「合理的配慮」の内容について理解することができました。
・「配慮」の英文が Accommodation であるというご指摘により、権利の体系の文化圏の価値観を、横並び意識＋気遣い、察し、おもてなしの文化圏に導入しようとしてるのだと知りました。理念と現実のズレ、違和感の正体が分かり、有益でした。理念先行型のお話でしたが、現場の諸困難からアプローチする情報を期待したいと思います。グレーゾーンの学生への対処という論点が出されていましたが、おそらくは、別次元の類型でしょう。うつ病、社会不安障害、対人恐怖症由来の諸困難や、学習障害（算数・推論）にはあたらない基礎学力の不足などについては、「合理的配慮」の建付けで対応できるのか疑問に思います。現場での対応には、権利の尊重ではくくれない複雑さ、厄介さがあります。
・当面の措置として、大学全体のガイダンス、学科内ガイダンス、学科内対 1 年生個別面接の 3 段階での説明とそれらの連動を考えていく必要のあることを感じた。しかし、根本的には、教員 1 人当たりの学生数の少ない国立大学と同じサポートを私立大学で行うことは、教員にとって大変な負担を伴うということが想定されるため、それをどう大学全体として支える体制を作るかが重要であると考えれる。

・事例が多く紹介され，参考になった。
・障害者差別解消法に基づき、コンプライアンスとして、手続きに沿った合理的配慮と、教員がこれまで行ってきた、また、これからも様々に行われるであろう「配慮」「調整」との違いが明確になって良かった。
・「大学ができること」について、柔軟な対応が可能なこと。こちら側も常に向上が求められていることが印象に残りました。講演とは関係はありませんが、合理的配慮を希望される学生さんの入試が終了し（合格し）そして学生さんが入学を希望している場合には、入学前から組織的に対応を始められるよう大学の制度も整えていただけれるとありがたいです。現行の制度では、4 月になって初めて支援チームが結成されるしくみになっており、ガイダンスなどへの対応が間に合わないことがあります。
・障害のある学生の学外実習での対応について、学科内での議論が必要であると感じました。
・合理的配慮というものが、民間事業者にも法的義務として位置付けられている事に改めて気付かされた。また、今や「大学のインフラ的機能」として捉えることが大切である事についても納得しました。
・今後配慮すべきことがふえてくる。すでに、いくつか同様な案件があり、対応の幅が広がった。
・学生の支援について、問題点もまとめるのに役に立ちました。
・質問タイムが分散されていたのが、効果的でした。講義内容が理解しやすかったと思います。ご計画を有り難うございます。
・内容がとてもわかりやすく、講師の方の話し方もとても良かったです。
・障害のある学生の修学支援について、大変勉強になりました。定型の学生が、不公平感を感じないように大学全体だけでなく、社会が少しずつ変わって行けたらよいと思いました。
・合理的配慮が必要な学生は、本学でも増加傾向にあり、タイムリーな研修でした。
・恐らく発達障害と思われる、対応に苦慮する学生が年々少しずつ増加しているように感じます。こうしたトピックに関して正確な知識や対処スキルを持ち合わせておりませんので、現状はこまめに学生相談センターへの導線をつくるよう心掛けております。特に今日のレクチャーの中でもこのテーマについて更に深堀してお聞きしたいように思いました。
・私が担当する授業にも配慮を要する学生がおり、迷いながらの対応をしてきましたが、今回のご講演をうかがい、今後は自信を持って対応できそうです。
・I have SLD and hypersensitivity. I am glad to learn how Japan's higher education is making efforts to meet the needs of students with these disabilities (including who are in the "gray zone" and may be unaware of themselves). I teach in English, and I have these learners, so I will work hard to make the language gap accessible and my lessons accommodating. Following Prof. Murata's advice, I may talk about myself to help them understand, but not to become fearful, but accept themselves.
・これまで何の疑問もなく使ってきた「合理的配慮」という言葉であるが、この言葉についての自分の理解が権利条約の根底にある思想とズレていることに気付いた。また、配慮の内容を決定するまでの手続の中にある「建設的対話」という概念も、これまで明確に意識せずに経由してきた思考プロセスについて、その意味をわかりやすく説明していただいたような気がする。
・障害学生に対してどのように対応すれば良いかのヒントを頂けました。思った以上にそういう対応をしなければならないということを実感しました。
・合理的配慮の意味が良く理解できた。また、法制化され施行となることも理解できる。
・講演で提示された PPT そのものでなくても、簡易版の資料を提供して頂きたいです。これから多くの教員が学生支援に携わる可能性が高いことを考えると(実際に現在携わっている教員もかなり多いと思いますので)、法律や支援に関わる基本用語の説明などについては、資料として頂けると役立つと思います。
・全くの素人からすると少し抽象的な話が多かった印象がありますが、いくつか発見がありました。法制度の整備について、障がいのある学生数の増加について、海外での状況についてなど知ることができました。ありがとうございました。
・様々な個別の状況に直面する教員が判断や対応に迷った際に相談できる学内の教員やカウンセラーの先生の存在は有難いと思います。
・海外からの留学生のなかに、日本の学生では少ないとされている障害を持っている人が見られる、というお話が興味深かったです。日本における学力の測定は、そもそも読み書きができることを「当たり前」としているため、大学入学以前に学習意欲が低くなってしまうことがあるのだと思いました。
・質問への回答が特に参考になりました。
・障害ということに対しての説明、実は私も D&I 研修の講師をしており、全く同じ内容であったことに驚いた。共生社会においてすべての人が正しく認識するべきことであり、学生にも認識させる機会が必要であると考える。
・「合理的配慮」の意味がだいぶ明確に捉えることでき、また、いろいろ具体例も挙げていただき、対応イメージがわきました。いつも外部講師の講演会にはレジュメがあったよう思いましたが、今回はないのでしょうか?あればありがたいですが。
・とても聴きやすい講師の話し方、またリスナーの理解を考慮した内容の進め方がとても好感がもてた。障がい学生が増えてきており、担任クラスや学年でも複数いるため、どのように対応するべきなのかいつも悩んでいたため、お話をうかがうことが出来て有益だった。質問で出ていた「グレーゾーン」と思われる学生がすぐに数名思いつくほど、近年精神的障がいや症状をもつ学生がおり、教員の負担や不安が増えてきていると感じている。

・「合理的配慮」という営みについて、法的根拠を顧みずに語感によって振り回されている状況が散見されるという日本の学校現場における現状をあらためて見つめなおす機会となりました。合理的配慮とは「障害者に対するオールマイティなアプローチではなく社会的障壁へのアプローチ」であることや、障害者の方を迎えた際にその全体状況を鑑みて適当な変更を加えたり調整を図るといった相互的なものであることなど、よりクリアな視点でとらえることが可能となりました。「建設的な対話」を重ねること自体が、時間的そして労力的になかなか難しいと感じる場面もありますが、教育の一環ととらえて、学生さんの将来設計に役立つ具体的な指導を心掛けたいと思います。ご教授いただきありがとうございました。
・全学共通科目の取りまとめをしていると、他学部の学生が障害に苦しんでいるにもかかわらず当該学部の教務委員や担任はこちらが意見を言うまで学生相談センターや学生、その保証人と支援体制についてのまともな話し合いを持たなかったりしていた（要は何も言われなければ授業担当者に丸投げするつもりだった）ので、講演を通じた教員への啓発は重要だと思いました。ただ、本当にきちんと支援体制を整えるためには、「体制」と言う呼称の通り、また講演者が最後に配布したURLリンク先に見られる通り、「機構」や「部門」単位でのサポートが必要なのだろうと感じました。この数年この手のことにまともに巻き込まれた当事者からすれば、この数年の様子を拝見していると数名の学生相談室スタッフと教務（カリキュラム／授業）のことがよくわかっていない学生委員（障害支援関係の学部選出委員）だけでは支えきれないなと感じました。そもそも障害支援関係委員を担当する学部選出委員（教員）も、一度は教務委員会をご担当いただかないと、支援するにも現場に即してかつ要支援者の支えにもなるアイデアは浮かばないかなと思いました。
・障害を持つ学生への合理的配慮，特に本質変更不可の点は非常に参考になった。
・もう少し具体例が欲しかった。
・専攻の学生の中に、何らかの発達障害を抱えるなど「配慮」を要する者がほぼ間違いなく数人はいる。今回のテーマのような知見は、教員として必須になっていくことを認識した。講演でも、「具体的にこうすれば配慮したことになる」というものはないという指摘があったが、教員として、「配慮」の模索が日常になると再認識した。
・障害学生について具体例を挙げながら対応の仕方をご説明いただき、大変勉強になりました。
・ご講演の際、お話を伺いながらメモを取り切れなかったところがありましたので、ご講演された資料がいただきたいと思います。よろしくお願い致します。
・2015年度のＦＤ研修会の頃から現在に至るまでの変更点や、日本の動向などが、具体例を交えて分かりやすく説明されていたので参考になった。
・支援の具体的在り方を知れたことが大変よかった。
・教育場面では合理的配慮が当たり前にあること、グループ学習の授業では、本人のことを知ってもらうことが大事、大学が障碍者支援をやっているという仕組みづくりが大切であることなど、今後に役立つ視点を得ることができ、有意義でした。９０分の講演は少々長すぎると思いました。
・法律制定の背景や諸外国との比較が聞けてとても良かったです。日本でつまづきがちなポイントを示していただいたと思いました。
・教務委員として学生対応を行っている中で、授業に来れない、欠席が多い、といった学生への対応に苦慮しているが、村田先生の話を聞いて、本人もご家族も認知していない何かしらの障害の可能性があると、説明スライドを拝見しながら考えた。その場合、なぜできないのかと問うのではなく、学生本人の状況や、実際に本日示されたような様々な障害の可能性に理解を深めながら対応する必要があると実感した。また学生によっては、授業中にスマートフォンやiPadなどでノートをとる学生も増えているが、そうした要望についても注意深く対応していきたいと考えた（説明の中で、たとえば録音や板書撮影の許可などが挙げられていた）。とてもためになる講演だった。
・年々、配慮が必要な学生が増えてきていると感じています。そのような中、これまでの認識を改め、新たな対応が必要であることがわかりました。特に入学試験時と就学前における相談や対応については、学科内で認識を改めて対応しなければならないと感じました。気づきの多い大変勉強となる講習会でした。ありがとうございました。
・合理的配慮の意味が丁寧に解説されており、これまでの自分の認識が間違っていたことに気づいた。
・障害学生修学支援の基本的スタンスをわかりやすく解説いただき、有意義でした。障害学生とのファーストコンタクトのありかたや、グレーゾーンの学生にへの対応の仕方、授業内容に異なりが生じたときの対応の仕方など、実際に直面する問題に対して明確なアドバイスがいただけ、考える幅が拡がったように思います。
・合理的配慮の概念がよく理解できた.ありがとうございました.
・コモンケースにおける対応を具体例として示して頂きたかったです。やや、雑駁な内容のご講演だったように思います。
・合理的配慮の本来の意味がケアでもサポートでもなく、アコモデーション（accommodation）であるということを初めて知りました。合理的配慮に決まったメニューはないというお話も強く印象に残りました。一方でさまざまな構成要素はあり、それらを検討して個々に適切な対応をとる必要があるということも納得でした。ただ、そのようなお話を聞いたあとで思うことは、経験やノウハウのない授業担当者にそれを適切に行うことを求められても難しいということです。多くの先生が、業務多忙の中、過重負担となってしまっている現状があると思います。本学では現状、学生が配慮願を持ってきてあとの判断は授業担当者に一任されている側面がありますが、それでは組織として学生の就学環境を整えていることにはならないと思いますので、大学として障害学生にかかる教員および授業の支援体制を一層充実させていただくことを期待いたします。

・入学試験時に障害の有無や程度の申告がなかった場合、過去に支援前例がなかった場合などであっても、授業受講に関することであれば対応するのが義務であることが説明されていました。特に気をつけるべきことかと思いました
・ベーシックなところからわかりやすく説明していただきました。この分野に少々の関心のある者ですが、物足りないといった感覚はなく、勉強になりました。また、聞きやすい語り口や丁寧な資料など、講演としての質もじゅうぶんなものでした。
・いままで「合理的配慮」の意味を、正しく理解していなかった部分もあると気づくことができたと思います。そしてまた、入学時と就学時とを区別し入学時点では個人情報に留意する必要があることを改めて認識する機会となりました。日本の大学機関は今後、教育の公平性と多様性について真摯に取り組み、学生への対応方法について具体的に考えていかなくてはいけないことを痛感しました。
・さまざまで常に悩み続けているのが現状です。講演者も話しておられたように教員個々の対応ではなくて障害学生以外の学生や大学全体の意識改革が必要だと改めて考えました。特に障害学生以外の学生への周知は、教養講座のような形で今回のような講演を設定の可能性を模索できないのかと思います。
・合理的配慮にあたって、本質を外さないという点が印象に残った。
・学生指導の中で、役に立つことが多かった。特に、実習指導を担当する中で、本人が気づいていない特性がある学生が増えてきていると感じていたので、今後担当教員や実習先とも検討していく必要を痛感した。また、ゼミや卒論指導などで初めてコミュニケーションに課題のある学生であることに気がつかされることも多くあり、大学全体での支援システムがより明確になることを願いします。
・村田先生のお話を聞き、改めて障害学生が最近になって増加していることを知りました。質問にもありましたが、障害学生と一般の学生との間における公平な評価に関しては私も難しいと思っておりました。先生のご助言を参考にさせていただきたいと思います。
・障害学生に対する不安や戸惑いの気持ちが、今日のお話で少しクリアになったように思います。「配慮」を「変更」や「調整」という観点にかえて、もう少し自然に行動してみようと思います。
・最後の質疑に対する回答で、公正さと柔軟さ、マジョリティとマイノリティの理解がとてもしっくりきました。お忙しい中、ありがとうございました。
・非明示的なメッセージについての説明が非常に納得しました。「困ったら相談しに来てね」や「いつでも相談しに来てね」というメッセージはわかりにくいこともあるのだと感じました。また、今後合理的配慮について変わってくることもあるということがわかりました。
・グレーゾーンの学生を含め、障害学生ひとりひとりに個別対応することの難しさを感じました。
・合理的配慮（accommodation）の定義が参考になりました。合わせて「本質変更不可」「付随業務」「非加重負担」などの解説を通じて、すべきことの範囲がはっきりしたと思いました。
・配慮依頼の学生に、きちんとサポートができていたか反省しました。250 名以上の履修生を担当していると困難さも感じています。
・学生の多様性の許容が重要で、適宜変更する柔軟性が教職員にも求められると日頃から感じている。障害の認定を受け特別措置を申請しているケースは配慮が認められるが、提出期限や同じ方法での提出がどうしてもできなく障害があると思われる学生への卒論などの指導が最も難しいと感じている。
・障害学生に対する合理的配慮の実情、対応について、よく理解出来ました。今後、該当する学生と向き合っていく際、今回の講演会で得た知識を活かしたいと思います。有難うございました。
・10 年来、東京都の東京障害者職業能力開発校でシステム設計やプログラミング教育に携わっていますが、近年、複合的な障害がある訓練生が多く入校しております。大学においても、近い将来、身体と精神、かつ精神において複合的障害がある学生が増える可能性は否定できない思います。今回の講演では、理論的な部分から、現場で利用できる対処法の事例も含めてご講演頂き、本当に勉強になりました。現在理事をしている日本図書館協会でも、障害者サービス委員会がありますが、委員長とは、だれもが障壁なく図書館を利用できるような現場を作る下支えをする協会にしたいとよく話しております。大学図書館でも同様に、障壁のない環境を作れるようお手伝いできることは今後もさせて頂ければと感じた講演会でした。ありがとうございました。
・身体障碍者にとどまらず、精神や発達障碍など、大学進学が可能な状況の学生が学ぶ権利を保障することは大学の義務であり、その環境整備を行うことが必要だ。先日千代田区の社会福祉協議会に行った際、身体障碍のある本学の学生の付き添いをすることがあると話を聞いた。福祉学部のある大学などでは、ノートテイカーであったり、付き添いなど、学生同士で支えあう仕組みを持つところも多い。学生同士が支え合える仕組み作りも必要ではないだろうか。
・合理的配慮という制度や歴史などを学べた点は、非常にわかりやすくて良かったと感じました。大妻女子大学が障がいを抱えた学生達への合理的配慮を宣言し、取り組んできた歴史があったというのも初めて知りました。一方で、現実的な実用の面では疑問や課題が多くあるような気がしましたが、講演の中であった個別事例的な判断や対応なので難しい面があるとも感じ、何とも難しい話であるという点は感想として残りました。とくに、大妻の場合、合理的配慮が大学の敷地にくることが前提となっているため、ルールから漏れ落ちた学生達への配慮というのは難しいので、その辺のフォローをどうすればいいのかという点は今後の課題だろうと思います。

・村田先生のお話は前任校でもお聞きしたことがあるのですが、あいかわらずわかりやすかったです。素朴な疑問ですが、なぜ本学には障害学生支援を専門とする専任教員の枠を作らないのでしょうか？前任校にも（特任ではありましたが）いらっしゃいました。これは障害学生支援に限らずですが、本学には色々なことにおいて専門家がおらず、かといってそれを事務局・職員が責任を持ってこなしたり音頭をとったりするわけではなく、学科に丸投げで、学科教員が疲弊しています。疲弊だけならまだマシですが、学科教員による教育・研究は大学運営の中心なので、疲弊（およびそれに伴う向上意欲の枯渇）が続けば本学の未来はないと思います…。コロナ禍のときも、他大学のように情報基盤センターのようなところに専任教員がいれば、早々に彼らが方向性を打ち出すことができたと思いますが、本学にはそういう人材がいないので、通常業務を持つ素人教員が集まってQOLを犠牲にしながら遅すぎる不十分な音頭を取ったのみで、将来性の不安を感じました。
・お話がとてもわかりやすかった。また、具体的な学生への対応例をあげていただき、参考になった。実際、障害のある学生の対応があるので、とても勉強になった。
・これまでなんとなく理解できているつもりでしたが、今日のお話をうかがって、はじめて知り得たことや、解釈があさかったと感じさせられることがありました。本当にありがとうございました。教育実践におけるインフラとなること、「特別」から「あたりまえ」があたりまえになることの必要性、努力義務ではなく義務となる必要性についていろいろと印象的な内容があり、たいへん勉強になりました。
・前期に合理的配慮の件で学生相談センターの方に相談する機会があったので、大変参考になりました。学生から相談があった際に「建設的対話」が必要とおっしゃっていたことが印象に残りました。学生のファーストコンタクトが共同研であることも多く、対話を大切にしたいと感じました。クラスガイダンスなどで問い合わせメーリングリストや質問箱の存在を広め、身近な窓口として運営していきたいです。
・単純な診断名にとらわれることなく、一人一人根本的な困りごとのサポートが必要であること、目的と手段の切り分けが必要であること、また「困ったら言いに来てね」と親切心で言った言葉が実は抽象的な支持であるということにハッとさせられた。支援の仕方の難しさを改めて感じた。
・ご講演を拝聴し、学生への対応等学ぶべき点がありました。ありがとうございました。
・合理的配慮に関する全体像がとてもよくわかった。（倫理的に難しいかもしれないが）具体的な事例などのお話もあれば聞いてみたかった。
・合理的配慮に関する基本的事項から日頃の学生対応にすぐに役立つ内容まで網羅されたご講演で大変勉強になりました。山倉先生が最後にお話しされたように障がいのあるなしにかかわらず、多様性を受け入れることが今後ますます求められていく中で、ともすると古い価値観にとらわれてしまいがちな現状を改善していくことが喫緊の課題だと感じました。
・世界標準に遅れている我が国の実態がよくわかりました。少ないマイノリティという特別な配慮ではなく「しなければならない」合理的配慮のインフラであるということがよくわかりました。
・健常者も障害者もゴールは同じであり、そこに至るまでの過程で合理的配慮が必要になるというお話が印象的でした。
・今後、障碍者が大学に入学してくることが多くなり、その準備もこれからしてゆかなければならないと認識しました。
・合理的配慮の具体的な事例が紹介されていて、理解が進んだ。オンライン授業との関係も詳しく聞いてみたかった。
・本学も今後、「事前的改善措置」を充実させることが大切であり、教員個人の対応ではなく、大学としてのコンセンサスをつくりあげていくことが求められていると思いました。
・「合理的配慮」の幅の広さや奥行きが、理解していた以上であった。
・障がいということを自分なりに考えるいい機会になった。合理的な配慮が社会的障壁の除去、軽減に資するものだということを初めて知った。
・発達障害の学生に対して、間接的に気づかせる方法を具体的に提示していただけて良かったです。
・講演内容はとても興味深かったのですが少々抽象的すぎて具体的なイメージが湧きませんでした。できれば、もっと具体的な障害の例やその障害に対してどのような配慮を行ったのかというような、先生の体験談のようなお話がお伺いできればよかったなと思いました。
・実習での身体的負担の緩和について、どう対応するかが課題であると感じた。
・教育の在り方に関して非常に深くかかわる貴重な講演をしていただき、ありがとうございました。昨今、教育の目的と手段の多様性に対する柔軟性が非常に気になっております。様々な障害に対する修学支援がありますが、非常に悩ましいのは個人の健康状態という点です。特に心理的・精神的な障害のなかで、人間関係の形成に困難がある障害（抑うつや社会不安など）に対する合理的配慮として、授業実施方法の大幅な変更（オンライン化）や別課題を以って評価するなどといった要望をされるケースがあったりします。これまでの教育方法（対面）に対して、コロナ対策の中で遠隔による授業実施方法がとられてきましたが、逆にそこで「できてしまった」という感覚から、学生や保護者といったステークホルダーからオンライン化などハイブリッドの要望が増えてきているように感じています。実際には、対面での実施と比較して目的に資するように何とか実施したのが実情で、方法に対する効果も対面とは全く同じであるとは言えないと感じております。人との対面でのコミュニケーション力やチームワーク力の醸成といった点では、現在の３年生には、それまでに培ってきてもらいたい経験・知恵・知見・行動力をどのようにリカバーするのが課題となっていると感じています。こういった背景の中で、教育の目的とその手段の妥当性に関して、基本指針（完全な通信制ではない、対面における教育の目的とその意義、カリキュラム構成）を、大学・学部・学科・専攻の特色として明確に打ち出しながら、どの範囲が「調整」という意味での合理的配慮となるのか、修学支援の在り方について対話をする必要があるよ

うに思います。これは、グループワークの調整などが、対面でのグループワークの実施の是非まで含むものか、いかにしてグループワークに参加できるか？という実施手順（より構成的に進めるなどのその場での対応）におけるものまでなのか、まさに合理的なAccommodationの線引きといった具体的な対応につながる非常に重要なマターのように感じました。様々な背景があっても共に学べる・取り組める環境を作るという共生・Inclusionという価値観が根底にある事が学生たちにとっても非常に大きな学びに繋がるのではないかと改めて感じることができました。ありがとうございました。

・合理的配慮と他の学生との公平性の共存に関する点は、日常の発想を転換する意味から参考となった。
・内容が濃く，早口だったので，メモが追い付かなかいところがあった。貴重な情報や示唆があったので，PPTなどいただけるとありがたいです（もし公開されていましたら，URL等をご教示いただけると助かります）。
・社会（ここでは大学ですが）に参加していく中で障害のある学生が感じる障壁を低減することが「合理的配慮」である、ということについて、確かにこの問題について考える上ではベースに置くべき定義だと思います。自分が学生だった時のことなどを考えても、実際、一番最初の履修登録などはかなり煩雑に感じた記憶があるので、障害のある学生が感じる障壁を低減するということは、「障害のある」という範疇に入らない学生の多様性を受け入れることにも通じるように思います。最終的に学生自身の「自分にはどういう特性があるのか」ということへの理解につながれば、それは確かに、大学生活をとても良い形で過ごせた、ということになるのだろうなと感じました。
・「障害者権利条約」において、「合理的配慮」が「reasonable accomodation」であること。個人の人権が行使されるために必要かつ適当な「変更および調整」であること。
・「大学は最後の教育機関」という言葉に、納得するとともに、責任の重さを感じた。学生指導において、参考になるお話をありがとうございました。授業の中で、活用していきます。
・支援・配慮の具体例を知ることができて、大変参考になりました。
・障害を持つ学生とその他の履修学生との間で公平性をどう保つか，あるいはどのようにその他の履修学生に対して不公平感を持たせないようにするかという点に悩む場面が多くあったので，今回の講演会の後半の質疑でご回答頂いた内容が特に有用でした。手段・アプローチを必要に応じて変更し，同じ目的に向かって進行できるような環境をできる限り提供できるように努めようと改めて決心いたしました。
・あらかじめ本学での課題を明らかにした上で、参考になるような他大学の実践例などをご教示いただけるともっとよかったのではないかと思う。
・グレーゾーンな学生のへの対応で、本人からは離して例をあげる、ということで少しずつ本人の気づきに結びつくということを頭においておこうと思いました。
・今回の講演会をお聞きして、自分がまだ障害について知らない部分が多いことに改めて気づきました。障害を持った学生の対応について、例を挙げて細かく説明していただけたことで、グレーゾーンと呼ばれる学生とどのように接していくべきか考えるきっかけになりました。今後の業務に活かしていきたいと思います。貴重な機会をいただきありがとうございました。
・学生の表面的なできることではなく、根本的な困りごとについてのニーズををが把握して、学生の対応を考えるとのこと、大変参考になりました。診断名をみて学生の表面的な対応を考えがちですが、今回のFD研修を受けて、個別の障害特性を勉強し、学生対応について、考えていくきっかけとなりました。大変参考にあるご講演、ありがとうございました。
・村田先生の語り口、資料がわかりやく合理的配慮についてよく理解ができた。講演中でも指摘されていたが、現実に発達障害とくに注意欠陥が疑われる学生が多いが、本人な無自覚なケースが多い。また発達障害が原因で親子関係を拗らして、不安障害を起こしている（であろう）ケースを目にする。学校が家庭の中まで入り組むことは躊躇されるが、合理的配慮により学生が居場所を見つけられれば、多少の援助になるかもしれないと考えた。
・合理的配慮についてのことで、本来業務に付随しているものはニーズになることがわかった。丁寧な説明であらかじめ知識がなくても分かりやすかった。
・参加させて頂きありがとうございました。教育的配慮と合理的配慮の違いなど、まだ理解が十分にできていないことが明確になりました。本学の現在の状況は、個別対応を基本としている範囲が広いため、年々増え続ける数に追いつかなくなっているように感じました。そのため、事前的改善措置の検討が必要であることが理解することができました。また、入試の段階で修学後の配慮を聞いているため、早急に変更の対応が必要だと思いました。今回の研修テーマについては、教員だけでなく、障害のある学生が関わるすべての教職員に視聴していただける機会になっていたら良いと感じています。また、可能であれば、資料の配付も同時におこなって頂きたいです。
・「合理的配慮」に関する情報と対応等について、新たな知見を得ることができた。
・障害者に対する支援は難しいと思うが、非常に興味深い取り組みであった。
・発達障害や合理的配慮について知らなかったことが多く、大変参考になりました。今回得た知識を、今後の学生教育に活かしていこうと思います。
・具発達障害のある学生への具体的な修学支援の実例が印象に残りました。
・大学における障害学生に対する合理的配慮、障害者差別解消法の取り組みについて改めて考える機会をいただきました。修学支援、教育的配慮、就学支援方法など、授業や試験で配慮を工夫していきたい。
・デリケートな問題の為、大変貴重な講演内容でした。ありがとうございました。

・「高等教育機関においても「特別」から「当たり前」へ、「しなければならない」という義務へのシフト、といったメッセージが印象に残った。合理的配慮については、重要であるにも関わらず社会一般への認知度が低い中、全学FDで扱った意義は大きいと考える。
・合理的配慮に対する自分の理解がいかに曖昧であったかを思い知らされました。質疑応答にもあった、配慮を要する学生とその他の学生の間の「不公平」問題は自分も悩むことが多かったこともあり大変参考になりました。今後の教育に非常に役立つご講演でした。
・意外な指摘といった点は特になかった。まあそうだよな、といったところか。|常識のおさらい（再確認）という意味では大いに価値のある内容だったと思う。
・「学生本人が認識を?めていけるような支援が求められる」といったご指摘が非常に重要であると感じました。これは、学内での支援はもちろんのことですが、その後彼ら・彼女らが社会に出ていく上で重要な役割を担う支援であると感じます。また、基本的には学生本人からの申し出によって支援がスタートしますが、学生本人が自身の特性について十分に理解できていないと、支援にも初期の段階から繋がりにくいと考えられます。従いまして、今回の講演会のように、教員側が特性について適切な理解をする（新しい知識へとアップデートしていく）ことで、当該学生への適切な声掛けや、支援者との早期連携などが可能になるのではないかと考えました。

問３　今後の講演会（研修会）で希望されるテーマ・内容・実施方法などございましたらご入力ください。

**[今回のテーマ関連]**
・今回のテーマで、合理的な配慮の事例等をお聞かせいただきたく思います。
・今回のようなテーマをまた、希望致します。宜しくお願い致します。
・引き続き、学生の対応に参考になるテーマでの実施を希望します。
・今回の研修を一歩進めて、合理的配慮の実際の事例紹介、並びに失敗例を通して理解を深める研修。
・今回のような、専門間特性に拘わらない一般性を持ち、かつ、特定の論点に特化したテーマ設定も非常に興味深く参考になります。例えば、今回の延長として軽度発達障碍系の問題をかかえた学生への対応や、より教育学的な視点からみた、同一科目内における学生の学力差への対応、なども機会がありましたら楽しみです。
・今回の講師から、後半の実践面に限定して、もう一度聞きたい。
・コロナ禍での障害学生への支援の具体的対応について。同じくコロナ禍での定期試験実施方法の事例と工夫等
・今後も障害学生支援に関わる講習を継続的に受けてみたいが、経済状況や家庭環境に問題を抱えた学生への支援に関わる講習も受けてみたい。また障害のある学生みならず、性的指向の異なる学生に対する配慮についても、大学が多様な学生を受け入れていくことが当然となれば、教職員として理解を深めておく必要があるのではないだろうか。
・学生支援の事例や、実践的なノウハウについて学べる研修会があればありがたいです。
・学習障害学生への対応はますます必要に迫られることになるので、この続編も期待したい。今回は入門編、一般論だとして、実践編（いくつかの事例紹介）などをいただけると参考になる。事例紹介も、当該学生への対応ばかりでなく、所属学科を中心とした関係者がどのような体制を組んだか、教員の負担はどの程度の負荷であったか、大学の体制はどこまで支援できていたか、他の学生の「学びの質」を落とさないで済んだのかどうかなどの点を含めた形でのご紹介があれば大変参考になりそうである。
・発達障害に対する基礎知識と対応例
・障害学生が増えている昨今、とてもタイムリーなテーマであったと思います。内容も分かりやすく、拝聴出来ました。学生指導に役立てて参りたいと思います。有り難うございました。
・発達障害の学生が増えていると聞いております．発達障害に関する知識に乏しく，発達障害に関する話をもう少し詳しく聞きたいと思いました.
・今回は主として「発達障害」に焦点を当てた講演であったが、今後はさらに「ウツ症状」や「パニック障害」といった精神疾患についての学びを深めていけたら、と思う。
・精神的な病気をもつ学生への対応に関して、専門的なお話を聞いてみたいです。
・合理的配慮のテーマをめぐり、実践編といいますか、具体的な事例（実際例）を通じて考えていくような機会があるとありがたいです。
・障害学生に対する心理的ケアについて
・うつや双極性障害といった精神障害も増えてきていると感じています。教員の声掛けひとつで二次障害につながる可能性もあり、どう対応してよいのか困ることがあります。精神障害との向き合い方について、取り上げていただけるとありがたいです。
・今後も、多様な学生たち、そして多様な学生のニーズに応えるために必要な知識を共有する講演を希望します。
・合理的配慮の具体的な対応は、現場で悩んでいるので、興味深いです。
・今回のテーマ周辺については引き続き勉強する機会を得たいと思います。
・今回のテーマで、第２回目をお願いできればと思います。
・今回の講演会のテーマで、また企画していただきたいです。ありがとうございました。

・さまざまな学生が入学することを考える上で、社会人入学生への対応や学生との協働した教育について考えることができればと思います。他大学ではFD活動に学生と連携をして行っている場合もあるようです。
・現時点で思いつくことはございません。今回のように、教育現場や個別教員の教育力のスキルアップにつながる講演会・研修会があると助かります。よろしくお願い申し上げます。
・続編を期待する
・今後も引き続き障害学生に対しての具体的な事例（とその対応や本学の事例も含めて）を色々と教えていただきたいです。
・メンタルヘルス（風通しの良い職場づくり等）
・本学でも障害学生が増加傾向にありますので、定期的に、障害学生支援を取り上げていただけると有難いです。当日は参加できませんでしたが、動画を視聴することができ、助かりました。
・今後の講演会・研修会では、「発達障害をもっている（持っている可能性がある）教職員との関わり方」についてのテーマを希望します。
・合理的配慮が必要かそうでないかのグレーゾーンにいると思われる学生にどのようにかかわったらよいかということのヒントがいただけるような内容の講演会を希望します。
・障がい学生への支援については、学内の現状や具体例の報告も含め、１年間に２回くらい実施していただけると継続的に実践的知識が身につき実践に役立つと思います。
・障害学修支援とは別に、学生相談・カウンセリングという学生支援では、実際にどのような支援が実施され、学生生活の充実化につながっているのかを教職員が理解し、また、教職員が学生たちを「ラベル・レッテル貼り」をしない形で学生支援につながるにはどのようにしたらよいのか、また、学生支援との連携の在り方などといった具体的な対応方法に関する知識・知見を深めるような講演会・研修会があるとありがたいです。ご検討の程、宜しくお願い致します。
・今回のようなテーマは新たな気づきがあり、FD研修の場で取り上げていただく意義は大きいと思う。

**［教育内容・方法等］**
・授業設計（インストラクション・デザイン）など
・大学の授業のありかた。創造的な学びを保証するカリキュラムのありかた。
・企業が学生に求める資質やスキルを、「コミュニケーション能力」のような捉えどころのない表現によるのではなく、具体的・建設的な表現で示してくれる内容のもの。企業は、本来、「この会社のビジネスに必要な人的資源」が何であって、「その獲得にこれだけのコストをかける」、という認識を持っているはず。その一端だけでもわかれば、学生に学習のモチベーションを与えやすくなるし、カリキュラムの改善にも資すると思われる。
・大学は教育の場でもありますが、本来研究する場でもあります。従来の知識を増やす教育から、自分で問題を見つけて考える人材が求められています。自分で考える女子大生を増やすためにはどのような手段を講じたらよいのか、講演会や・研修会で行っていただくと有難いです。
・国家試験関連科目のアクティブラーニングに関する具体的取り組み事例
・初年次教育やキャリア教育など、入口（導入）と出口（送り出し）に関わるテーマを、本学の課題と切り結び形で取り上げることを期待したい。
・全学共通教育を中心に、（語学を含む）リテラシー教育の今後、全学的対応について検討してほしい。
・令和７年度入試の新課程学生に対応する事例の紹介
・ハイブリッド授業構築に向けての効果的な教授法
・オンライン授業における成績評価に関する事例など
・遠隔授業関係がいいと思います。
・対面授業とオンライン授業、結局学生はどちらが自らの成長に寄与すると思っているのかを知りたいです。今年度はオンライン授業に学生が流れたようで、せっかく再開した対面授業の履修者が少ないです。でも、その数少ない学生たちはとても意欲的で教室での双方向授業が非常に進み、「来年からも人数を限定して対面開講できたらいいな」と思ったりもします。学生はこの数年、何を考えているのでしょうか。もしかしたら、卒業要件を満たすための授業はオンラインで、関心のある授業は対面で受けている？？といったことを、本学だけでなく全国的な視点で分析されている方がいらしたら、お話を聞いてみたいなと思います。
・授業評価アンケートの活用について意見を交換したい。
・本日のような時代・社会の変化に応じた大学教育のあり方（学生への対応）についてお聴きしたいです。
・学生が抱えるストレスに関連したテーマのような研修会、学生のやる気を起こさせるような評価方法に関する研修会
・話し方の講座。授業をより楽しく、学生を寝かせない話し方、効果的な伝え方など。
・卒業研究の位置づけについて。
・ゼミ運営に悩んでいますのでそうしたテーマを望みます。
・コロナ禍、日本の大学の未来について
・大学におけるダイバーシティ・インクルージョン。
・大学の国際化
・高大連携の実践事例などには関心があります。また、社会人の学び直しにおける大学の役割や動向にも関心があります。
・法人及び大学としてのSDGｓ戦略（他大学の実例）

・ハラスメントについて。
・ハラスメントをなくすために、知識を得るだけではなく自身を振り返ることのできるような研修をぜひ行っていただきたいです。
・希望するテーマ・内容：①ハラスメント講座　②救命救急講座（AED の使用方法以外）
　希望する実施方法：①全教職員への受講義務化・オンライン受講　②対面実習
・近年保証人とのトラブルが増加傾向であると感じている。トラブルを避ける対応方法があれば学びたいです。

**［講演会（研修会）の実施方法等］**
・毎回、貴重な講演を拝聴するが、「本学では講演内容に関してどのような対応をしていくのか」、大学組織としての方針を提案していただきたい。その提案に関して学内で議論することが、講演者に対する謝意かと思われる。
・今後もこのように、後日の視聴を可としていただけるとありがたいです（当日も出校していたのですが、同時刻に学生に関する緊急対応が入ってしまい、リアルタイムでは参加できませんでした）。
・対面、オンライン講演、どちらでも構わないが、開催日時が都合の悪い場合もあるので、今回のように後日録画により聞くことができるようにしてほしい。
・スライドが見やすいので、オンラインでの開催を継続して欲しいです。
・オンライン開催で、後日動画配信してもらえると、開催日当日に途中までしか参加できなくても、後日、再度視聴することもできるので、できれば今後も継続して欲しい。
・当日に参加ができない場合のために、後日に視聴できる開催方法はたいへん助かりました。
・オンライン開催ですと重要な部分を何度も聞くことができてよかった。
・オンラインでの開催・動画の視聴での参加可は、参加しやすくありがたかったです。今後も可能ならこのような形であればありがたいです。
・録画映像の視聴に統一ください。
・希望するテーマ・内容は特にありません。実施方法は、今回の方法（リアルタイムと録画視聴とから選べる方法）が受講しやすかったです。

以　上

（２） FD 講演会：「学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業
－大学におけるＰＢＬ－」

① 被服学科における創造性あるＰＢＬと波及効果－学生自らが動くゼミナール－
家政学部被服学科　吉井　健　教授

② 企業人とともに学ぶ社会連携事例－リーダーシップ教育－
株式会社イノベスト　代表取締役　松岡　洋祐　氏

日時：令和4年12月16日（金）16:30～18:00　Zoomによるオンライン開催

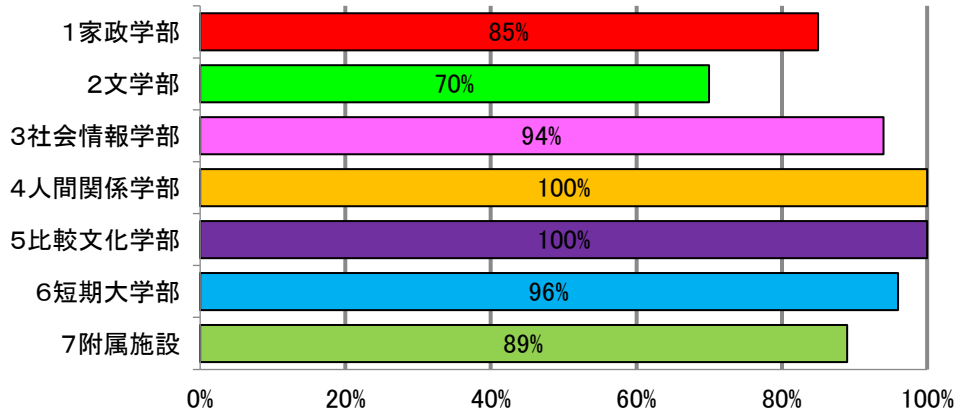
# FD 講演会アンケート集計結果

＜ テ ー マ ＞　学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業−大学におけるPBL−
＜講演内容＞　前半：被服学科における創造性あるPBLと波及効果−学生自らが動くゼミナール−
　　吉井　健　氏（家政学部　被服学科　教授）
　　後半：企業人とともに学ぶ社会連携事例ーリーダーシップ教育ー
　　松岡　洋佑　氏（株式会社イノベスト　代表取締役）
＜開催方法＞　Zoomによるオンライン開催　＋　録画配信
＜開催日時＞　令和４年１２月１６日（金）１６：３０～１８：００
＜録画配信＞　令和４年１２月２３日（金）～ 公開中
＜回答期間＞　令和４年１２月１６日（金）～ 令和５年１月３１日（火）２３：５９
＜未回答者＞　1月31日までのアンケート未回答者数（専任教員）
（研修等除く）　大家10人　大文9人、大社2人、大人0人、大比0人、短大1人、附属施設2人

【参加者（アンケート回答者）の所属】

| 所属 | 出席者 | | | 所属教員数 |
|---|---|---|---|---|
| | Zoom | 録画 | 合計 | 専任教員数 |
| 1　家政学部 | 24人 | 32人 | 56人 | 66人 |
| 2　文学部 | 5人 | 21人 | 26人 | 37人 |
| 3　社会情報学部 | 15人 | 17人 | 32人 | 34人 |
| 4　人間関係学部 | 29人 | 5人 | 34人 | 34人 |
| 5　比較文化学部 | 12人 | 9人 | 21人 | 21人 |
| 6　短期大学部 | 16人 | 8人 | 24人 | 25人 |
| 7　附属施設 | 5人 | 12人 | 17人 | 19人 |
| 8　助手 | 3人 | 17人 | 20人 | |
| 9　事務職員 | 4人 | 0人 | 4人 | |
| 合　計 | 113人 | 121人 | 234人 | |

【所属別参加率】

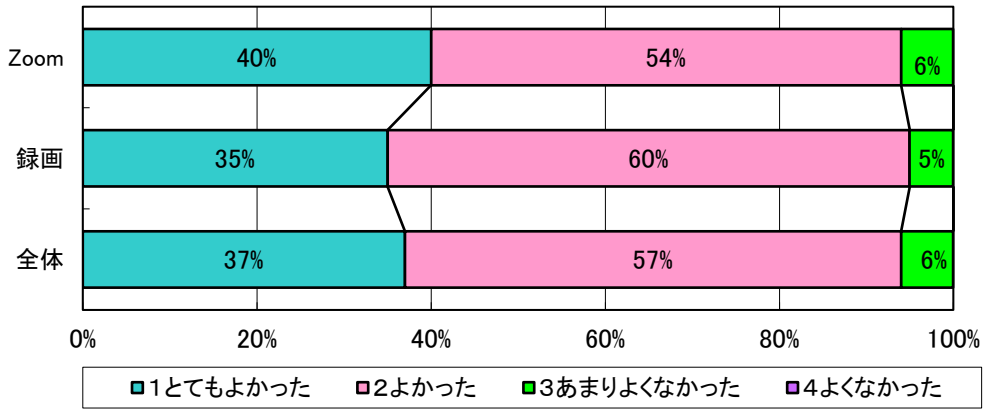


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 234 人分を対象）

問１　講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

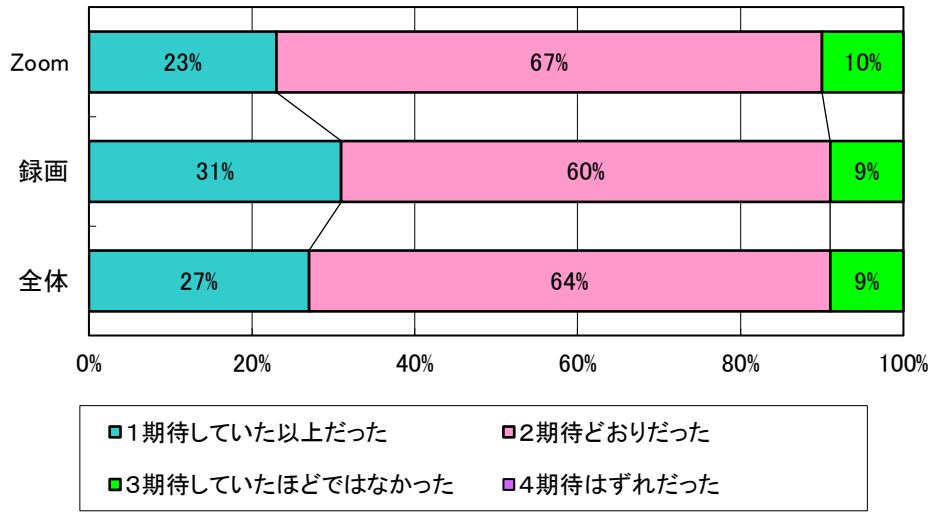
（１）講師について

| 選択肢 | Zoom | 録画 | 全体 |
|---|---|---|---|
| 1　とてもよかった | 45　(40%) | 42　(35%) | 87　(37%) |
| 2　よかった | 61　(54%) | 73　(60%) | 134　(57%) |
| 3　あまりよくなかった | 7　(6%) | 6　(5%) | 13　(6%) |
| 4　よくなかった | 0　(0%) | 0　(0%) | 0　(0%) |



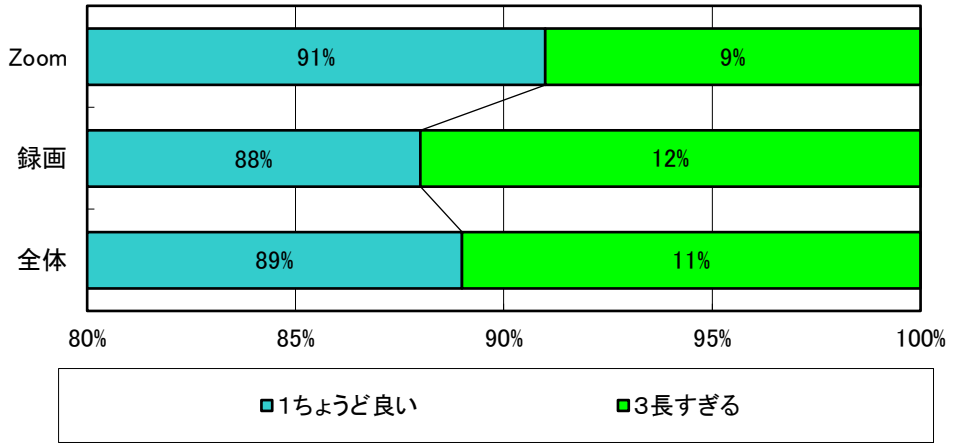

（２）内容について

| 選択肢 | Zoom | 録画 | 全体 |
|---|---|---|---|
| 1 期待していた以上だった | 26　(23%) | 37　(31%) | 63　(27%) |
| 2 期待どおりだった | 76　(67%) | 73　(60%) | 149　(64%) |
| 3 期待していたほどではなかった | 11　(10%) | 11　(9%) | 22　(9%) |
| 4 期待はずれだった | 0　(0%) | 0　(0%) | 0　(0%) |



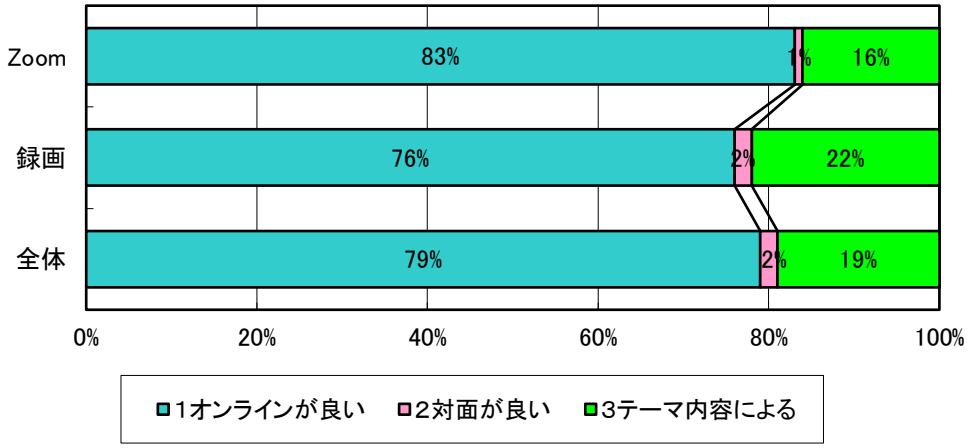
（３）時間について

| 選択肢 | Zoom | 録画 | 全体 |
|---|---|---|---|
| １ちょうど良い | 103 (91%) | 106 (88%) | 209 (89%) |
| ２短すぎる | 0 (0%) | 0 (0%) | 0 (0%) |
| ３長すぎる | 10 (9%) | 15 (12%) | 25 (11%) |




（４）開催方法について

| 選択肢 | Zoom | 録画 | 全体 |
|---|---|---|---|
| １オンラインが良い | 94 (83%) | 92 (76%) | 186 (79%) |
| ２対面が良い | 1 (1%) | 2 (2%) | 3 (2%) |
| ３テーマ内容による | 18 (16%) | 27 (22%) | 45 (19%) |



**問２　今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。**

＜前半の講師への感想・意見＞

・被服学科のPBL型授業の取り組みは学生にとって大きな学びと就職活動へのアピールにもなり、大変良い取り組みだと感じた。また学外へのアピール、特に受験生にとっても魅力的な授業になっている。ただ、PBL型授業は学科の教員以外にも事務の協力も必要になるので、全学上げてPBL型授業に取り組む体制づくりをしなければ、簡単には取り組めないように感じた。業者にPBL型授業を外注する方法は、学外へのアピールとしては手っ取り早い方法であるようには感じるが、学科の教員がどんなかかわり方をするのかを十分に話し合わないと教員の意識が高まらないような気がする。

・前半の企業と結びついた授業実践の具体的な紹介は同じ学部の教員のひとりとしてたいへん参考になった。

・家政学部被服学科のBPL教育の実践の教育を知ることができ、とても勉強になりました。学生にとって、学びを深めることができ、社会に出ても実践できると思います。また、後輩にも引き続き実践できるプロジェクトで、長年できると思いました。このような教育が他の学部でもさかんに行うことで、学生さんの活躍が期待できると思いました。ありがとうございました。

・多様な学生（興味、学力、家庭環境など）を一つの方向に向かわせることの難しさを感じるゼミでの実践は大変だと思いますが、具体的な内容で、大変参考になりました。ありがとうございました。

・吉井先生の学生へのサポートがかなりあるのではないかと感じました。それとともに、被服学科全体の姿勢も大事だと思いました。学生が中心で活動できるようなプログラムをどう提供できるのか、参考になりました。学科の特性をPDL学習にどうつなげるのか、考えたいと感じました。

・吉井教授の教え方（学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業）を賛成します。すでにこのようなPBLについて私の授業にやっています。Re Yousuke Matsuoka's presentation: I was glad to see his reference to Kouves and Posner (1987) Five Practices of Exemplary Leadership? which shows how our students can develop leadership styles that are appropriate to the 21st century.

・特に吉井先生の講演は、大変に参考になりました。同じ大学にいても、他学科の先生のゼミ運営の様子を伺う機会はないので、FD研修会で企画して頂けて、良かったです。

・ゼミでビジネスを体験しながら学べる事は多いと思いました。企業の実務経験からは、社会連携は大変有益であるものの、大学に企業の役割を求めているわけではないためバランスが重要であり、大学や教員が全面的にリードするより、たとえ綺麗な形や成果につながらなくとも、学生自身がリーダーシップを模索した取り組みを評価したい思いもありましたので、今後の教育に取り入れていければと思います。

・被服学科の活動は素晴らしい。だが目に見える形のものを生み出さない文学部の学びの場合は、別の方法やアプローチが必要だと改めて感じる。

・吉井先生のPBLの実践で、学生がビジネスにおける現実の課題を、身をもって体験したこと、またその経験を後輩に引き継ぐところまで教育のプロセスに組み込まれていることに感心しました。とても参考になります。

・問題解決型授業の展開について学ぶことができてよかった。家政学部の学生たちのブランドについては、新聞で見たことがある。洋服については、日本製そのものがずいぶんと減っているので、素晴らしい取り組みであると思っていた。今日の話を聞きながら、家政学部や経済経営などの学部では企業との連携が比較的容易に可能であると考えるが、リベラルアーツ系・文系の学部の性格上、企業との連携の形については難しいと感じた。むしろ文系の場合は、中学高校など中等教育課程との連携強化が必要ではないかと思う。一方で、本学で展開しているOMAなどは、PBL展開がやりやすいのではないかと感じた。

・吉井先生のゼミでの取り組みについて、詳しくお聞きすることができ大変勉強になりました。学生のやる気や能力を引き出しながら、実社会の活動と結びつけるのは難しいことだと思いますが、吉井先生の細やかな指導があってこそ順調に運営されているのだと思いました。自分のゼミ活動の参考にしたいと思います。ありがとうございました。

・吉井先生の試みを大変興味深く聞きました.学問が異なるので、PBLをどのようなアプローチができるのか考えたいと思います.

・被服学科の先生方の熱意やチームワークを感じました。企業との連携ができる学部学科ばかりではないかもしれませんが、挑戦していかなければいけないことはたくさんあると感じました。また、企業側が学生や大学と関わる視点で考えられたことは良かったです。企業だけではなく、地域や社会貢献という点で大学が関わっていく重要性を感じます。

・千代田/学部でCDPを運営&授業担当しています。吉井先生のご講演について、ゼミ単位でのPBL学習効果についてとてもよく理解できました。イノベスト松岡様のご講演について、提携先を外部委託で探してもらえるメリットがよくわかりました。

・マールTokyoというものがあることを初めて知りました。とても優しい色あいで素敵だと思いました。

・他学部他学科でこれほどPBLを展開していることを知ったのが、たいへん刺激的であった。

・大学と企業との連携の事例は参考になりました。女子大ブランドをもっと推進できるものと感じました。

・被服学科のゼミ，卒論におけるPBLの取り組みの事例が大変参考になった。

・大妻女子大学の学生の取り組みを知ることができ、良い機会となった。

・ゼミの PBL が吉井先生のご苦労の上に成り立っていることを実感いたしました。先生の指導力に感服いたしました。前任校でも PBL は数多く実施してきましたが、企画型の PBL では学生が言いっぱなしになることが多く（挙句の果てに何か言えば仕事になっていると勘違いする学生が出る始末）、実施も含めて PBL を行える事例は大変有意義と感

じました。また提携先は教員の個人的なつながりで実施することが多かったのですが、今回のイノベスト様のように第三者が介在することでより効果的にPBLを実施できる可能性に気づきました。
・学部や学科の特徴によって、すぐに同じようなことが行えるかどうかはわからないが、少なくとも他の学科での取り組みを知ることが出来たことは良かった。
・実施されている本学の先生方の熱意に感心致しました。
・学生が主体的に社会活動に参加しているゼミ活動の様子が分かり、とても勉強になった。
・ゼミ活動について、全学的に共有できる機会があると嬉しいです。
・個人研究室の活動はもちろん、学科としての活動状況が良くわかり良かった。事例が多く出てきたので、今後のFD活動がと取り組みやすくなった。良いテーマであった。
＜2人の講師への感想・意見＞
・講演者によって評価が異なります。吉井先生の講演は被服学科の学生への取り組みがわかり有意義でした。松岡氏は、PBLの講演よりも会社のPRの説明が多く、全学FD講演会の開催趣旨との違和感を感じました。
・前半はとても参考になったが、後半は単なる営業トークの繰り返しで、まったく参考にならなかった。
・被服学科の取り組みに関しては、以前から興味をもって拝見させていただいています。学生への指導の熱意とそれに応えて活発に活動する学生の姿は、今後の大妻にとっても素晴らしい姿として映りました。商品開発という点では、様々な大学でも次第に着手されているので、大学間で交流したり競い合ったりという形が今後見られればと思いました。松岡氏のお話に関しては、イノベストの現状がよく理解できましたが、他のコーディネーターのお話も伺いたいと思いました。それぞれにスタンスが異なると思いますので。
・吉井先生のお話は、とてもわかりやすく、参考になりました。松岡様のお話も、貴重な情報もたくさんだったと思います。ただ、盛りだくさん&時間内にという思いから早口でお話しなさっていたのが、もったいない印象でした。（少なくとも私自身は）PBLについて、基本的なことから理解すべき点が多々あり、それが十分には消化（理解）しきれなかった印象です。松岡様お一人でゆっくりと時間をとっていただいてもよかったのではないかという気がしています。
・吉井先生のお話は、実践例としてたいへんわかりやすく、学生の専門的な学びと社会とのつながりをつくるためのご苦労とその成果が理解できた。イノベスト代表の松岡さまのお話は、「リーダーシップ」というテーマからずれているように感じられるところがあり、企業側の要望と仲介業者のつながり方について理解できた感がある。学生がどのようにいい方向に変化したのか、実際のところがよくわからなかった。
・吉井先生の講演について、PBLの実践的型についてよく理解することができた。企業との下打ち合わせにかなり時間がかかっていることがわかる。吉井先生の熱意が伝わってきた。松岡氏の講演について、このようなことがビジネスになることを知った。本学でもCDPなどがこの活動であるように感じた。
・一つ目の講演は学生を積極的に勉強させるためにどうすれば良いか、実例を挙げての詳細の説明が、社会科学的ではない人文学科にとって、参考できるものが多く、実りの多い講演会でした。二つ目の講演では、社会とのつながりは、ただ教員と学生の工夫だけではなく、仲介とする会社関係の方々にも協力してもらえることがわかり、今まで深く考えなかったことに、新しい知識やヒントを得ることができました。
・吉井先生の事例により、本学科においても取り組むことができそうだと意欲を感じることができました。後半の方の事例では、意欲的でない学生、主体的でない学生、またはそこから落ちこぼれた学生にはどのように対処するのか気になりました。最初は学生が意欲的であったが、徐々に減退していくといった感想を聞く機会がありますので、その対処方法が知りたく思います。
・＊吉井先生・・・アクティブ・ラーニングとしてのPBLについて、自身の授業の内容、そして他のゼミの取組み等、大変具体的に紹介されていて、よく理解できた。＊松岡先生・・・他大学の取組みを紹介して下さったことが、大変参考になった。また、企業主体ではなく、「学生にとっての学び」を重視されていたことは、大変好感が持てた。
・吉井先生のご講演では実践体験型PBLをご紹介いただき、とても素晴らしい取組を実践されていることが拝察でき、多くを学ばせていただきました。一方で、ご説明にありました、グループの組織化、情報収集、全体コンセプト設定と商品企画案、企業へのプレゼン各種調整、使用素材の研究・検討、パターン関係打合せ（サンプル制作）、撮影作業、サイト売り場作り、実証分析・研究発表、次年度計画立案などの各プロセスで、学生主体の部分以外に教員の負担（各種調整や指導など）がかなりのものになるのではないかと思ったりもしました。株式会社イノベストの松岡様の熱意あるお話は、「学生の視点に立った学び」との関連で社会連携のあり方や持続的な実施について、一つの方法をご提示いただき認識をさせていただけました。
・吉井先生の講演はゼミ紹介の印象が強かったがFD研修としては良いと思う。（株）イノベストの話は半分以上企業宣伝であり、FD研修として相応しくないと思う。内容も新しさが無かった。
・千代田校のゼミの様子を知る機会は今まであまりなかったので非常に貴重でした。ゼミ活動の波及効果が高校生への広報まで連続していることが分かりました。多摩キャンパスならではのPBLに準拠したゼミ活動も工夫次第でできるのではと考えるいい機会になりました。また、松岡様の講演の熱量に圧倒される思いでした。企業を動かす個人の熱意がオンライン越しに十分伝わってきました。準備、運営等をご担当くださった先生方、事務局の皆様に感謝申し上げます。
・「本気の大人」との協働作業から生まれる緊張感が、学生の職業意識の涵養のうえで非常に有意義であることを両先生のお話から学びました。
・2人の演者ともに話がわかりやすく、もっと自分自身も学生が主体的・協動的な学びになるようなカリキュラムを構築敷く必要があると感じました。短大の事例があるともっと良かったです。

・被服学科における産学連携およびPBLの取り組みについて理解できた。大学における社会連携とリーダーシップ教育について理解できた。
・吉井先生のご活動について詳しくお聞きすることができ、とても良かったです。また、PBLにおいて外部企業の手助けを得るという方法は非常に興味深いのですが、既存の科目に適応したいと考えた場合、どのような問題が生じるのか（可否・教員持ちコマとの関係、提携窓口など）について気になります。
・吉井先生のご講演の第2部については、被服学科の学科紹介的な内容になっており、出来れば第1部の内容でより具体的な説明をしていただきたかった。松岡氏のリーダーシップ教育については、実学分野では大学教育の中で十分生かされると思ったが、人文学分野ではやや実践が難しいと感じた。多くの大学で導入されているとのことであったが、キャリアデザインを語るには、もっと経験値の高い人材のほうが適当ではないかと思う。
・家政学部の先生方の取り組みは、たいへん参考になりました。比較文化学部では、企業といっしょに何か行うことは難しいですが、プロジェクトを通して学ぶというのは参考になります。Reseach Based Educationに関心がありますので、興味深く聞きました。第二部のお話は、他大学の取り組みを知ることができて興味深く思いました。ただ、ご講演の先生の会社の取り組みの紹介、というのは、ほぼ営業のようなものであり、全学ＦＤでうかがうのにふさわしいのかどうか、という疑問の声はなかったのか、気になりました。
・吉井先生の講演については吉井先生ご自身の取り組みだけではなく、家政学部被服学科としての取り組みがわかり良かったです。こういう取り組みは個人の情熱がベースとなっていますが、それを組織の力にすることが必要だと感じます。2つめの株式会社イノベスト様の講演については、このような取り組みに対して単純に外部委託するのではなく、学内のプラットフォームが必要です。今回イノベスト様の代表的な顧客として紹介された早稲田大学と共立女子大学はいずれもこのような外部講師の受け入れに対するプラットフォームが整備された大学であると感じます。
・マールトウキョウの活動については興味を持っていたので、今回、ゼミを率いる吉井先生の実際のお話を伺うことができて、大変勉強になりました。実践体験型PBLを形にするためには、先生方のきめ細やかな学生指導（グループを作る際に面談を行うという点もなるほどと思いました）と、イノベストの松岡さんがご指摘のように企業との橋渡し機能が果たす役割、すなわち関係づくり&継続の力が非常に大きいのだなと感じました。学生さんが本気で活き活きと学びを深め、成長を遂げていく姿を見られるのは教員としてはやはり嬉しいことです。ここで得られたエッセンスをぜひ参考にさせていただきます。ありがとうございました。
・前半について。キャリア教育に繋がる実践例として大変参考になりました。後半について。今回のテーマを実際に強化してゆくうえでは、その分野に特化した業種、専門家の必要性を感じました。
・吉井先生のお話で、被服学科の取り組みを知り参考になりました。㈱イノベストの松岡様の話では、企業参加（寄付/投資）目的が「社員のリーダーシップ開発（組織開発）」という視点が印象に残りました。
・企業との連携授業の内容を、授業担当者と企業側両側面、および大学と企業の間に立つ企業からの視点など、様々な側面から知ることができた。
・お二人の先生方のご講演を大変興味深く聴講させていただきました。吉井先生のゼミの取り組みは参考になりました。また、現在行っている地域連携のプロジェクトをさらなる形で拡大させたいと考えているところでしたので、松岡様のお話は非常に興味深く、是非ご相談させていただきたいと思いました。
・吉井教授のお話にあった、日本国内縫製工場と学生のコラボはただ学生との一時的なコラボではなく長期的に見たコラボレーションで縫製工場は国内の若者にむけての制作ができ、学生は毎年新しいものを作って提案していける良いサイクルになると思いました。商品、サイト、SNS等も本格的でひとつのブランドとして確立されているため今後どんなものが生まれてくるのかがとても楽しみです。松岡様の講演では、企業人と一緒に学ぶというワードが印象的でした。大学では企業の方の講義は多くありますが企業の方と学べる機会は少ない気がします。こういった取り組みが広がると社会人になったときに活用していけそうだと思いました。
・被服学科の各教員のPBLの事例は興味深かったです。各ゼミの横のつながりなどがあるのか気になりました。また、企業を探してくることが大変なことをよく先生方からも伺いますが、松岡様のような企業との連携やそこからのつながりができてくると、もう少し企業選びについても、負担感が減るのではないかと思いました。大妻学院として学生により良い学びを提供できることを第1に教職協働で進められるとよいと感じました。
・企業の収益性につながらないアイデアはどのように扱っているのかについても、お話しを聞きたかった。企業側に受け入れられなかった場合の不安を解消しないと、取り組む勇気がでないのではないかと思いました。
・PBLについて具体的な取り組みを知ることができました。各種体験や取り組みについて、いずれも体験するだけではなく、教育による効果測定を行っている点が大学における教育としては大変重要な意味を持つように思いました。学生の主体的な学びとその後の進路選択への影響などについても気になりました。貴重な機会をありがとうございました。
・学生と企業の連携を図りつつ、リーダーシップについて双方が主体的に学べる点が興味深かった。被服学科のゼミを通じた取り組みについて知れて興味深かった。

＜主に後半の感想・意見＞

・企業と大学の連携を取り持つ会社があることを初めて知りました。
・企業との連携について、その一例を具体的に知ることが出来たのは良かったと思います。
・イノベストさんの事業はすでに本学では2005年から構想し、ネットワークをつくりながら実行しているものなので、目新しいものはなかった。しかし、ここを活用させていただいてもいいのかもしれない。人を引っ張る力のみをリーダーシップとみなす嫌いがある中で、松岡洋佑氏のリーダーシップの定義は傾聴すべきであると思います。

・外部企業とのPBLの進め方や現状について、具体的に示されとても参考になりました。ありがとうございました。日向野先生のリーダーシップ開発には、非常に共感しており、学内の授業においても折に触れて、学生に教授しているものです。その一方で、今回の事例に出てきたようなプロジェクトに参加するまでの社会性や自我の確立が大きなハードルかと思います。企業との連携においては、企業の側からの視点で苦労に関しては、Innovst のような企業と委託・コラボしていくというのも１つですが、もう一方で、大学側の学生も、誰もが参加できるというものではない可能性もあります。参加する際のスクリーニングには、かなり準備やきめ細やかな進め方が必要になると思います。大学の魅力としては、「サクセスストーリー」としてのPBL&企業連携などがありますが、一方としては、様々なハードルや背景を抱えている学生に対しても「魅力」となるものを実践・アピールしていく事が非常に重要だと感じます。大学としての「魅力」の多様性についても、是非、検討していただきたいところです。また、学科・専攻レベルでも議論していくべきことだと感じました。
・2人めの御講演の中で、大学での学生対応が、企業研修になりうるというお話が印象に残りました。企業と大学を結ぶことがビジネスになっていることも面白いと思いました。
・とても意欲的で熱意も感じ、悪い印象を持ったわけではないが、後半は営業のプレゼンを聞いている印象だった。コーディネーターしてくれる企業を上手に利用して要領よく効果的な授業を展開しようということなのだろうと理解しました。
・「企業人とともに学ぶ社会連携事例」が興味深かった。信頼関係に基づいた講師を招くことはあった。人脈には限りがあるため、予算が許すのであれば、イノベストのような会社に依頼することも検討したい。
・両方のご発表には熱意を感じることができました。なお松岡様のお話においては、難しいかもしれませんが具体例（事例）をより多くご紹介いただけるとさらにわかりやすいご発表になったかと感じました。
・体験型PBLの実例を紹介いただき、高い学習効果が期待できることが実感でき非常に参考になりました。本学の教育目標であるリーダーシップの養成をどの学生に対しても実現することに対して、今回の実例を通して現実感をもつことができたのは意味があったと思います。
・企業側の意見を伺うことができて参考になりました。学生にリーダーシップを学ばせるということだけではなく、色々な関係者が関わることで教員・職員・部署間の連携が生まれるという言葉が印象に残りました。
・後半の松岡先生のお話で、現代のリーダーシップの考え方は権限のある人だけのものではなく、誰でもが発揮できる、発揮すべきものであるというのが、とても新鮮な考え方でインパクトがありました。どうしても、「リーダーは私ではなく誰か別の人」という考え方の学生もいると思うので、学生指導の際に参考にしていきたいと思います。
・企業からの視点でのお話が大変貴重であった。一方で、企業が求める学生の能力、資質と大学教育で培われる能力とのギャップを感じた。
・松岡洋佑氏の「リーダーシップ教育」の取り組みは興味深かった。とくに「企業人に学ぶ」のではなく，「企業人と一緒にプロジェクトに取り組む」という視点は，学生にとってもわかりやすく，経験を積める手法と感じた。また提携する企業側にもメリットがあるという話を聞き，大学ニーズの新しい可能性と思われた。
・松岡さんがしっかりしていた。もっとも、立教のリーダーシップ教育が確立した成果を受け継いでいるので、単に輸入するのではなく、各大学が教育の観点から内発的・組織的に試行していく必要がある。
・毎年新しく有意義な企画をしてくださり、FD委員会には感謝申し上げます。「社員もともに学ぶ」「評価ではなく、目の前の（＝現有の）人材に対するフィードバックを」という点が記憶に残りました。
・どちらの講演も非常に興味深く視聴させていただきました。企業連携については、当学科としても大変興味があります。
・提携企業のコーディネーター役として外部機関を活用するのは確かに容易ではあるが、教員の懸命な姿も学生はしっかり見ている為、可能な限り教員自身が企業開拓から丁寧に授業を行っていきたいと考える。

＜講演全体への感想・意見＞

・大学が＜聖＞の空間であり、社会が＜俗＞の空間である、という時代の終焉を迎えたのを実感した。これから、ますます産学共同の風潮は強まり、大学は、社会に役立つ人材の育成を迫られるであろう。大学生は、もはや、世俗とは無縁の４年間を過ごすことができなくなり、大学も、もはや、ひたすら真理を追究する砦ではなくなるであろう。もし大学が社会との連携を強めることを希望するなら、そのような大学は、専門学校に移行し、そこで、今回のような授業運営を展開してはどうか。
・就職を見据えた教育が喜ばれるということは痛いほど承知しています。しかし、私は大学の存在意義は労働者を育成することではないと考えているので、個人的には実りがありませんでした。
・企業と連携したPBLが適する専門分野・教科と適さないの専門分野・教科があるので、興味深い試みを知ることができたのは収穫だったが、私自身の専門分野と担当教科では、あまり役立たない内容であった。
・多くの日本の大学で、ある定型のフォーマットやフレームへ乗せながらPBL教育を推進しているような印象を持ちました。今やPBLは流行のスタイルであるということに気づかされました。個の強さや多様性を伸長させるのではなく、むしろ画一的で平板な答えを出す人間が多数育成されそうで、少々気になってしまいました。原点に帰って、学生たちが基盤になる知識や技能を高めていく点を重視して教育プログラムを構築するという視点についても改めて考察する必要性があるものと認識しました。
・PBLが教育として非常に有効なものであることはよく理解できた。しかしそれを実施するためには、相当に周到な準備ときめ細やかな学生への指導が必要であると感じた。今日紹介されたような実践例を、すべての教員が自力で行えるとは思えない。その点では現在本学で行われているCDPをカリキュラムのなかでもう少し拡大していくことのほうが

現実的ではないだろうか。他方リーダーシップの涵養という点に関しては、講師が必ずしも「長」になることばかりを意味しないのではないかと指摘していた部分に共感した。周囲によい影響を与えていく人材の育成という観点から、自分自身の授業運営を見直していきたい。

・本学で行っているCDPについて、見直す材料になったと思う。また、これまでの担当者の苦労（非常に大変であるとの意見）がよく理解できた。企業側の意義も重要であることがわかり、こうした授業の実施について十分な準備と双方の動機づけが十分に行われる必要があると感じた。また、十分な動機づけの上で実施されれば、双方にとっても有意義な機会となることも確認できた。

・学部学科の学びの内容（卒論として求められる最終成果物）によっては、ゼミの時間内で企業や団体と提携したPBL型授業を実施することは困難だろうなと感じましたが、ゼミに限らないのであればお話にあったような授業形態は有意義だろうと思った。ただ、学部学科内でこうした授業を導入する場合、キャリア科目で実施しているBPLと学部教育はどのように棲み分けを図るかは考えなければならないのかなと思った。また、授業として実施するなら「1回90分×15回」の中でマネジメントしなければならないにもかかわらず、現実には課外で主体的に集まったチーム（履修者）ほど、履修者本人の満足度そしてアウトプットの両方が高くなることを、私自身も経験（目撃）している。それができるチームとそうでないチームとがあるとき、そうした差をどのように消化させるのかが教員や関係者の力量なのかなと感じた。（単に導入するだけでなく教員の運営スキルも必要？）

・授業における課題解決型の取組みについては、企業では無く、市民団体や行政機関と行っております。その理由の1つに財源の問題は確かにあります。また、地域貢献の目的も持っており、市民団体や地域に還元する取組みとなると良いと思っているからです。反面、成果物だけでなく、評価、フィードバックの方法及び、連携先の関わりから、実践と継続性を求められる課題に取り組むことも多く、コーディネートと共に悩むところです。

・社会・企業連携の意義も、マッチング企業の熱意や努力もよく理解できますが、企業側の対応が高度化され、質が充実するほどに、学生側起因のトラブルも多数化、デリケート化することが予想されます。これは教育側、大学側の対処です。大学側の態勢を整えないと、本業である学生の思考力涵養の方にしわ寄せが起きかねません。OMA等の類似授業を充実させたり、そこで教訓を取り入れる工夫が先決と感じました。

・この度は興味深いテーマを取り上げていただき、ありがとうございました。産学連携によるPBL実践例を伺うことができ、社会との接点を学びに活かしている点がとても参考になりました。また、授業担当者個人で取り組める限界とFDとして組織的に取り組む体制づくりの必要を感じた良い機会でした。

・企業との連携を図る授業を継続していくためには、継続的な予算執行が必要であるが、現状では学内の競争的資金の申請および受領は各年であるので、難しいと感じた。

・大学と企業をうまくコーディネートできる力がいかに大切であるかを、つくづく感じました。また、企業や地域との連携には、教員、事務職員、コーディネーター他の関係するであろうすべての人々の、大きな熱量というか、パッションのようなものが必要なのだなあと感じました。

・私は保育系の教員ですが、保育施設を運営している法人・自治体・株式会社のアドバイザー（コンサルタント）をしています。その仕事に、ゼミ生をうまく参加させることで、「ゼミ活動」をPBL活動へと展開できると考えました。多くのヒントをいただきました。

・児童学科の場合、そもそも実習がPBL的な側面を持っているものと考える。ただ、そこからさらに踏み込むことの可能性についても示唆を得られた。とても勉強になりました。ありがとうございます。

・PBLの取り組みは、自分でもほんの少し行ってきていると感じました。児童学科は比較的取り組みやすいと感じています。今後も、学生の学びとして積極的に取り入れていこうと思っています。

・＜感想＞文系学部のPBLは企業側にはどうとらえられるのだろうかと思いましたが、お話を伺って改めて考えてみれば、それぞれの最も重視する部分についての捉え方やその背景の考え方から意見交換するとすれば、企業だけでなく、行政と3つ巴の関係づくりで、新しいプログラムが作れるのかもしれないと思いました。＜吉井先生への質問・・・ご回答は特になくてもいいので、こちらに書いておきます1）グループ分けの際に学生の特性を考えて配慮したとのことでしたが、具体的にどのように配慮されたのでしょうか。2）家政学部被服学科は、株式会社イノベストに依頼してリーダーシップ教育を導入しているのでしょうか。または、その必要はないとお考えなのでしょうか。つまり、導入の必要性がなく、独自の方法でよいと思われていらっしゃるとすれば、その理由はなぜなのか、どのような違いや良さが独自の方法にあるのかをお伺いできればよかったですのですが…。

⇒＜吉井先生から1)への回答：ご質問有難うございます。グループ分けに際し、配慮している点を申し上げます。

同じ学生でも、例えば、以下のように様々なタイプが見られます。①人前で話すのが苦手だったり、とてもおとなしい性格の学生　②比較的、自分の意見を強く出していくタイプの学生　③みんなの意見や悩みを聴き、調整を図っていくタイプの学生　④リーダーシップを発揮して、まとめていくタイプの学生　⑤友達が学内でも少ない学生　⑥率先して、目立ちたがる学生

例えば、上記のように様々なタイプの学生いますが、円満な人間関係を構築し、みんなで助け合い、グループで協働していけるように、班分けの際は組み合わせ面で熟考し、編成します。ゼミ長、もしくは副ゼミ長を分散させ、責任をもたせて班運営のサポートもさせています。＞

・質疑応答の中でもありましたが、文学部で扱うような学問分野においては、企業との連携はしにくく、PBLをどのように実践すればよいかのヒントはあまり得られなかったかなと思います。PBL自体は教育的には非常に意味のあるものだと思いますが、文学、芸術のような分野においてはそもそもこのやり方は質的に合わないのかもしれません。特に

PBL に固執することもないかもしれないと思いました。PBL の具体例がいくつか見られたのは良かったと思います。
・最後のまとめで山倉先生が文学部系は馴染みが薄いと言われている・・というお話をされましたが、教員自身が企業等の出身者だと、「産」側の会社の仕組みや組織運用などこれまで経験してきたことを踏まえてイメージして取り組めると思います。しかし、文系の場合、得てして教員自身が学部から大学院へ、そしてそのまま大学教員になった者が多いので、企業と相反する「学」の世界しか知らない場合があり(利潤追求のない世界)、産学共同といっても自身の「産」の経験がほぼ皆無なため、イメージが湧きにくいのではと思いました。
・私は普段、英語英文学科で教えています。文学を学ぶにあたっても、もちろん、自分の疑問点を出発点として、それを「解決すべき問題」として捉えていくようなプロセスは発生しますが、しかし、やはりどちらかといえば、一人で机に座って一人で考えるような時間が長くなっていくと思いますし、最終的に到達する結論にしても、自分が納得できるか否か、ということがまずは意義として大きいように思います。今回紹介された被服学科の PBL の事例では、学生たちが、社会に対して非常に行動的にアプローチをしていくことができる、ということに、大きな印象を受けました。物事を展開させるために、一人で考える時間も当然あるにしても、他の人たちと話し合ったり、今まで話したこともない人のところに話を聞きに行くことが必要になるなど、このような学習の中では、自分から動くということに抵抗がなくなるだろうなと感じました。学生たちを見ていると、社会とつながる、ということに、不安を覚えているような子も多いように思います。そのような学生にとっては、良い経験になるのではないかと思いました。
・PBL を具体的にご説明いただき、勉強になりました。また、文学部は企業連携が難しいとのお話でしたが、出版業界等との連携事例を伺い、今後は文学部でも学生のためにもそのような試みがなされるようにと期待しております。
・文学部にも参加できるというお話しがよかったです。
・PBL 授業についてとても分かりやすく、理解が深まりました。短大の 2 年間の学びの中でこのような授業をどうしたら取り入れることができるか考えていきたいと思います。
・大学の授業と企業を結ぶ会社があるとは知らなかったので、興味深かったです。文学部でも授業を行った例を少し出していただき、話を聞いていてとても面白そうとは思いましたが、短大では実践は難しそうだなと思いました。
・本学および他大学における事例を知り、PBL についての理解が深まりました。自身の授業でもどのような取り組みが可能か考えてみたいと思います。
・大学と社会との連携や、学生に社会との接点を持たせることは重要であると、改めて考えさせられました。本講演の中にはビジネスになる活動が中心に紹介されていましたが、私の専門分野では、ボランティアとしての活動がとり組みやすいと考えます。コロナ禍で中断してきた地域活性化の活動やコミュニティ活動などを、そろそろ再開し、学生の主体的で実感できる学びの場づくりに取り組んでいきたいと思います。一方で学生の主体的な姿勢をどのように引き出すか、とても大きな課題だと思っております。主体的に動くことが苦手な学生が多く、教員の誘導と沢山のサポートの上での活動になっています。いかに主体性を持たせるかについて、今後も検討していきたいと考えています。
・ご紹介いただいた授業方法をこれまで知らなかったので、とても参考になりました。
・主体的な学びの機会を企業との連携のもと、本気で作り上げていく過程を学ばせて頂きました。
・企業と大学との望ましい関係について、改めて考える機会となりました。社会貢献のあり方を互いの立場から模索するなど、目標を共有するために必要なことは何か、学んでみたいと思いました。
・学部の特徴，自分の専門性が一般企業とどのように関連付けることが出来るか，考えてみようと思った。
・学生の主体性をもたせるような工夫が必要であると感じました。
・社会連携を学びの一つの形としてとりこむことは、社会とのつながりが見えにくい学問分野であっても、その専門的知識を改めて理解する機会となると思いながら拝聴しました。
・アクティブ・ラーニングが推奨されて久しいが、卒業後の進路に企業が主軸となる学科における学習方法のシステム開発が進んでいることの実際を知る機会となり勉強になりました。
・個人的にも関心のあるテーマだったため、大変参考になりました。ありがとうございました。
・大学生の学びのメソッドの一つとしての連携の流れが伺えた。企業、企画、時代、未来への可能性を模索する場になっていた。これからの学生に与えられた新しいタイプの心技体が問われる良いチャンスにおもいました。
・PBL を採用・実践するうえで、主催する側のきめ細かな企画、準備の重要性を実感できました。
・PBL については、コーディネートする人材の重要性と、そうした人材を内部と外部で発掘して連携することが効果を高める要件と感じた。
・毎回の講演会をとても楽しみにしております。ですので、当日だけではなく、録画も何度も視聴しています。今回の講演会を、早速、シラバス作成にも役立てたいと存じます。
・教育内容を変革し、広報につなげることで、具体的な志願者増につながっている実践を聞かせて頂き、大変参考になりました。PBL で連携する上での、企業側にとってのメリット・デメリットも整理して下さったので、今後の連携作りの参考にしたいと思います。
・産学連携の具体的なイメージがもてたのは良かったです。分野、学科によってそれぞれ異なるとは思いますが、外への発信力が学生のモチベーションやまわりまわって大学を好きになるという流れはなるほどなと思いました。
・学生と企業との連携の重要性について感じた。これからの大学の在り方として、学生の主体性を活かし、さらに、社会への発信力も培う学びが必要だと思いました。大変参考になる講演ありがとうございました。
・本学の地域連携推進センターや募集広報 G にも、松岡さんのような活動ができる方がいると有難いです。
・事例紹介が豊富でよかったです。

・社会的貢献やSDGsなど、学生が広い視野で総合的に学べる点は参考になりました。
・PBLをしながら、学生が活発になるようで、期待できると思います。
・具体例をうかがうことで、大学と社会連携のノウハウを理解することができました。
・貴重なお話を聞けて良かったですが、PBLの基礎的なところをもう少し学びたかったです。
・2つの講演とも、具体例が多く理解しやすかった。
・学内と学外の取組を紹介していただき役に立ちました。

**問３　今後の講演会（研修会）で希望されるテーマ・内容・実施方法などございましたらご入力ください。**

**［今回のテーマ関連］**
・広義の社会との連携というならば、「産官学」と昨今謳われている視点から、「官」は利潤追求とは違う立ち位置なので、次回は「官学」での話があれば、「産学」とどういう視点や活動が違うのか、また別の可能性があるのかなど、比較もできるのではないかと思いました。
・今回の続編のような形で、実際に大学と企業といった文化の異なる主体が協力体制を敷いて事業を行う際、どのような難しさがあるのか。困難事例をどう乗り越えたのかといったものがあるとありがたいです。痛みをともなわずして、なにかイノベーティブなことは起こせないと思いますし、こうした例を提示いただけると実状も含めた理解が深まり、大変参考になるかと思います。可能でしたら、どうぞよろしくお願いいたします。
・本学全体（教養）でPBL型授業を実践しているキャリア教育の「CDP」についても、効果や問題点などを報告してもらってはいかがでしょうか。
・今回の前半部分では講師の方が所属する学会全体の取り組みについて触れられました。こうした学科単位で取り組む教育改善について知る機会があるとよいと感じました。
・別のアクティブ・ラーニングの例について他学部の例についても教えていただきたいです。
・学内での実践例は分野が違っても参考になります。次回もそれがあるといいと思います。
・本日のような学生の学びの連続化、自立化につながる事例を紹介いただくのもありがたいです。また、本日のテーマもそうですが、研究活動と教育活動が融合する事例も紹介していただきたくお願いいたします。
・人文科学についても、能動的な学習の可能性、教育と社会との関わり方について、より踏み込んだ詳細な紹介や報告を聞かせてもらえればありがたいです。
・商品（化）にかかわる活動ができる学科、ゼミについてはPBLはやりやすいが、人文科学についてはなかなかPBLの導入が難しい（講演の中でも言及されていたが）。後者についてのPBL導入例があれば本学全体のアクティブ・ラーニングの活発化に役立つと思われる。
・松岡氏に、さらに他分野の事例についてお話いただけるとおもしろいと思いました。聞いてみたいです。
・今日のテーマのように、外部と連携した教育のあり方とその実現のための考察について他大学の事例を交えた講演が望ましいと考える。
・今回は社会の、より資本主義に根差す部分と大学とのつながりというテーマでしたが、社会の異なる面と大学とのつながりに焦点を当てた講演会なども聞いてみたいです。
・PBLについては、具体的な進め方についても聞きたいと思います。
・どのような過程を経て、企業との連携していくのか、実践と方法について

**［教育内容・方法等］**
・学生のメンタルヘルスについて。
・学生のメンタルヘルス系の話を聞けたらいいのではないかと考えています。
・発達障害等の学生について、就職支援等も含めて勉強したい。
・発達障害を抱えている学生への対応の実践例について話しを聞いてみたい。
・ADHDなど学習障害のある学生の対応
・コロナ禍での学生の心のケア
・多様な学生への対応など、実践的な内容であるとありがたいです。
・現在の大学生の世代の育った環境から考え方などについて理解を深められるような講演も興味があります。昭和の時代とかなり違うため、ほめ方、しかり方、助言の仕方など色々戸惑うことがあるため。
・「コロナ世代」(!?)のコミュニケーション能力・社会性をいかに養うか、今年度特に苦労した。1年生が学生同士のディスカッションが出来ず、お互い黙ってしまうということが多々あった。「Z世代」の特徴について話してもらうのも良いかも知れない。
・講義における話し方
・Research Based Education
・高校以下の教育の変革に対して、大学のカリキュラムの変更が必要と感じます。例えばパワーポイントは今や小学校でマスターします。ICT関係のリテラシー、スキルは多くが高校以下で学んでいると思いますので、中等教育以下での変更を受けた高等教育の在り方について識者の方のお話を伺いたいです。

・コロナ禍以降のオンライン授業実施も含めた大学教育の変化に対する学生の学修意識に関してのテーマ
・総合授業（複数の教員がリレー式で担当する授業）の具体例とその実践、内容について
・オンライン授業の弊害とその対応などについて具体的に状況等を伺う機会があれば良いと考えます。コロナが始まってまる3年になると思いますが、それ以前には起こらなかった問題や対策に関して実例、その対応などをお話いただけると良いのではないかと考えます。
・反転授業って本当に有効なのか？かけている授業時間に比して、消化できるカリキュラム（使用テキストの進捗）量は満足いくものになるのだろうか。少し気になっています。
・ルーブリックを活用した実習系の事業の事例
・資格取得を支援する授業に関する工夫を聞いてみたいと思います。
・今後の大学改革の方向性について
・教育DXはいかがでしょうか。
・これからの日本の高齢化社会、国際情勢、少子化対策、年金貧困問題などにおける大学としてのやれること、やるべきことについて
・社会人の学びなおしの場としての大学のあり方
・女子大学のリカレント教育について
・学習到達度の測定方法、設置基準、補助金のしくみ
・受験人口減少における学生募集にかかる課題と大学の戦略・施策について
・入学したいと思える大学の魅力について
・大妻女子大学として少子化に向けてどのよう対策をおこなっているのか。
・学力の二極化と今後の教育方法について
・キャリアプランを入学初年度から、学生にどのように立てさせるか
・学生の起業、社会参画活動。学生が就職インターン等で3年生から大学の授業に集中できなくなる問題の対応について。
・就職支援や進学支援の具体的なやり方についてヒントがいただける講演を聞きたいです。
・ハラスメントについて
・ＳＤＧs

**［講演会（研修会）の実施方法等］**
・講演会の時期、方法等はちょうどよいと思います。
・開催日時に都合がつかず参加できない時が多いが、オンラインで後日配信され、大変助かる。今後もこの様な形式でお願いしたい。
・この規模の講演会の場合は、ライブ感のある対話よりも一方通行的な関わりが一番と感じます。今回の実施方法が一番理にかなっていると感じました。
・オンラインですと、スライドをよく見ながら拝聴できるので有意義です。
・家庭の都合で「対面」での出席が難しいため、後日配信してもらえるのは有難いです。
・Zoom開催ですと大変に参加しやすいので、今後もZoomで開催して頂けると助かります。
・対面ができるなら、ワークショップもしくはアイディアを創造する研修は参加したいです。
・実施方法について、オンラインですと録画もでき多くの教員が参加することができるため良いように思いました。本日も貴重な機会をありがとうございました。
・聞き逃したのだと思いますが、今回のご講演の2本立ての理由や意図はどこにあったのか、あまり理解できませんでした。FD講演会のご案内に、その部分を明記する必要があったのではないかと思います。案内を見れば、お話の効果の落としどころが、その都度確認できると思いましたし、また、最後のまとめの時間に、そこを強調されるようにまとめていただくと、意図がより理解できたと思いました。
・現状では、FDがPDCAサイクルに組み込まれていない。聞きっぱなしの講演会だけではなく、日常的に、教授会等の会議の一部の時間をFD委員会に当て、カリキュラム等の点検に当てる必要がある。

**［その他］**
講演会・研修会とは少々異なりますが、まずは、いま使われている manaba をもう少し使いやすくしていただけると、授業の質も向上するのではないかと思っています。たとえば、manaba の「小テスト出題」で、「問題一括作成(Excel/CSV/ZIP)(Excel/CSV/ZIP ファイルを用いてテストを作成するには、以下を選択してください。)」などの機能を本学でも使えるようにしていただきたいです。

以　上

# 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成１５年３月７日
制定

（設置）

第１条　大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、　本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下　「ＦＤ」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント　委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 副学長　１名

(2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科ＦＤ委員長

(3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長

(4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各１名

２　学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

（任期）

第３条　前条第１項第４号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。

２　前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第４条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) ＦＤの企画及び実施に関する事項

(2) ＦＤに関する情報の収集及び提供に関する事項

(3) ＦＤの実施に係わる支援及び評価に関する事項

(4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるＦＤ活動に関する事項

(5) その他、委員会が必要と認める事項

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

２　委員長は委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

（議事）

第６条　委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

２　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決　するところによる。

（委員以外の出席）

第７条　次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

(1) 事務局長、教育支援センター部長、多摩事務部長

(2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

（事務）

第８条　委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

（規程の改廃）
第９条　この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附　則

この規程は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１７年１月１１日から施行し、平成１６年１２月１日から適用する。ただし、第７条第１項第１号の規定は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１８年３月２３日から施行する。

附　則

この規程は、平成２２年５月７日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

附　則

この規程は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

# 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

| | | 令和4年度 |
|---|---|---|
| (1) | 副学長(委員長) | 山 倉 健 嗣 |
| 2 | 副学長 | 小 川 浩 |
| (2) | 人間文化研究科長 | 田 中 直 子 |
| (3) | 家政学部長 | 市 川 博 |
| | 文学部長 | 増 野 弘 幸 |
| | 社会情報学部長 | 藤 村 考 |
| | 人間関係学部長 | 福 島 哲 夫 |
| | 比較文化学部長 | 佐 藤 円 |
| | 短期大学部長 | 下 坂 智 恵 |
| (2) | 人間文化研究科 | 村 上 丘 |
| (4) | 家政学部 | 矢 野 博 之 |
| | 文学部 | 江 連 和 章 |
| | 社会情報学部 | 小 野 茂 |
| | 人間関係学部 | 山 本 真 知 子 |
| | 比較文化学部 | 行 田 勇 |
| | 短期大学部 | 中 村 邦 子 |